

令和6年度 佐賀市

『結婚・出産・子育ての意向 に関する市民アンケート調査』

報告書

1. 調査目的

本調査は、佐賀市民の結婚・出産・子育てに関する意向を把握することで、少子化の背景や現状等を明らかにし、今後の施策に反映することを目的とする。

2. 調査設計

- (1) 調査対象：令和6年（2024年）12月3日時点で18～39歳の男女
- (2) 対象人数：佐賀市在住 6,000人（有効回答数 1,877人）
- (3) 選定方法：住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法：対象者に依頼文を郵送にて配布し、対象者は依頼文記載のQRコードからオンラインで回答。回答期間中に督促を一回実施
- (5) 調査時期：令和6年（2024年）12月3日～令和7年（2025年）1月6日

3. 分析担当者

茂木良平（ポンペウ・ファブラ大学 政治社会科学学部 研究員、南デンマーク大学 人口学センター 助教）

調査結果の概要

本調査では、ライフコースの重要な要素である、「結婚」、「出産・子育て」、「就業」について以下の傾向が見られた。

結婚に対する意識を見ると、男女ともに約 8 割が、「子どもや家族を持てる楽しみや喜び」「精神的な安らぎ」といったポジティブなイメージを持っている。同様に、結婚意欲も高く、男女ともに 75～80%が結婚を希望している。これは、国立社会保障・人口問題研究所が行なっている全国を対象にした出生動向基本調査と同様の結果が得られた。

しかし、結婚意欲はあるものの、結婚に至っていない理由として最も多いのは「まだ適切な相手と巡り合っていない」であり、男性の 24%、女性の 32%が選択している。「異性とうまくコミュニケーションがとれない」も含めると、男性 33%、女性 36%となり、3 割以上の人が「パートナーシップ（交際行動）」に課題を感じている。また、男性の 7%、女性の 5%が、この交際行動を妨げている要因として「仕事の多忙さ」を挙げている。

経済的理由を結婚に至っていない理由として挙げている割合は、男性が 21%と高く、女性の 8%を大きく上回っている。これは、キャリア形成への不安や、結婚後の経済面を過度に見積もったり、夫が家計を支えるべきとする伝統的なジェンダー規範の影響を受けたりしている男性が多い可能性を示唆している。

一方、理想とする夫婦の就労形態は、「夫婦ともにフルタイム勤務」を希望する人が最も多く、男女ともに 4 割強を占めた。次いで、「夫はフルタイム、妻はパートタイム」という回答が、特に女性で多く見られた。夫婦ともにキャリアを築きながら家計を支え合うことを理想としている様子も伺える。

次に出産・子育てに関する意識に目を向けると、理想子ども数は「2 人」が最も多く、男性の 53%、女性の 49%が回答している。次いで「3 人」が多く、男性の 31%、女性の 35%となった。また、現在子どもが 1 人いる回答者のうち、約 95%が理想子ども数は 2 人以上と回答しており、現在 2 人の子どもを持つ回答者の約半数が、理想子ども数を 3 人以上と回答している。

一方で、「理想の子ども数は 0 人」と回答した割合は、男性 6%、女性 3%にとどまり、未婚者や無子の既婚者の中でも、意図的に子どもを持たないと考える人は少数派であることがわかった。

しかし、現在の子どもの数を見ると、2 人の子どもを持つ割合は男性 16%、女性 21%、3 人を持つ割合は男性 5%、女性 9%にとどまり、多くの人理想子ども数を実現できていないことが示唆される。

また、約 4 割以上の人「3 年以内に子どもを持つこと」に対して前向きな意向を持ち、男性の 22%、女性の 26%は「3 年以内に子どもを持ちたい」と具体的に考えていた。

以上の結果から、市民が自身の理想とする子ども数を実現できれば、出生率の向上が期待できることが示唆される。

佐賀市在住者が理想のライフコースを実現する際に直面する課題として、本調査から以下の3点が浮かび上がった。

(1) 現状の施策の認知度向上

佐賀市が独自に行う子育て支援策は11施策あり、それぞれについて満足しているかどうかを、現在配偶者がいる、もしくは子どもがいる市民に回答していただいた。その結果、最も多く満足していると回答された施策は「ゆめ・ぽけっと等の子育て支援施設」、次いで「子育てサロン」、「プレママ（パパ）教室」、「幼稚園での教育時間終了後の預かり保育」となった。しかし、最も満足していると回答された「ゆめ・ぽけっと等の子育て支援施設」でも、満足していると回答したのは、男性の33%、女性の38%にとどまった。

また、各施策の認知度を見ると、男性で半数以上に認知されている施策は「子育てサロン」のみであり、女性の場合は「プレママ（パパ）教室」、「子育てサロン」、「未就学児の一時預かり」、「ゆめ・ぽけっと等の子育て支援施設」の4つに限られていた。

ここで、上述の施策の満足度を、各施策を認知している人に限定して再度見てみると、各施策に満足している割合は大幅に増加した。特に男性の増加率が大きく、最大で34ポイントも増加している。以上から、子育て支援に対する満足度の低さには、施策の認知不足が関係していると考えられる。

施策の認知度の低さは佐賀市に限らず、全国的な傾向である。例えば、2023年度に福井県で実施された「子育て意識調査」でも同様の傾向が示されている。福井県では国の子育て支援策に加えて14の独自施策を行っているが、県民に広く認知されているのはそのうち3つにとどまった。また、中国社会科学院社会学研究所助教のShun Gongとシンガポール国立大学社会学部助教のSenhu Wangが日本を対象に調査を実施し、2021年に発表した論文によると、調査対象者の83%は、日本に17種ある家族手当のうち5つ以下しか知らなかった。

日本の少子化対策は国・都道府県・市区町村の3つのレイヤーに分かれ、手厚い保障が用意されている。その一方、住民にとってはその全てを把握し、自身に必要な情報を選択し、申請することが困難になっている。

以上のことから、短期的には施策の認知度を向上させる取り組みが有効だろう。まず、現行の施策に関する情報を住民目線でわかりやすい形に整理し、子育て世帯がアクセスしやすい場所で施策の情報を得られるように提供するだけでも一定の効果が見込まれる。この情報の整理には予算を大きくかけずに比較的容易に実施できる点でもメリットがある。

行政が市民に対して、能動的に情報やサービスを提供するアプローチである、プッシュ型の支援を将来的に見据えるためにも、「佐賀市公式 LINE による子育て情報配信」の認知度も上げたい。

施策の認知度が向上することで、各施策に満足を感じる市民が増えることが期待される。その上で、認知度が向上した状態で再度各施策の満足度を分析し、施策の質の向上に取り組むことが望ましく、こちらは中期的な目標となるだろう。

(2) 家庭内ジェンダーギャップの是正

多くの家庭では、理想とする家事・育児の分担を「夫婦で 5 : 5」と考えていることが明らかになった。特に、夫婦ともに正社員として働く家庭ではその傾向が顕著であり、約 6 割が「5 : 5」を理想と考えている。一方で、配偶者が非正規・専業主婦（主夫）などの家庭では、この割合が男性で 54%、女性で 45%に減少する。

しかし、実際の分担状況を見ると、「5 : 5」を実現できていると回答したのは、男性で 18%、女性で 16%と低い水準にとどまる。また、男性の 74%、女性の 81%が妻の負担の方が多いと回答しており、理想と現実の家事・育児分担には大きな隔たりがあることが明らかとなった。

理想とする配偶者の家事・育児の関わり方についても、男女ともに「休日も平日も、配偶者が積極的に家事・育児に参加している」ことが最多である。しかし、この回答割合には男女間で 15 ポイントの差があり、家事・育児分担や関わり方には男女差も見られる。

以上から、理想とする家事・育児配分や関わり方と実際の配分や関わり方には大きな開きがあり、特に過度な負担が女性に偏っていることが示された。

では、なぜ理想と現実には大きな差が生じるのか。その最大の要因として挙げられたのが「家事・育児に参加しやすい労働環境の整備や職場の理解促進」である。労働日数に目を向けると、子どもがいる男性の 24%、女性の 12%が週 6~7 日勤務している。また、法定労働時間である 8 時間を超えて働く人の割合は、男性で 53%、女性で 20%にのぼる。特に男性は、子どもがいる人の方が子どもがいない人に比べて長時間労働が多く（60% vs 45%）なっているのに対し、女性は子どもがいない人の方がその割合は高い（10% vs 31%）という傾向が見られる。

この傾向を反映して、平均的な勤務後の帰宅時間も男女間で差がある。50%の女性が 17 時または 18 時に帰宅するのに対し、男性はそれより 1 時間遅い 18 時または 19 時となっている。さらに 20 時以降の帰宅となる割合は、男性の方が常に約 2 倍多い。

また、1 ヶ月の平均的な飲み会頻度も、男女差が明確に出ており、約 6 割の男性が 1 回以上の飲み会に参加しているのに対し、女性は 33%にとどまっている。

このような長時間労働や飲み会に伴う帰宅時間の遅れ、そして週末出勤の影響が、家庭内の分担の理想実現を妨げる大きな要因となっている。三世同居が少ない居住形態を考慮すると、女性に日々の家事・育児負担がのしかかっている。しかし、他地域に比べて四国・九州地域は近居が多いことで知られ、本調査でも約半数以上の世帯が親（あるいは配偶者の親）と近居している。短期的には、近居している親のサポートが家庭内の家事・育児負担の偏りを軽減できる要素になりうる。

理想とする子ども数の実現に必要なものとして「配偶者との家事・育児の分担」が最も重要な要因として挙げられた。

半数以上の男性が平等な家事・育児分担を理想としていることを考えると、意識や意欲はあるものの、それを実現できない要因があることがわかる。その主な要因として労働環境が影響していることが示唆される。次項で説明するが、その労働環境の改善が、家庭内の家事・育児負担を促進し、ひいては、理想の子ども数の実現に繋がってくる。

(3) 労働環境の改善

(2) で見たように、家庭内ジェンダーギャップを生み出す最大の要因として「家事・育児に参加しやすい労働環境の整備や職場の理解促進」が挙げられた。

しかし、職場において子育てへの理解が十分にあると考えている人の割合は、男女ともに8割以上と高い。このうち、「こどもの世話等を理由に、仕事を休んだり早退・遅刻したりしても快く対応してくれる雰囲気があるから」と回答した人が最も多く6割前後にのぼる。

一方で、「労働環境の整備」と回答した人は、男性で32%、女性で27%にとどまる。前述の長時間労働や週末勤務を考慮すると、育休や時短勤務などの制度の充実、労働時間や労働日数の削減といった日常的な育児支援よりも、子どもの病気など突発的な事態に対する、会社の柔軟な対応や子育てへの理解を重視していることが示唆される。

しかし、これは、制度の充実や勤務時間の改善を希望していないことを意味しない。例えば、第一子誕生時に育児休業を取得した男性は23%にとどまっており、多くの方が育児休業などの制度が十分に整備されていないことに気づいていない可能性がある。

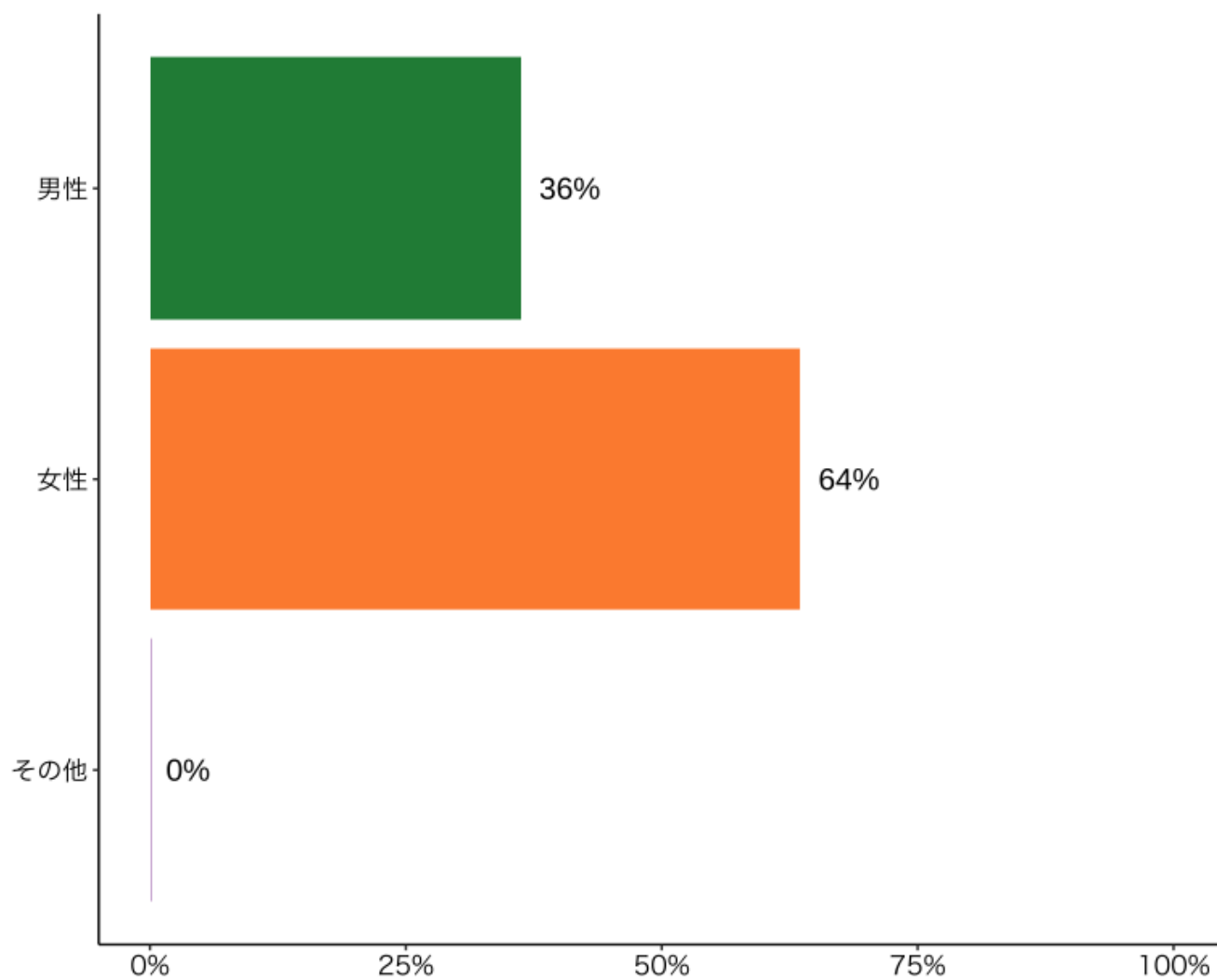
第一子出産後の就業状況にも、男女で顕著な差が見られる。出産前の仕事・職場に復帰した割合は男性で約9割なのに対し、女性は約5割にとどまった。また、女性の15%は新しい仕事にパート・アルバイト・契約・派遣社員として就業し、23%は仕事に就いていない。

最後に、佐賀市民の生活満足度は高く、男女ともに約4分の1の人が自身の生活満足度を10点満点中8点以上と回答し、半数以上が6点以上と回答している。結婚意欲、理想子ども数、理想の就業環境、そして理想の家事・育児分担を実現できる市民が増えると、生活満足度も高まり、佐賀市が目指す「高いWell-beingの暮らし」により近づけるだろう。

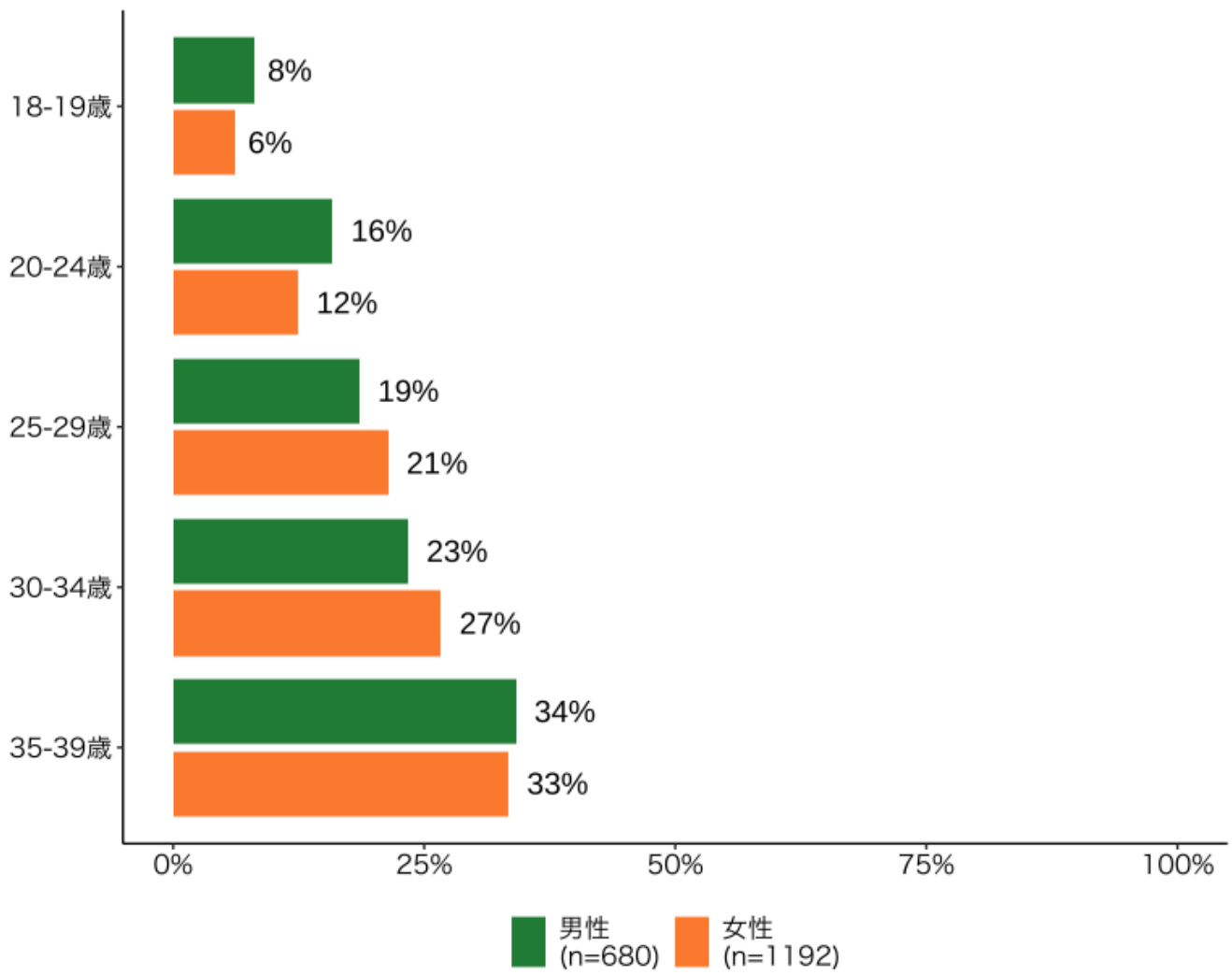
調査結果

1. 属性について

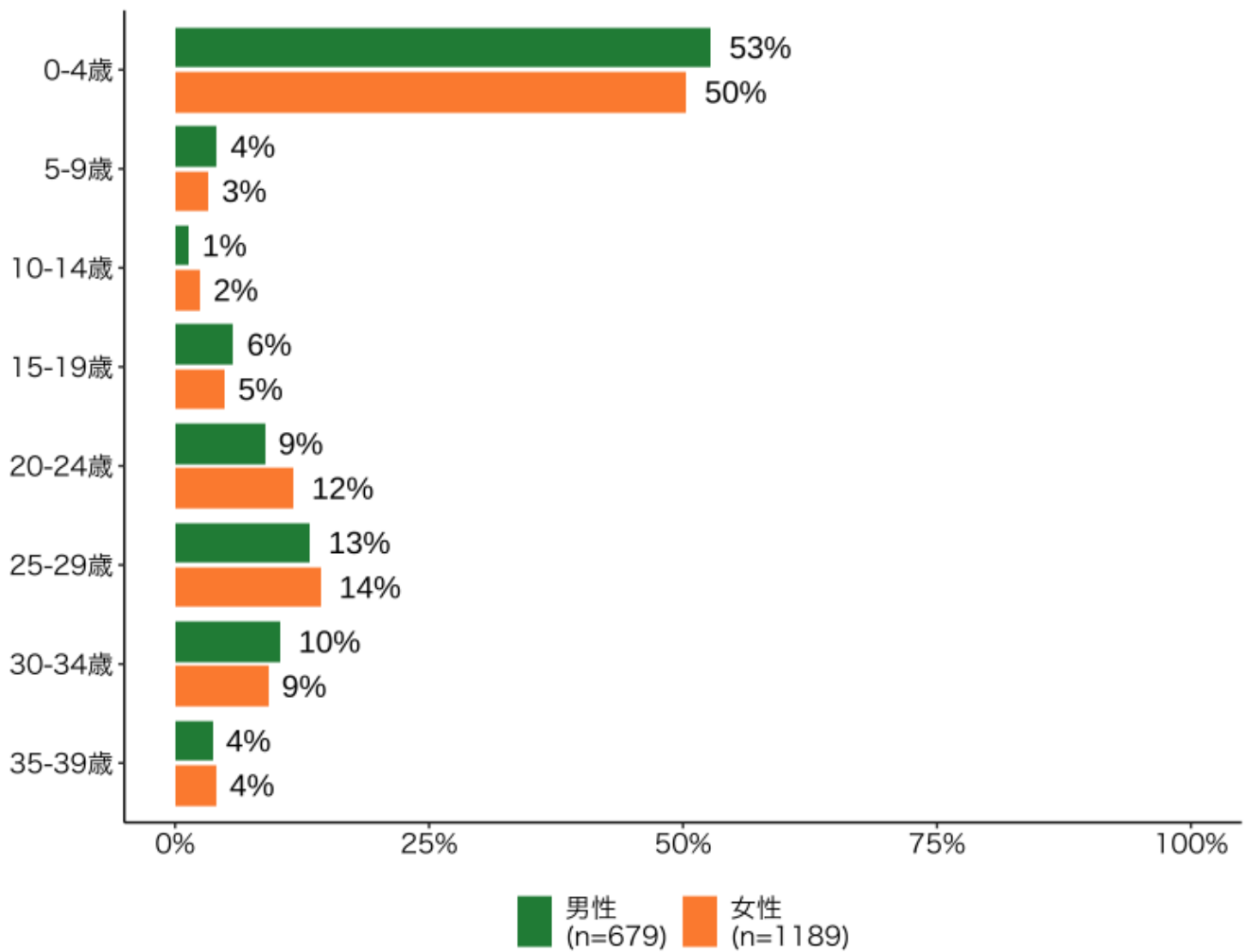
問1 性別【全員回答】



問2 年齢【全員回答】

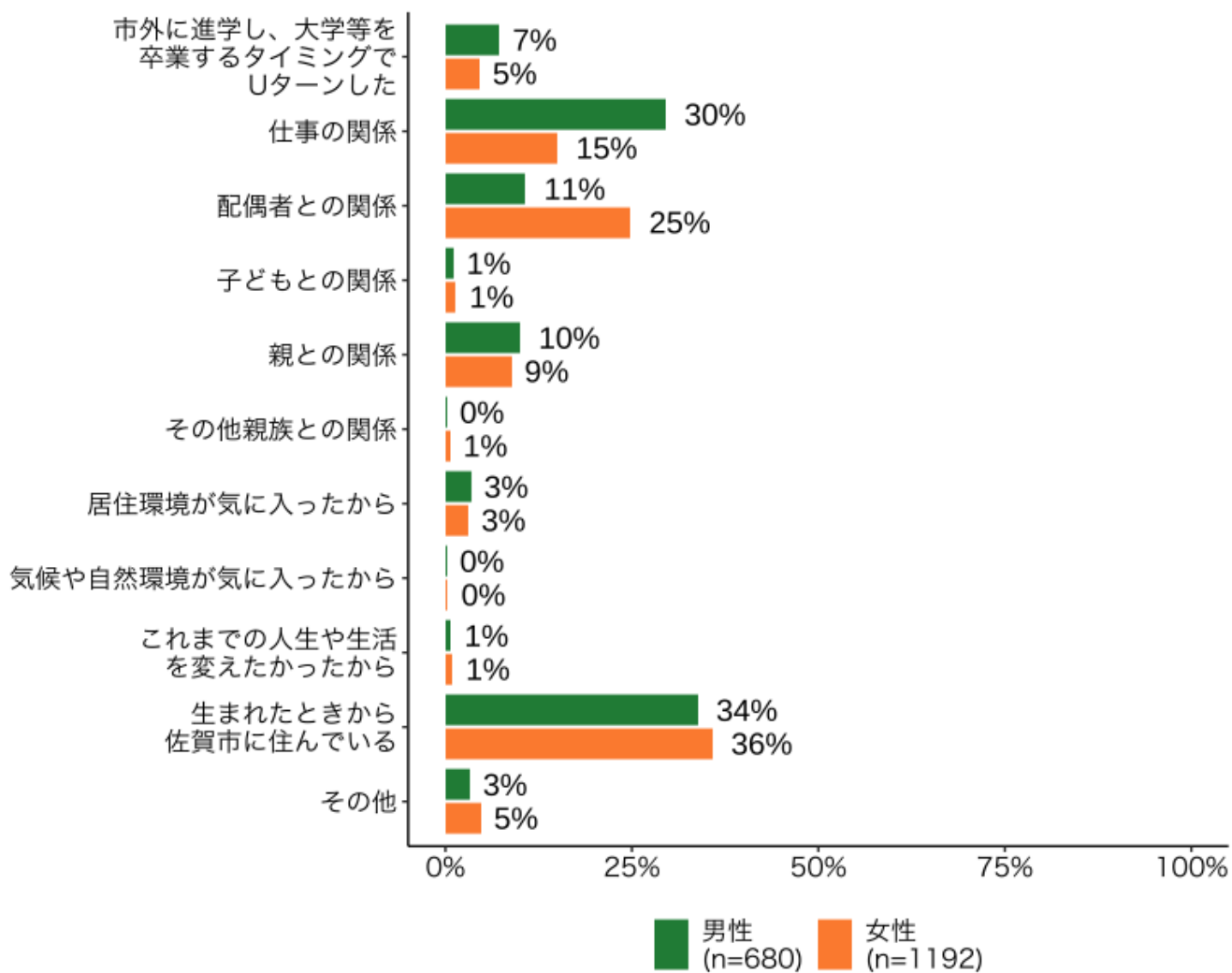


問3 佐賀市に住み始めた年【全員回答】

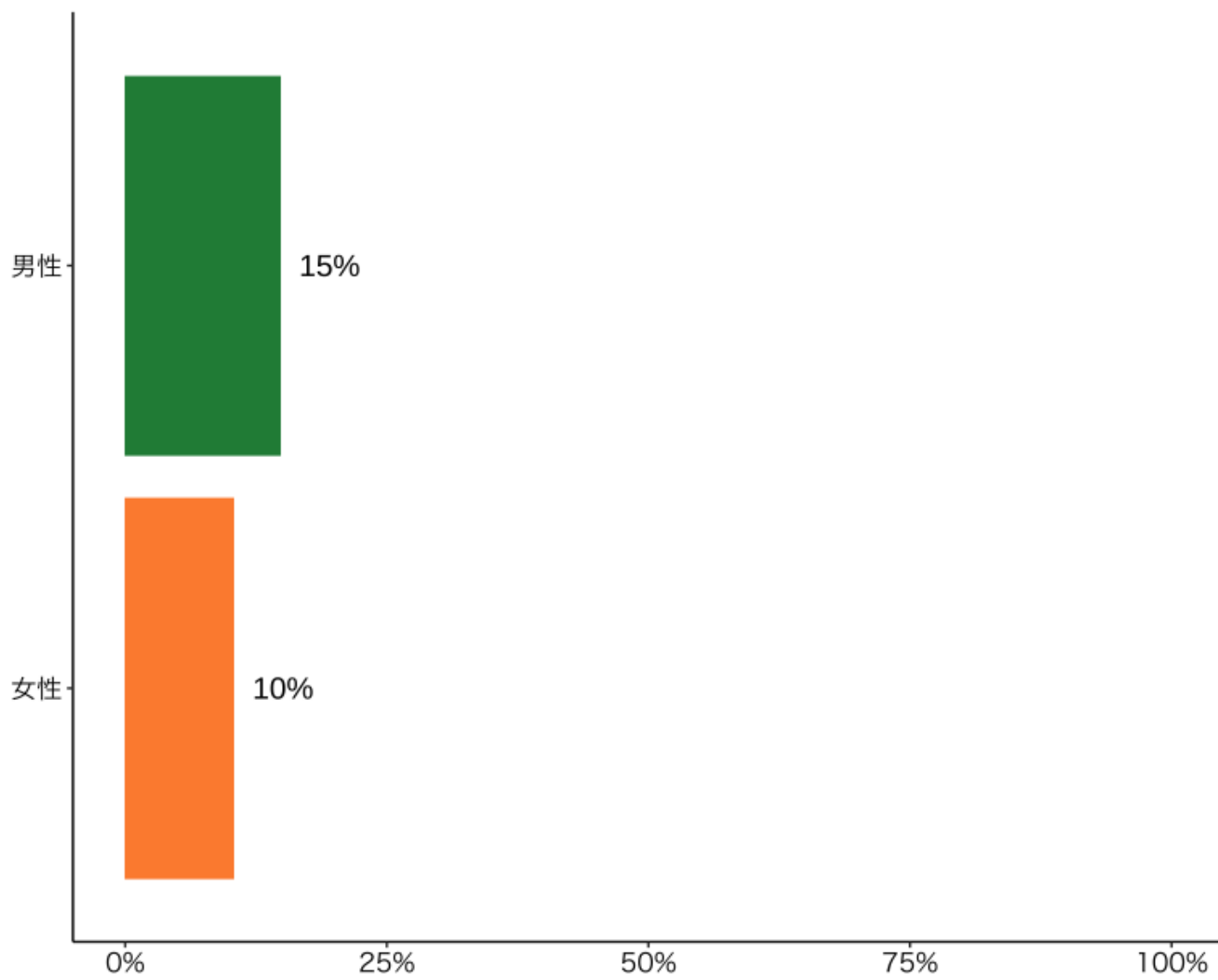


欠損値：男性に1ケース; 女性に3ケース

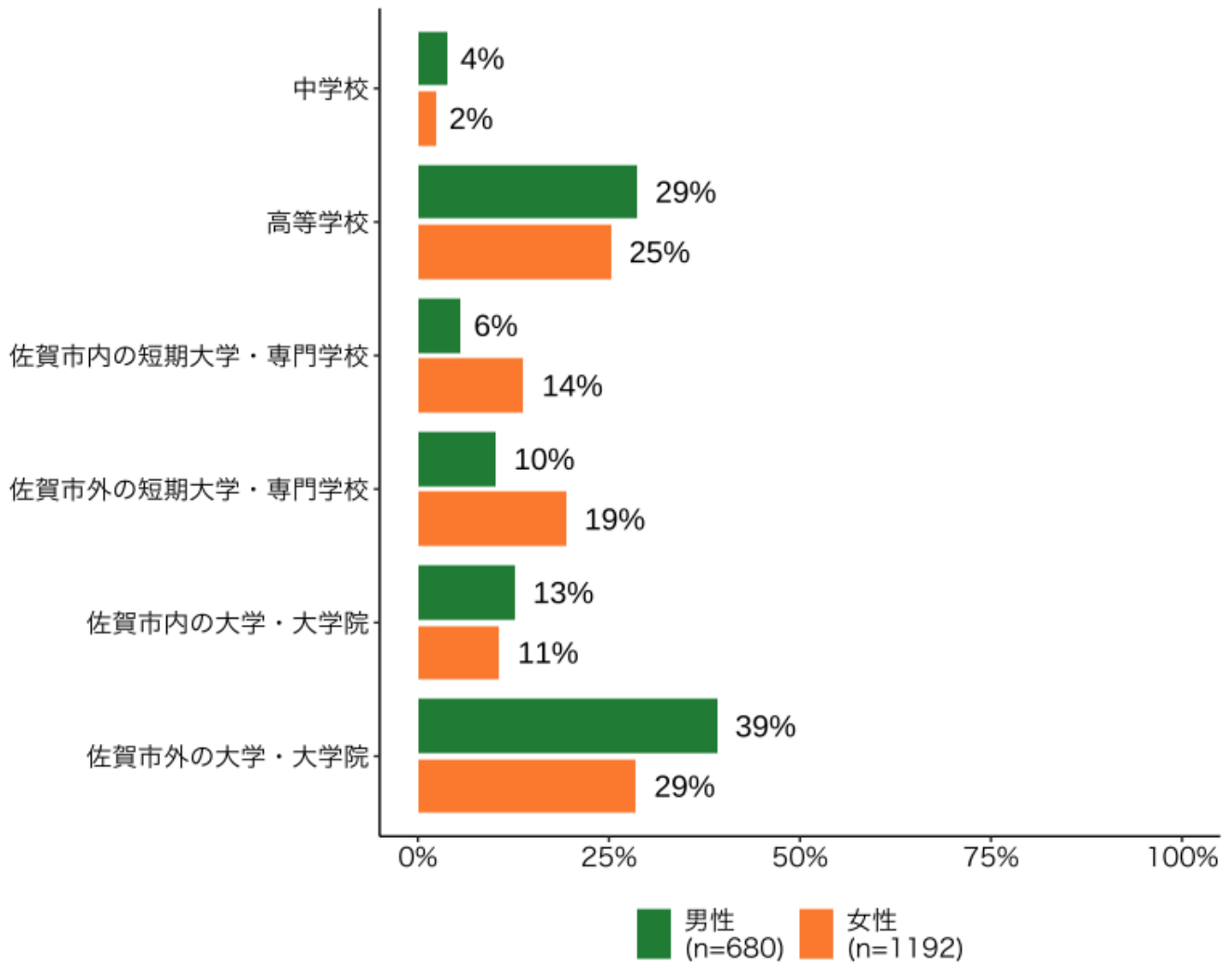
問4 佐賀市に居住している理由【全員回答】



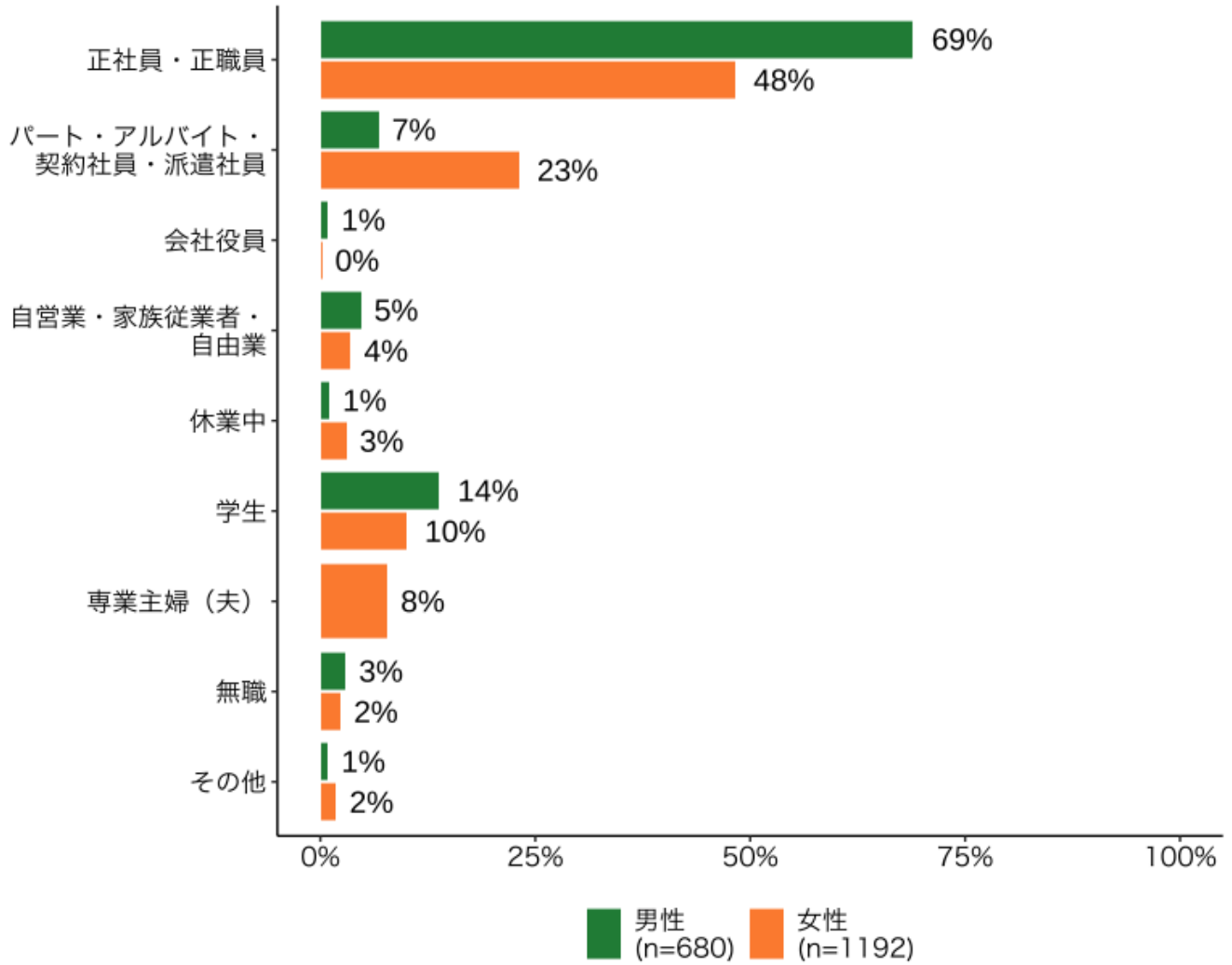
問5 在学・卒業の別【全員回答】



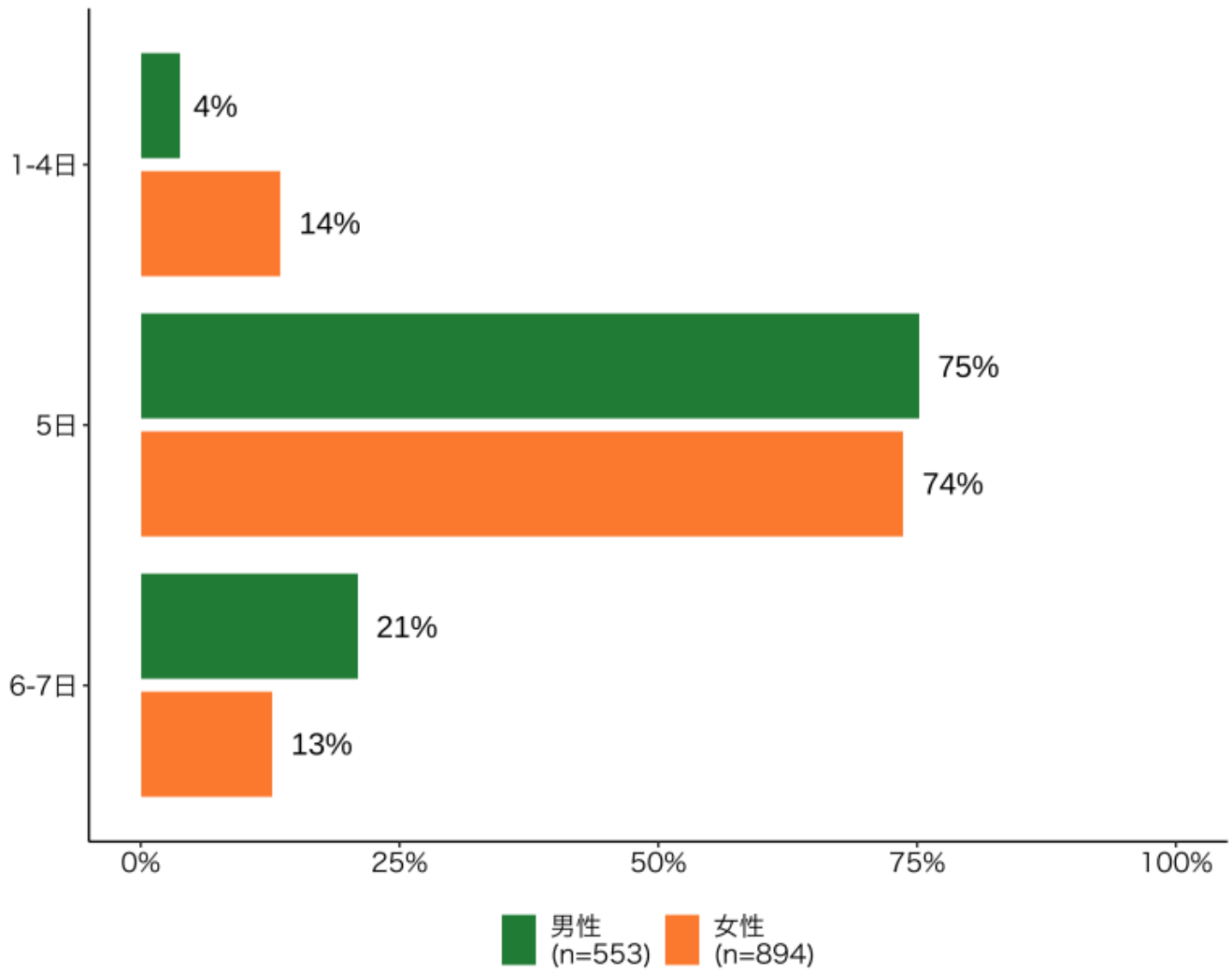
問6 在学中・最後に卒業した学校【全員回答】



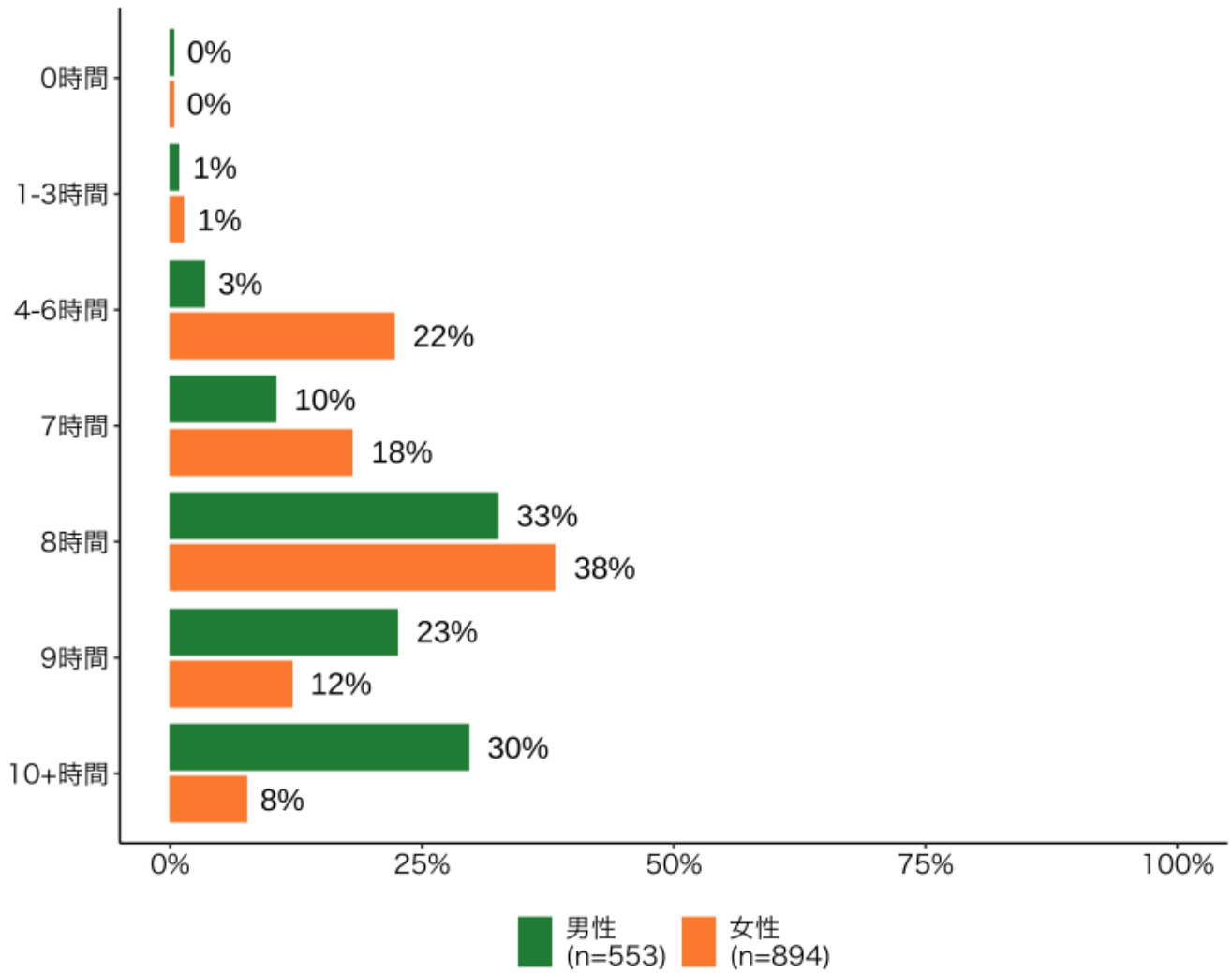
問7 就労形態【全員回答】



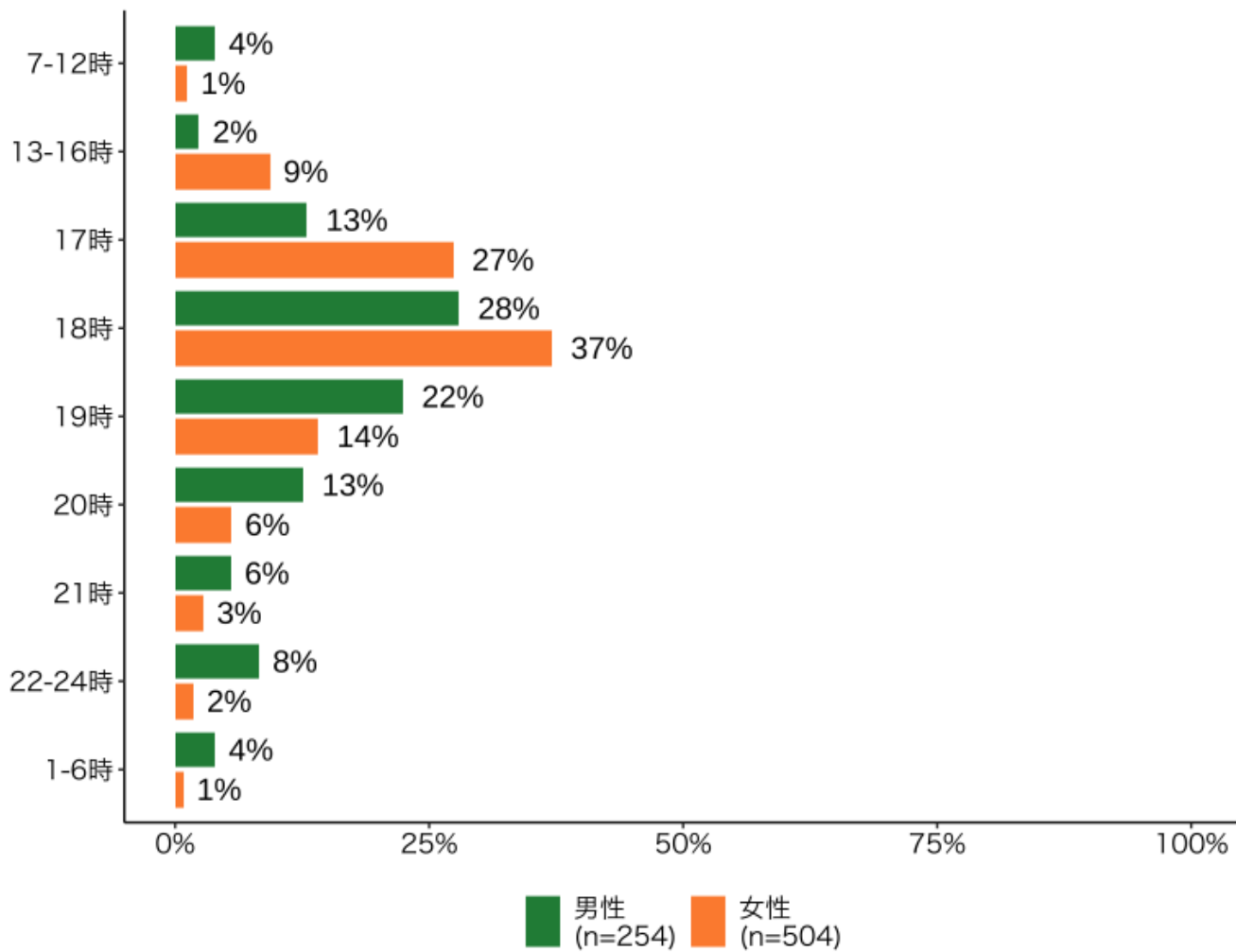
問8 労働日数【問7で1~4を回答した方のみ】



問9 1日の平均的な労働時間（残業時間含む）【問7で1～4を回答した方のみ】

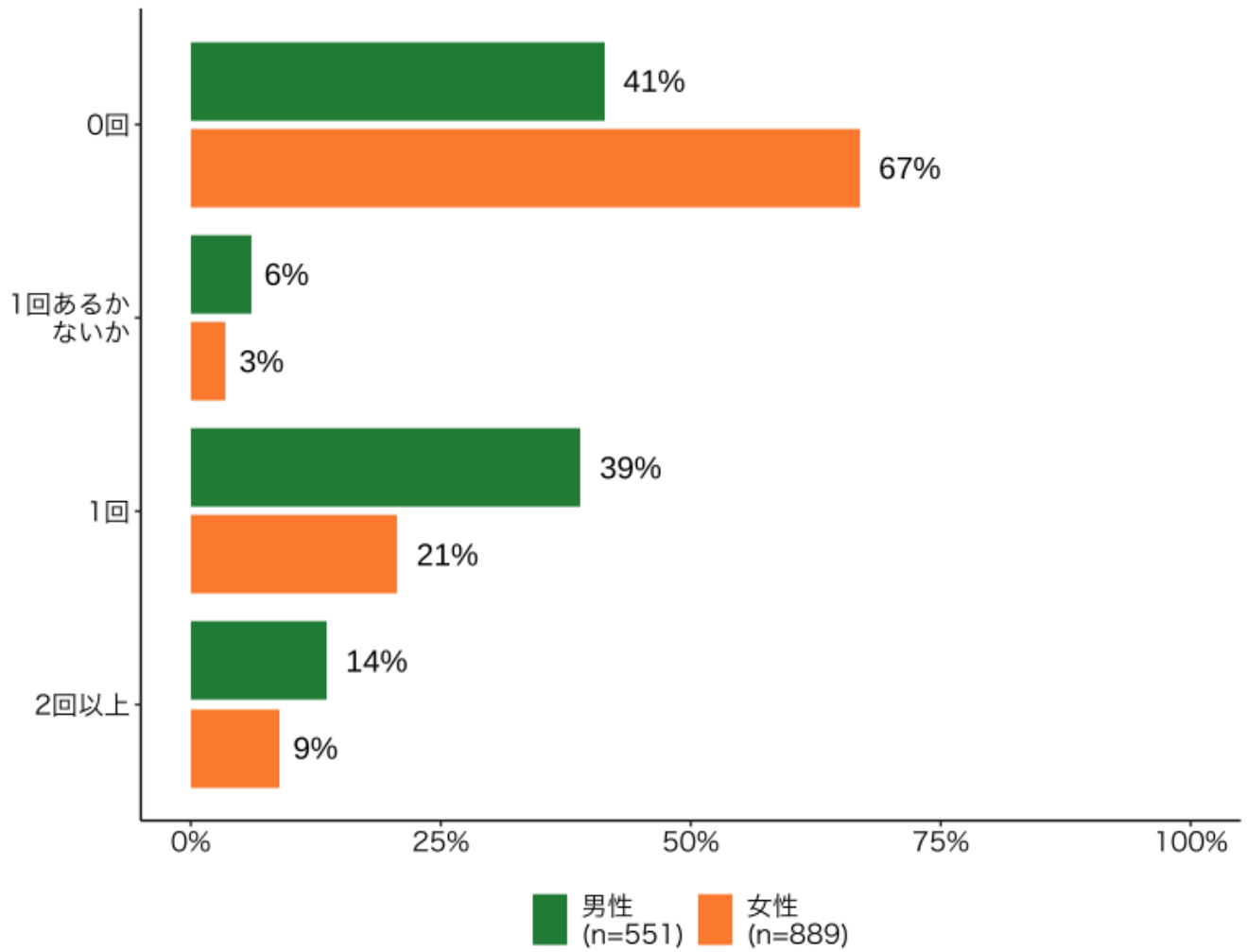


問 10 平均的な勤務後の帰宅時間【問 7 で 1~4 を回答した方のみ】



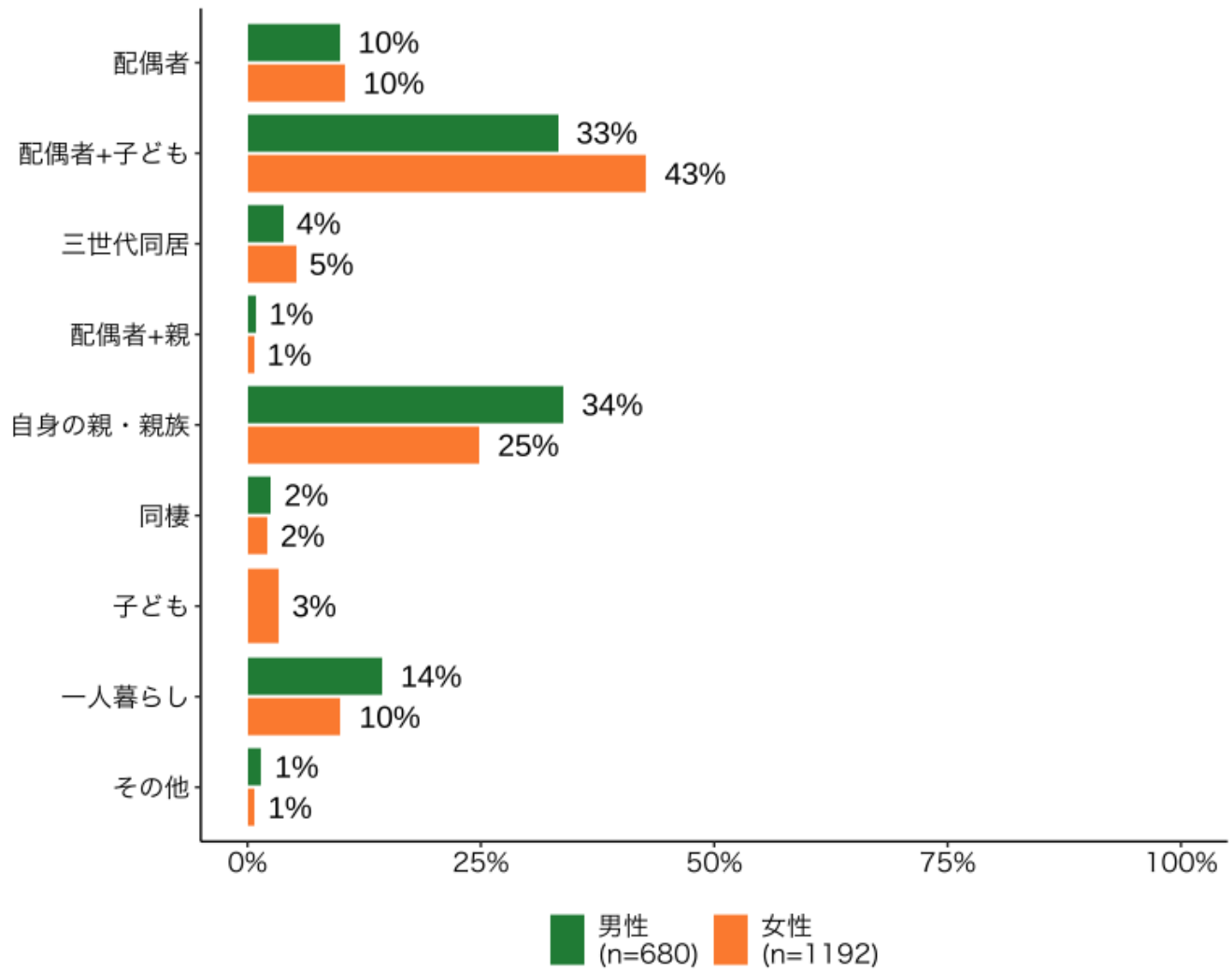
欠損値：男性に74ケース; 女性に221ケース

問 11 1ヶ月の平均的な飲み会の頻度【問7で1~4を回答した方のみ】

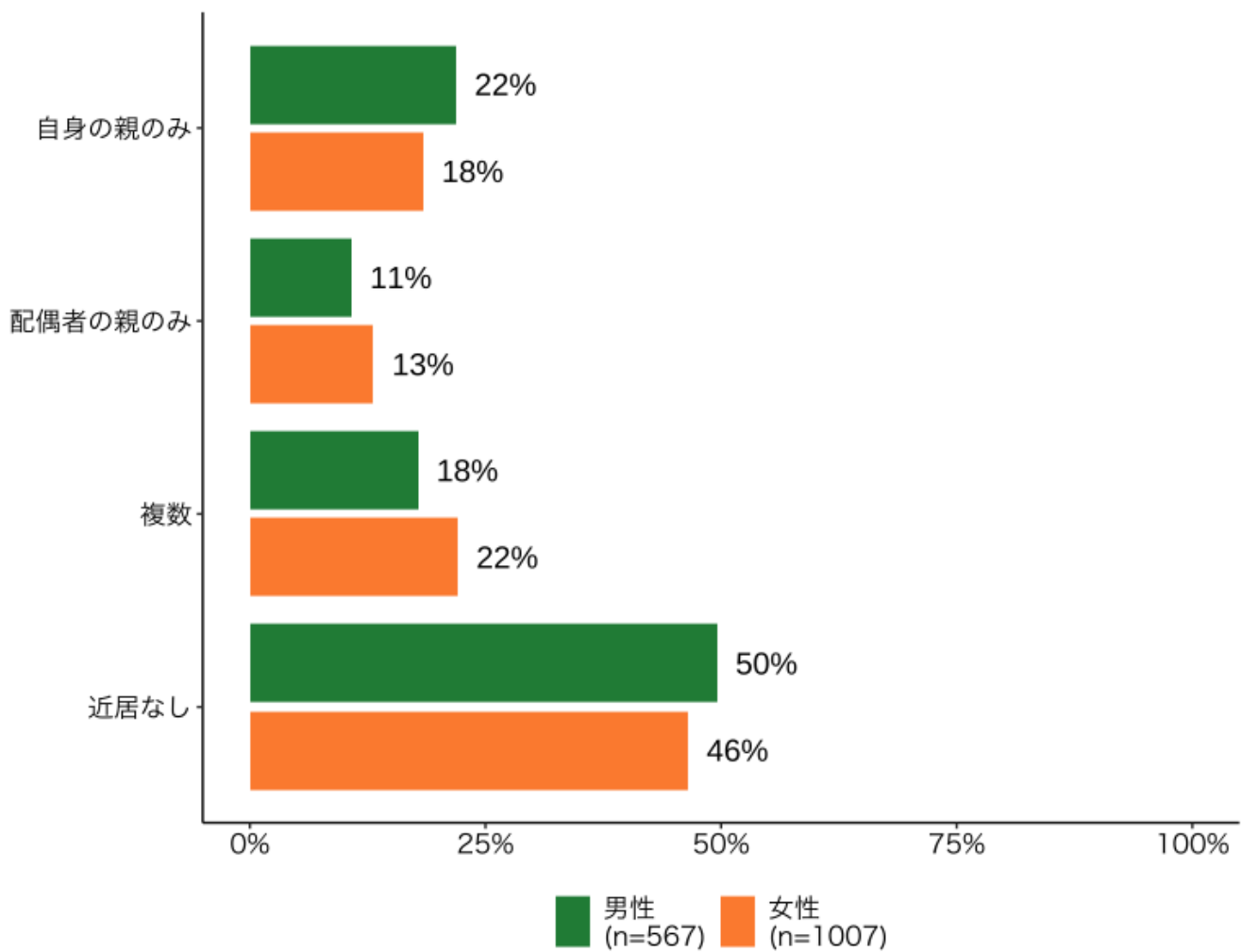


欠損値：男性に2ケース; 女性に5ケース

問 12-1 世帯（同居）の状況【全員回答】

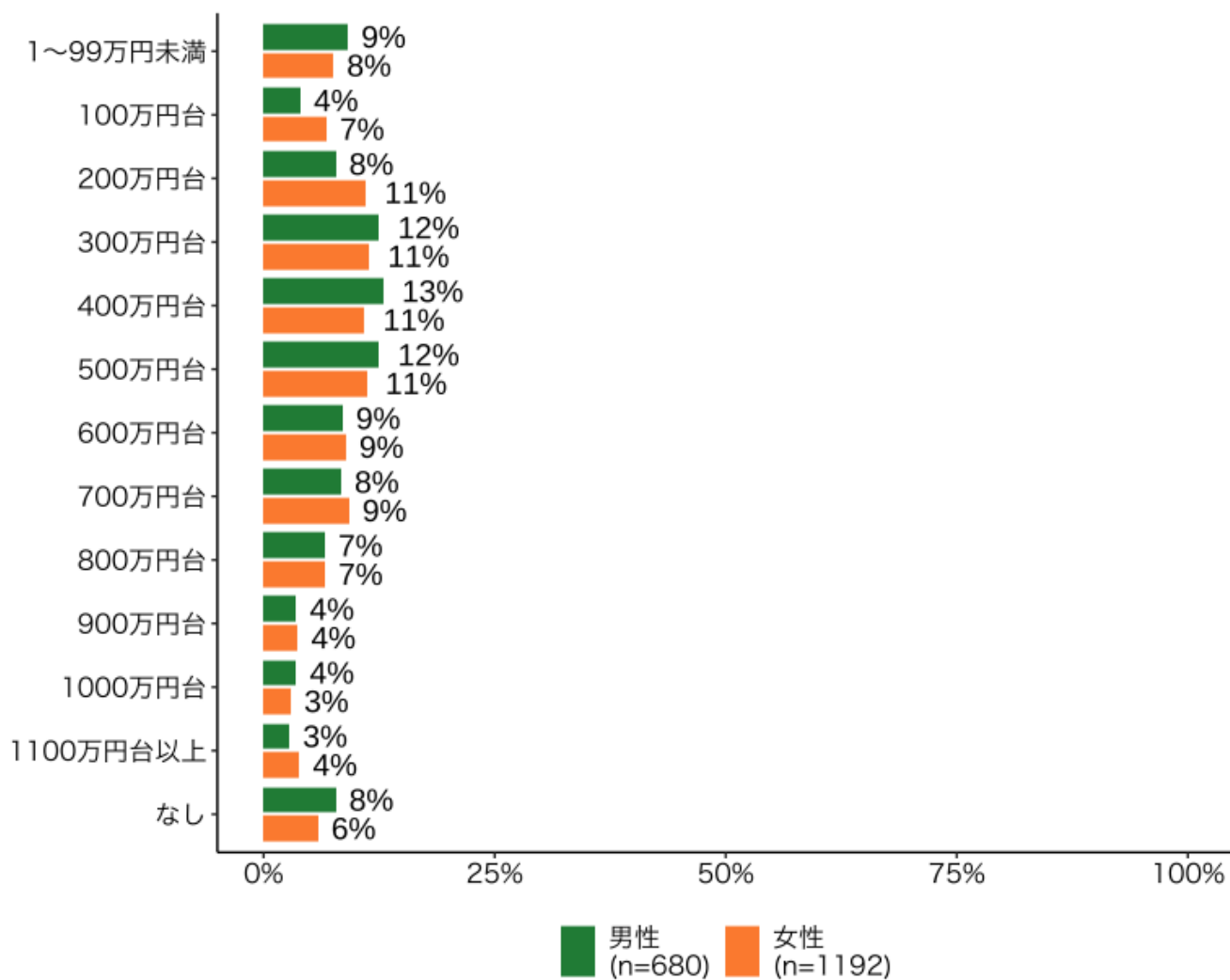


問 12-2 世帯（近居）の状況【全員回答】



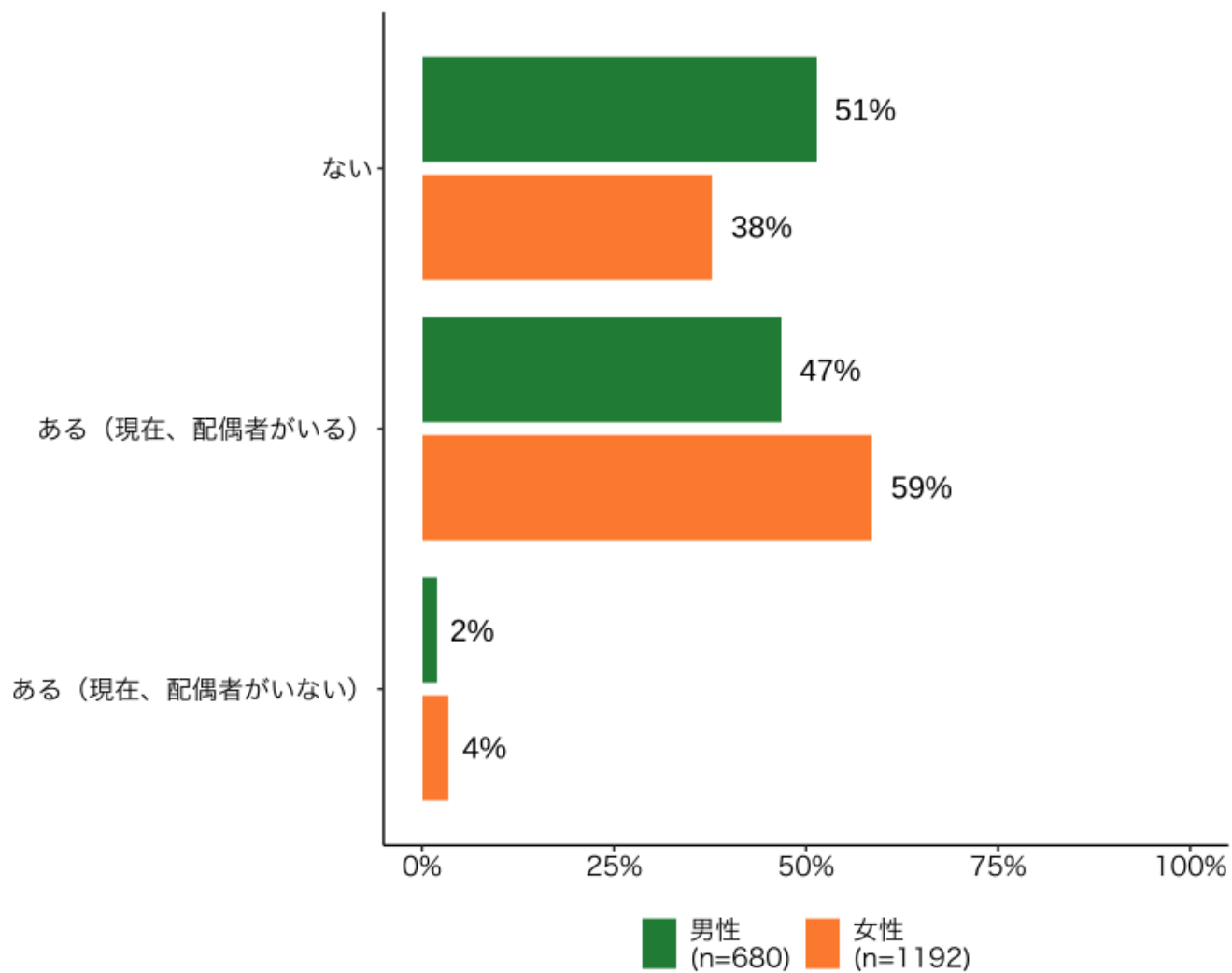
欠損値：男性に113ケース; 女性に185ケース

問 13 ご自身と配偶者を合わせた昨年1年間の年収、配偶者がいない場合はご自身だけの年収【全員回答】

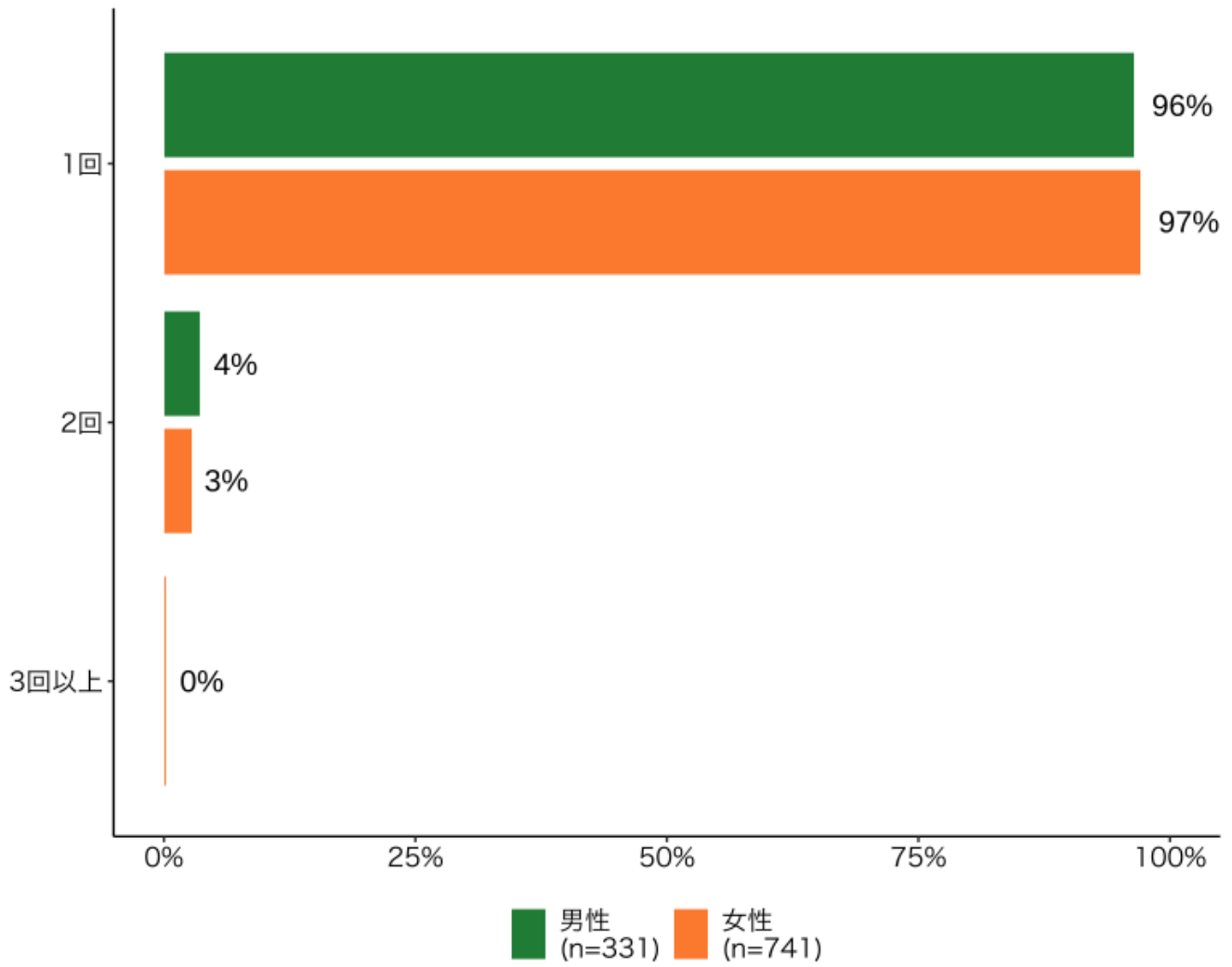


2. 結婚について

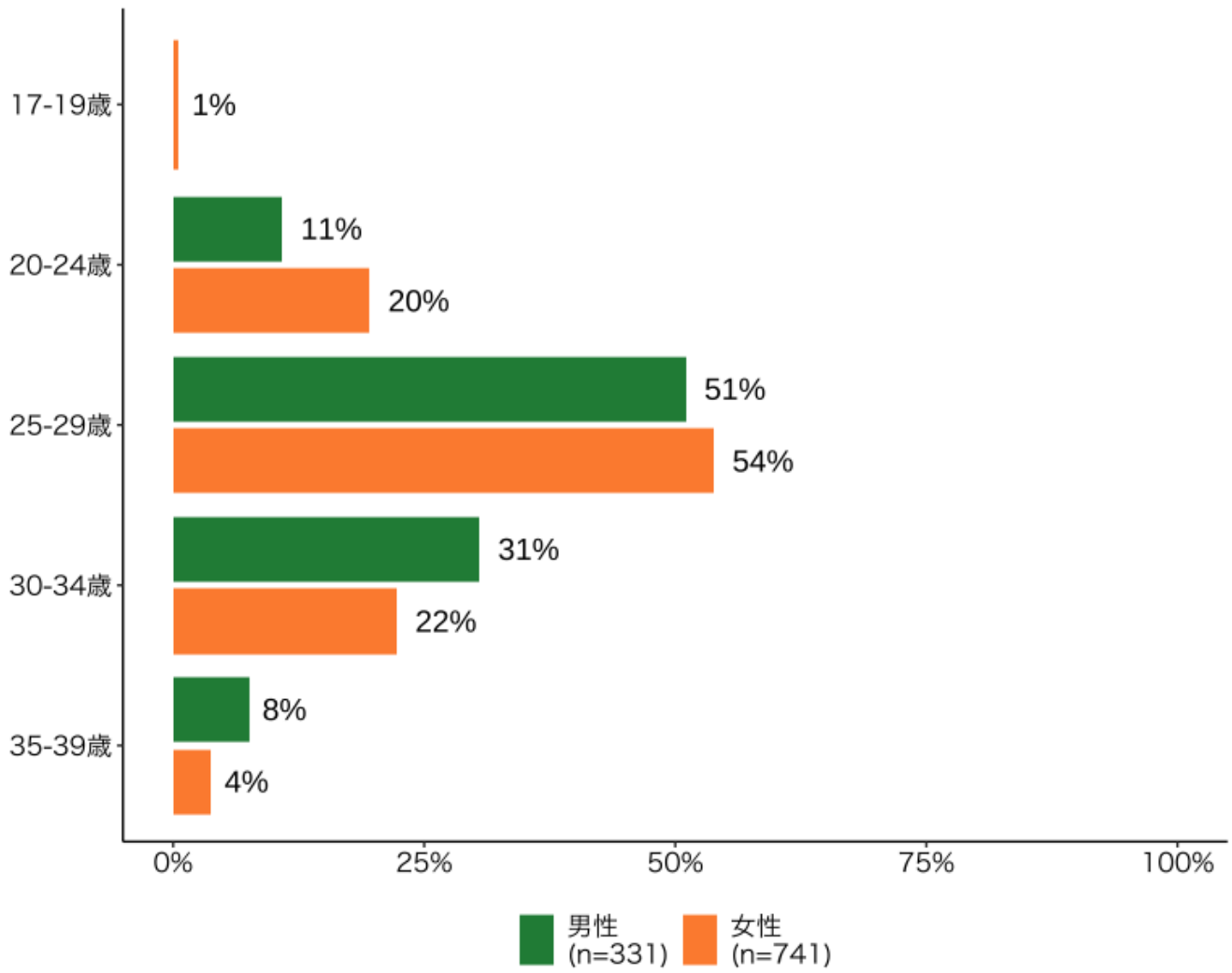
問 14 結婚の状況【全員回答】



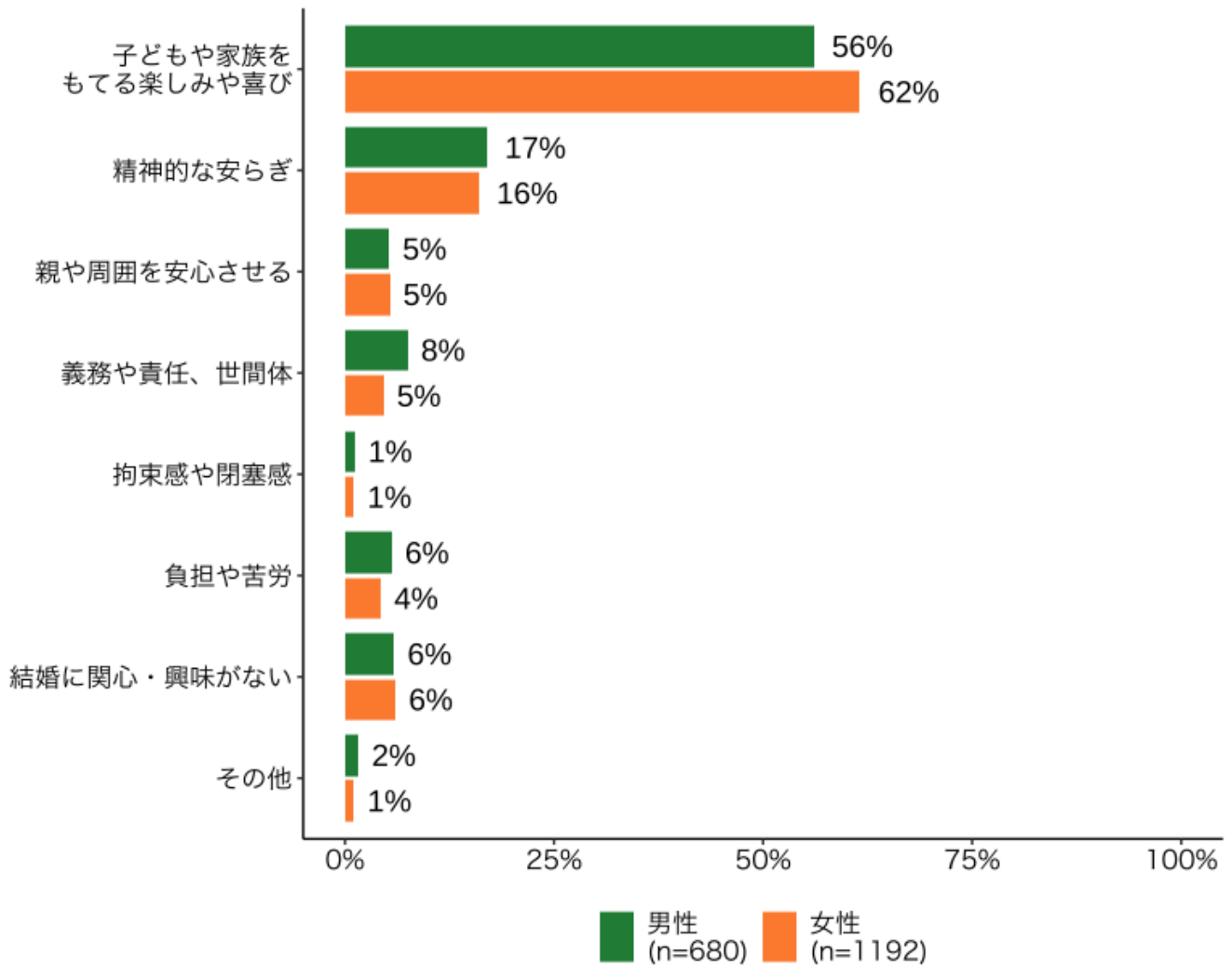
問 15 結婚の回数【問 14 で 2~3 を回答した方のみ】



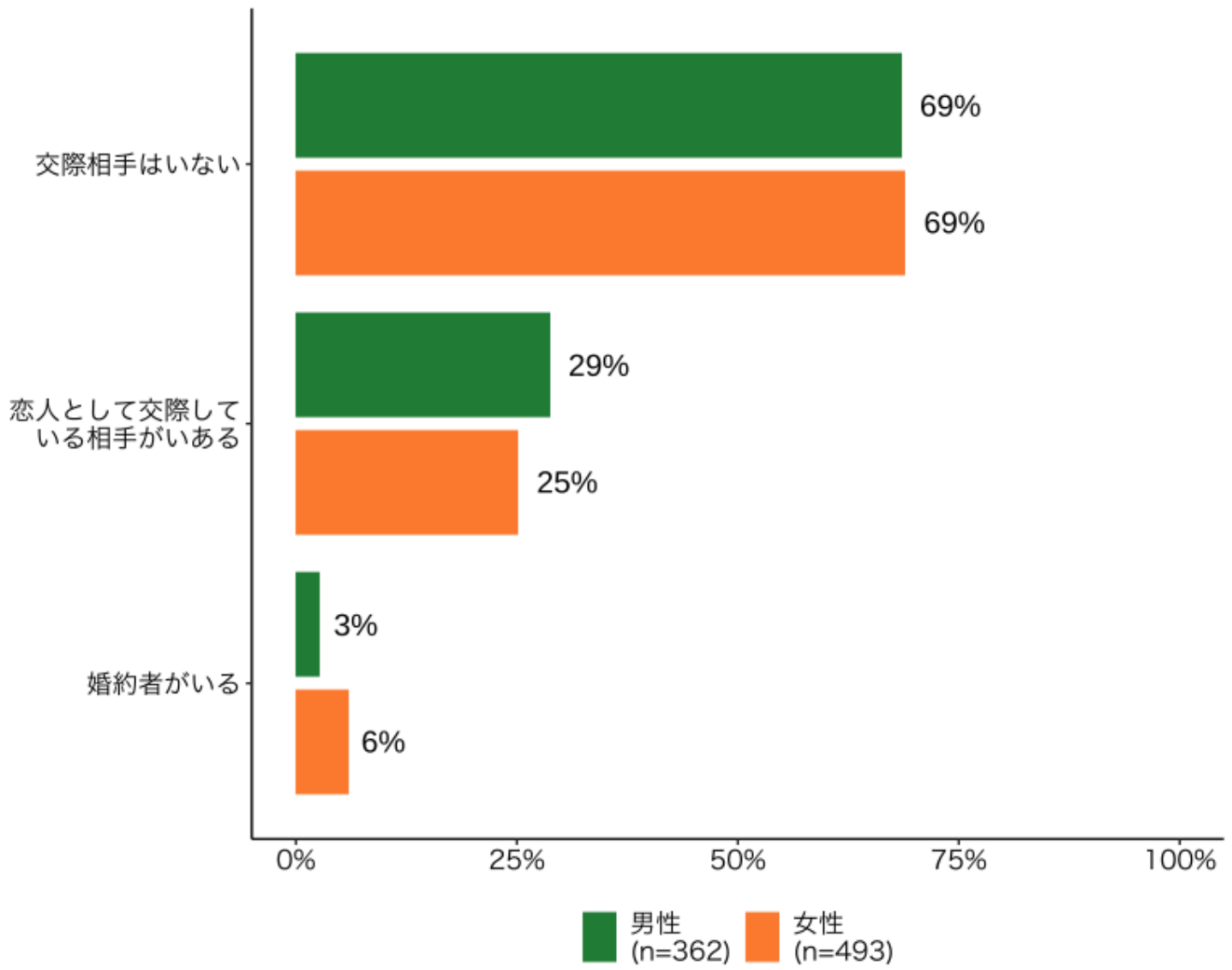
問 16 初婚年齢【問 14 で 2～3 を回答した方のみ】



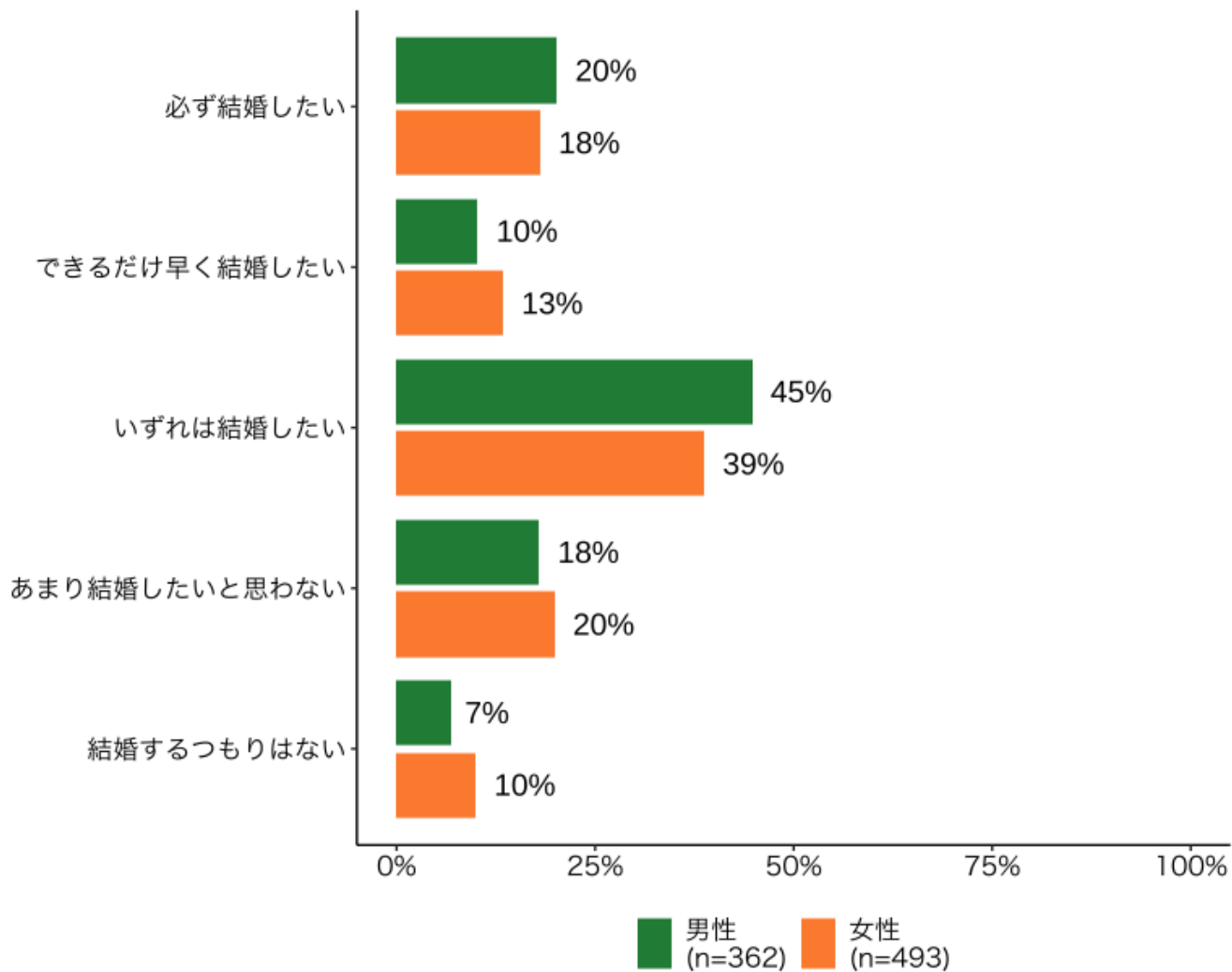
問 17 結婚に対するイメージ【全員回答】



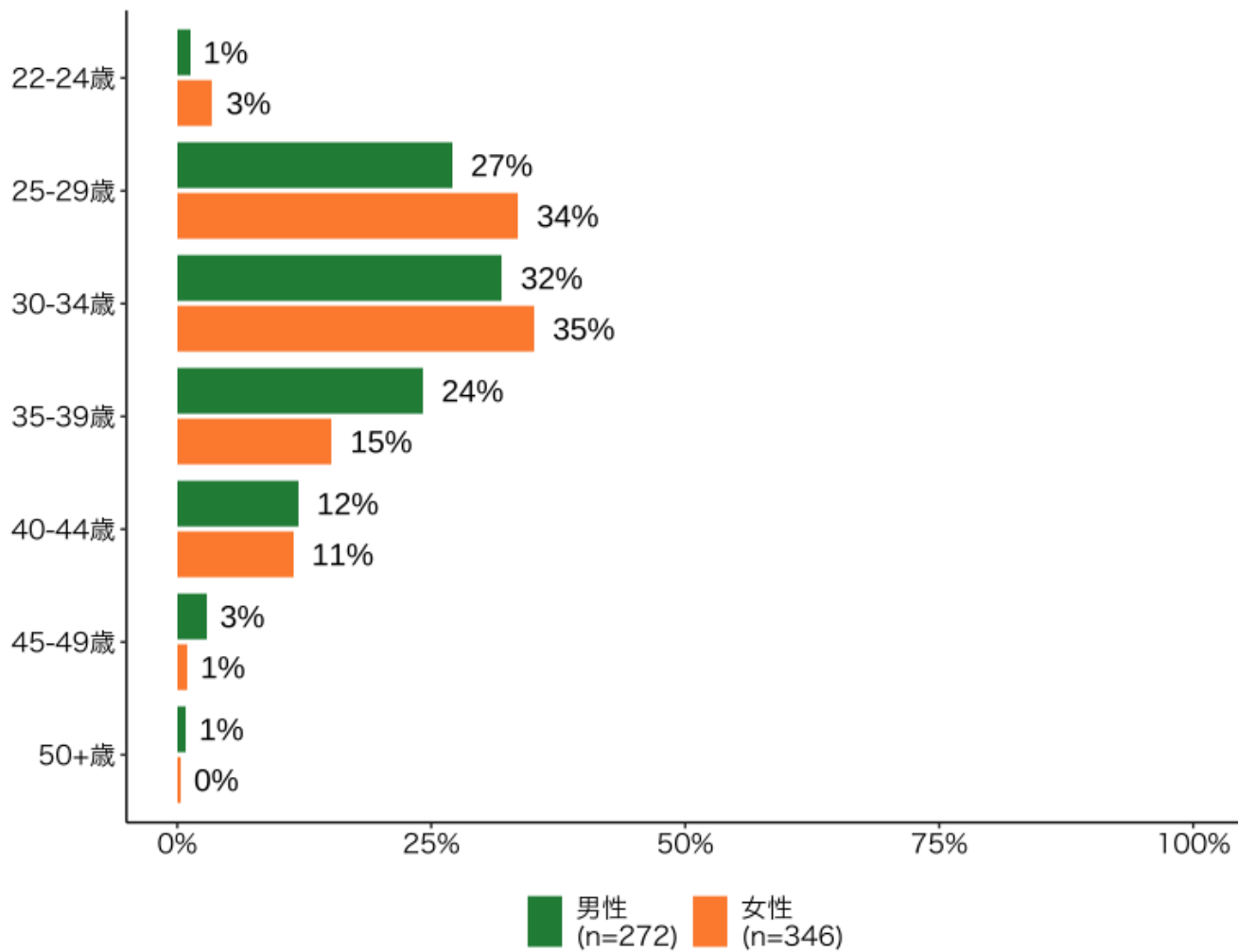
問 18 交際相手の有無【問 14 で 1 または 3 を回答した方のみ】



問 19 今後、結婚したいと思うか【問 14 で 1 または 3 を回答した方のみ】

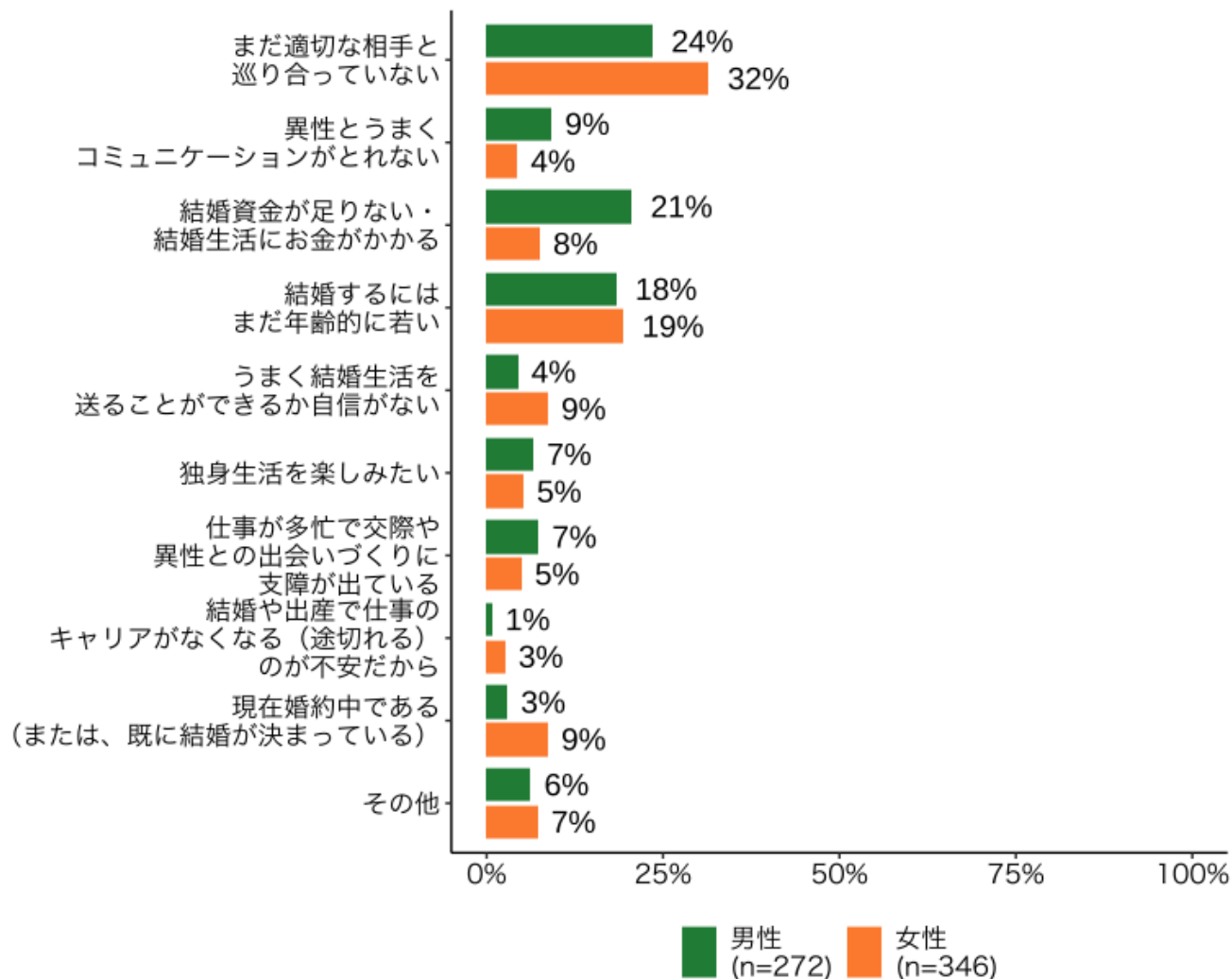


問 20 結婚の希望年齢【問 19 で 1~3 を回答した方のみ】

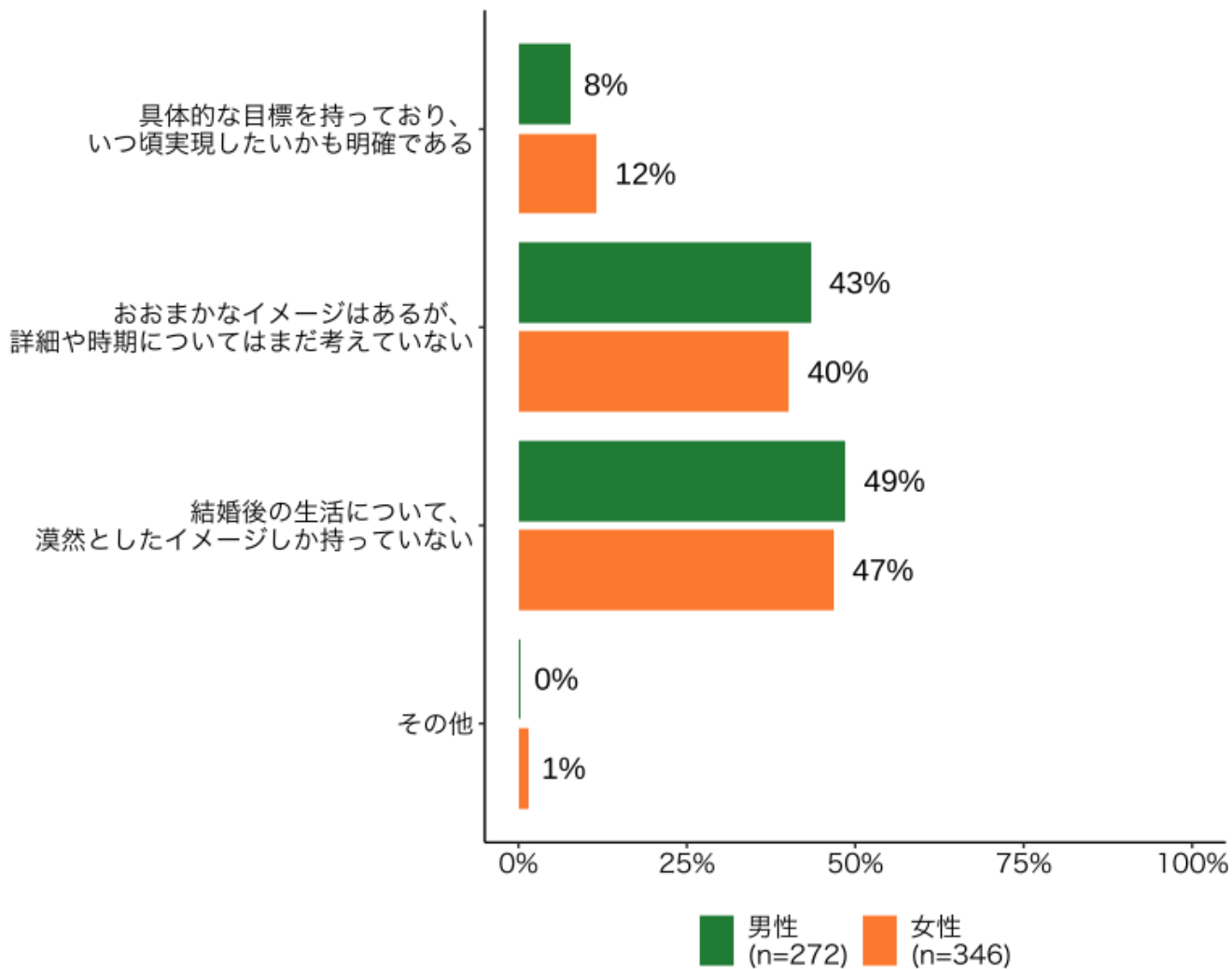


欠損値：男性に28ケース; 女性に30ケース

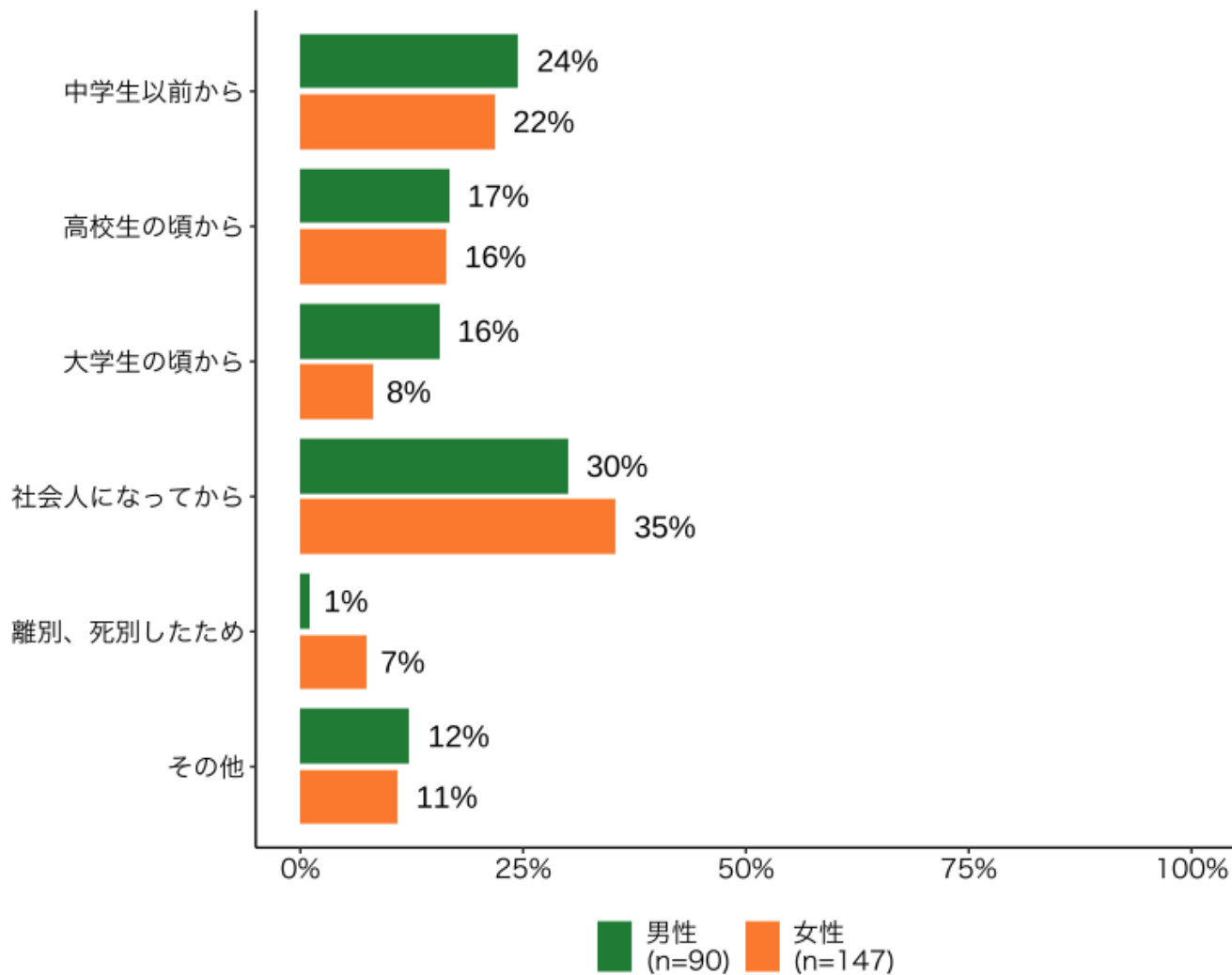
問 21 結婚に至っていない理由【問 19 で 1~3 を回答した方のみ】



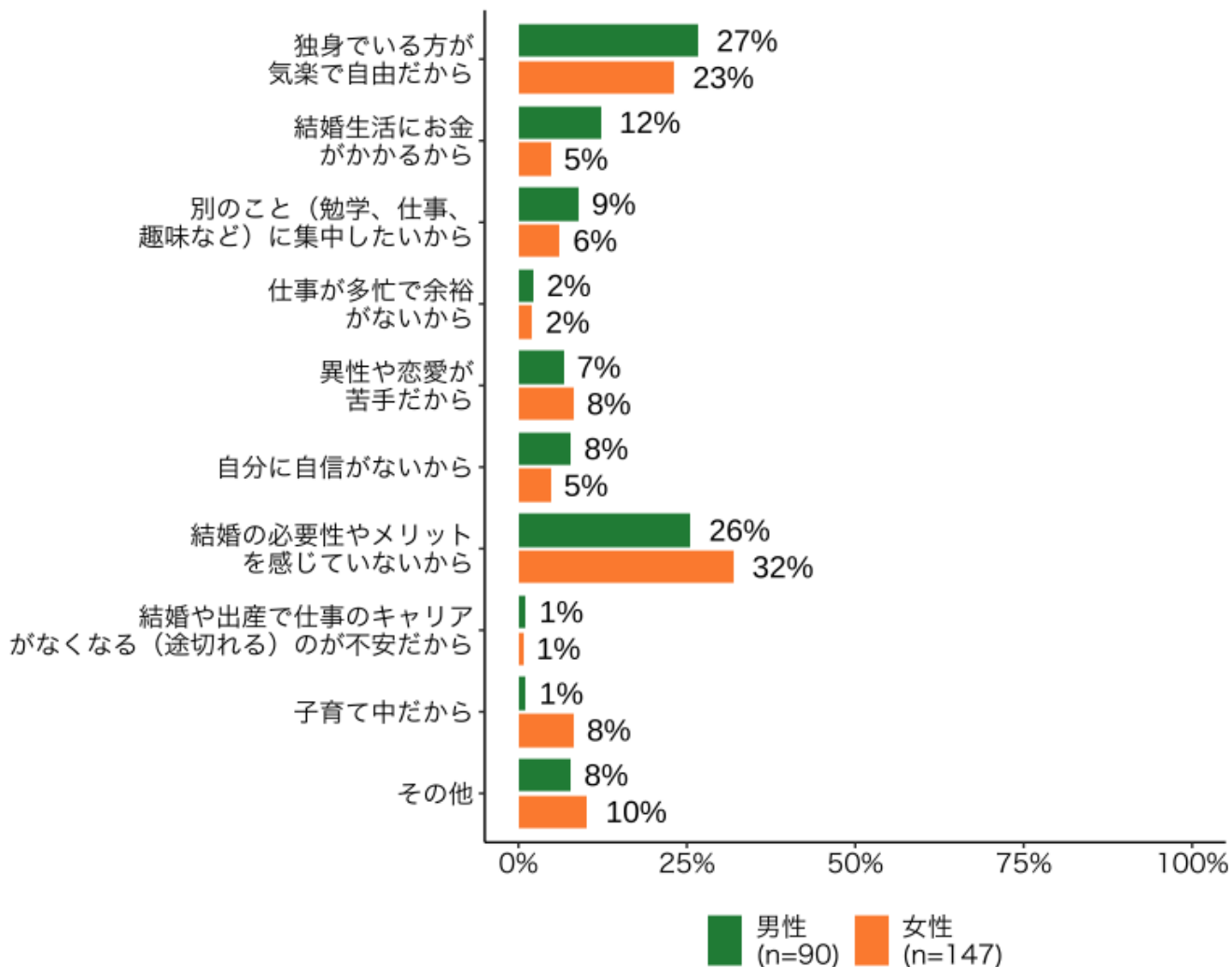
問 22 ご自身の将来ビジョン【問 19 で 1～3 を回答した方のみ】



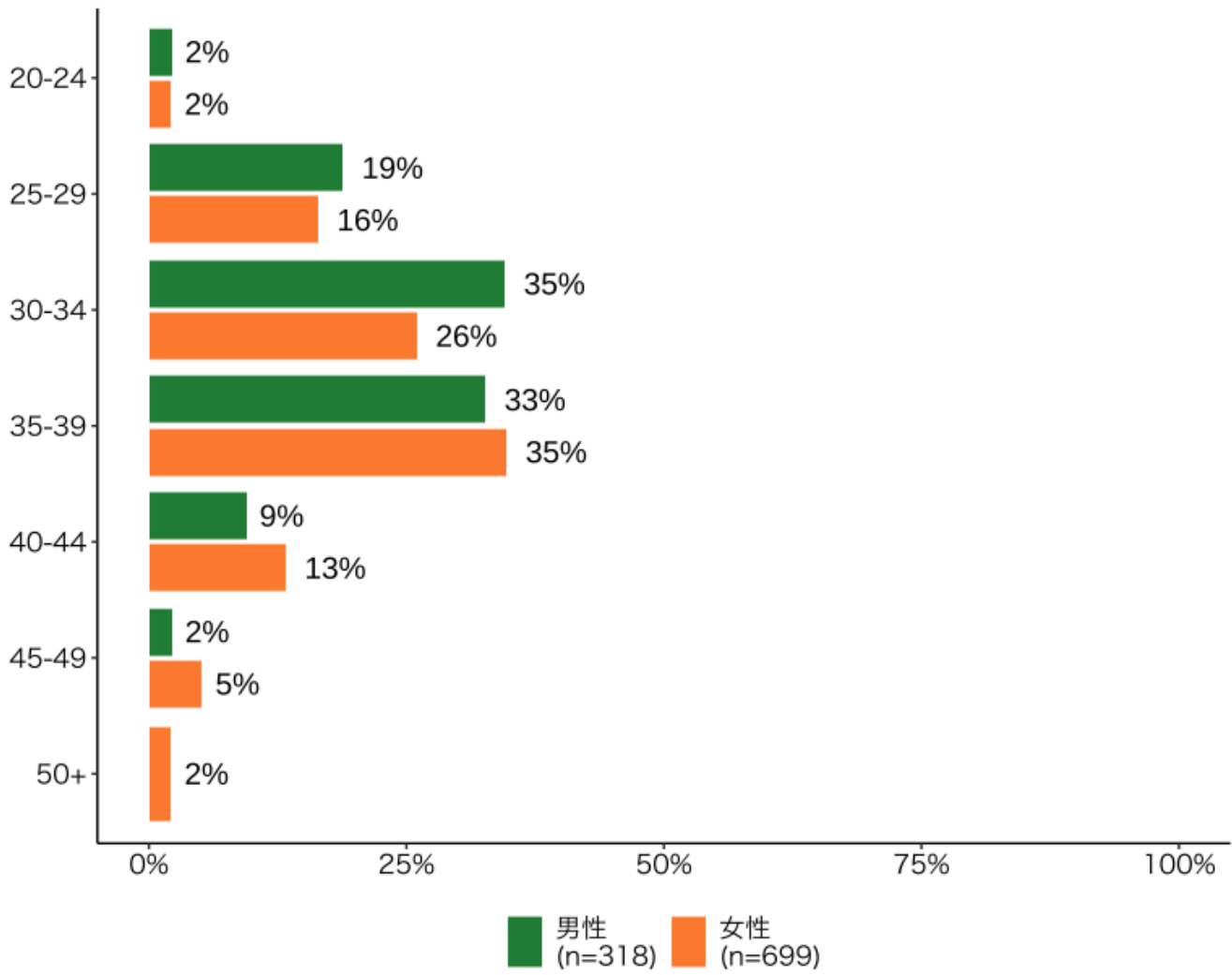
問 23 結婚したくなくなった時期【問 19 で 4~5 を回答した方のみ】



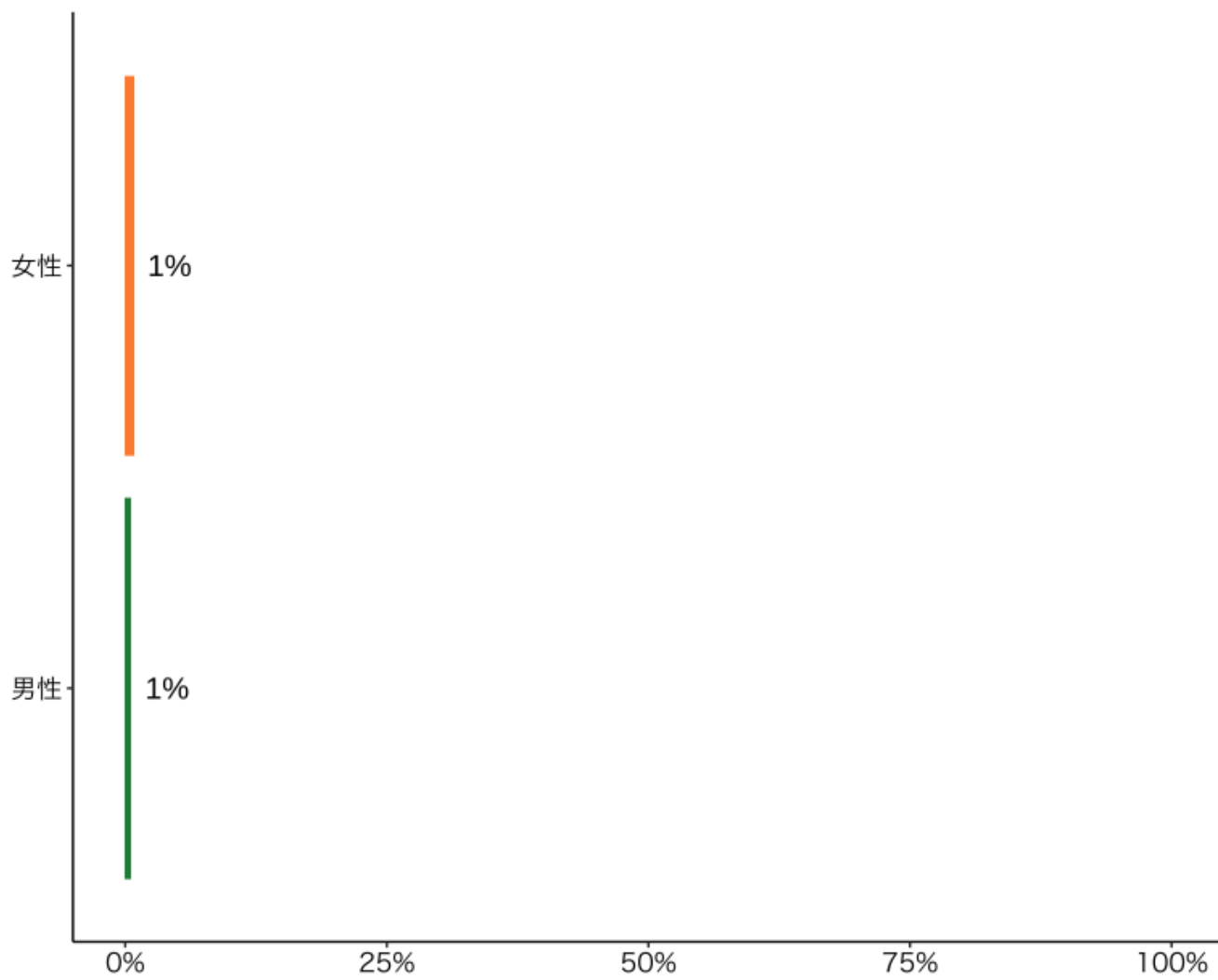
問 24 結婚したくない理由【問 19 で 4~5 を回答した方のみ】



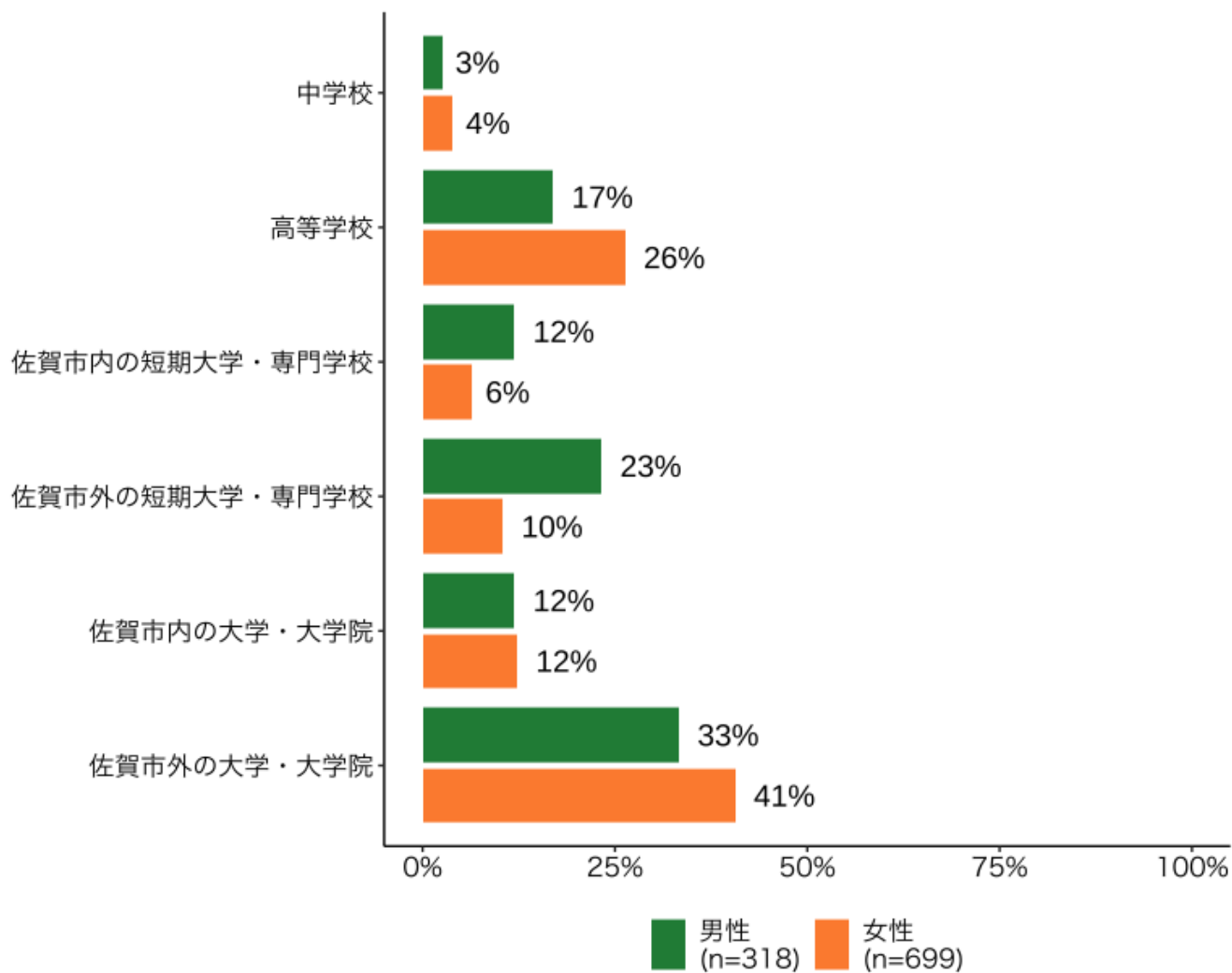
問 25 配偶者の年齢【問 14 で 2 を回答した方のみ】



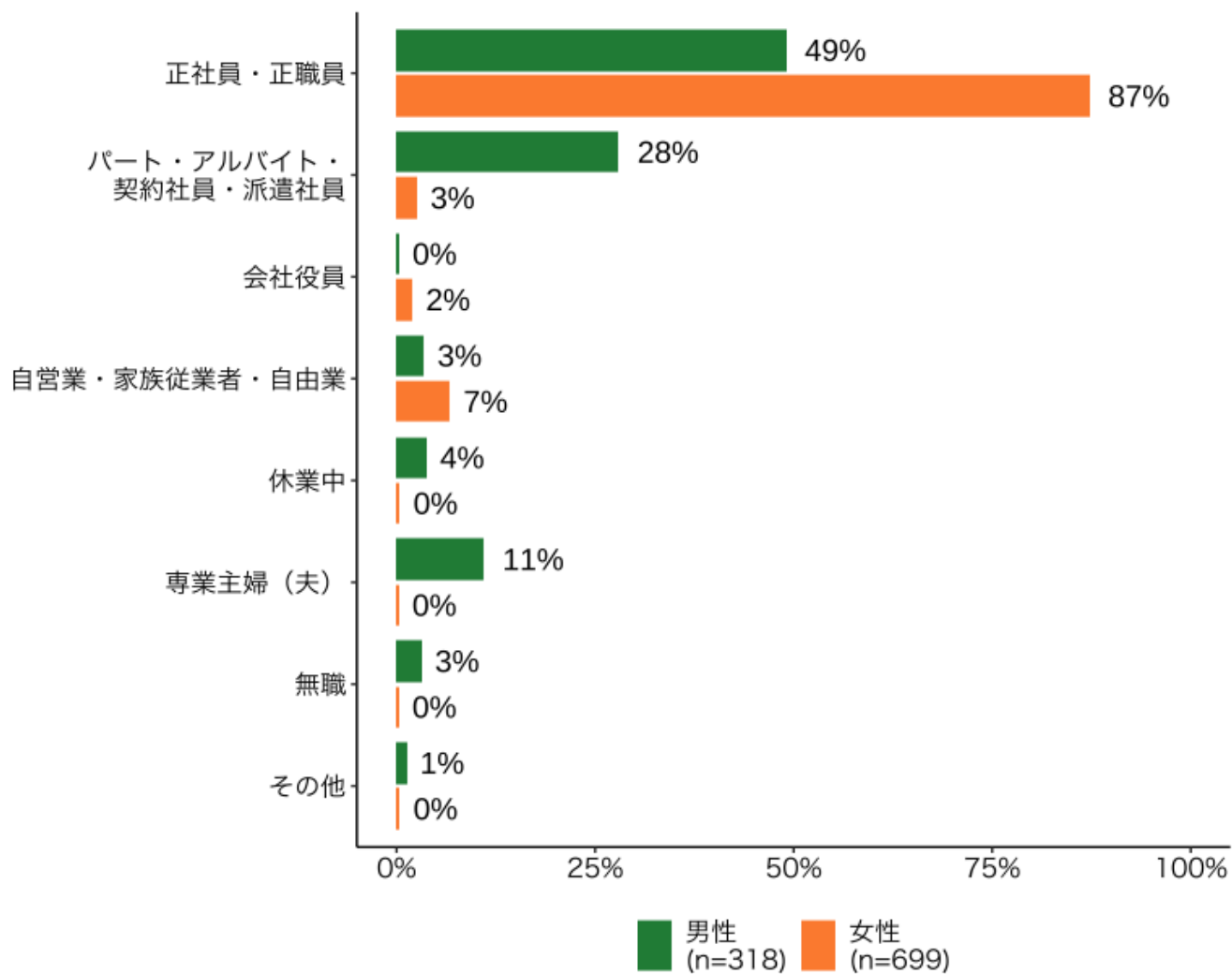
問 26 配偶者の在学・卒業の別【問 14 で 2 を回答した方のみ】



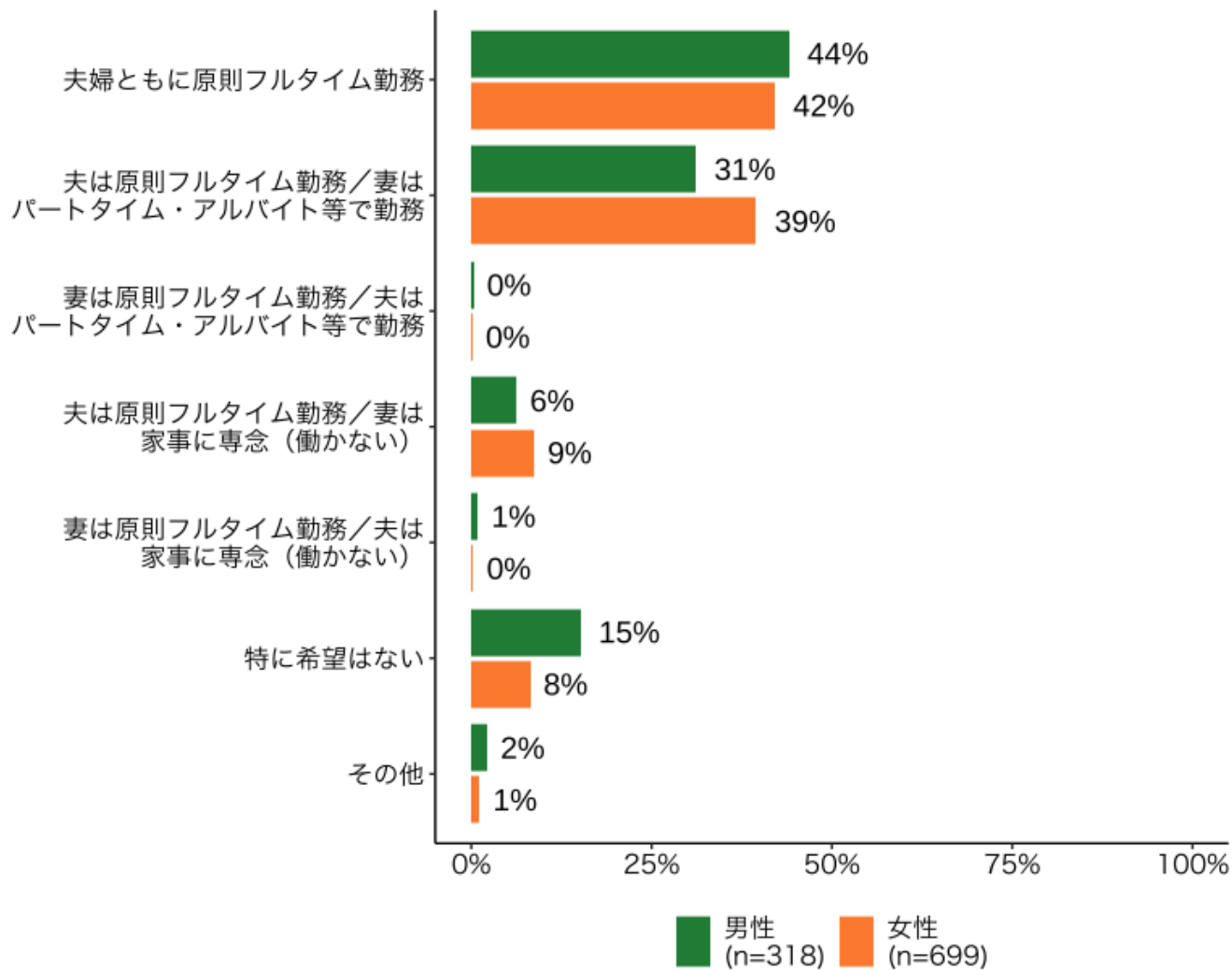
問 27 配偶者の在学中・最後に卒業した学校【問 14 で 2 を回答した方のみ】



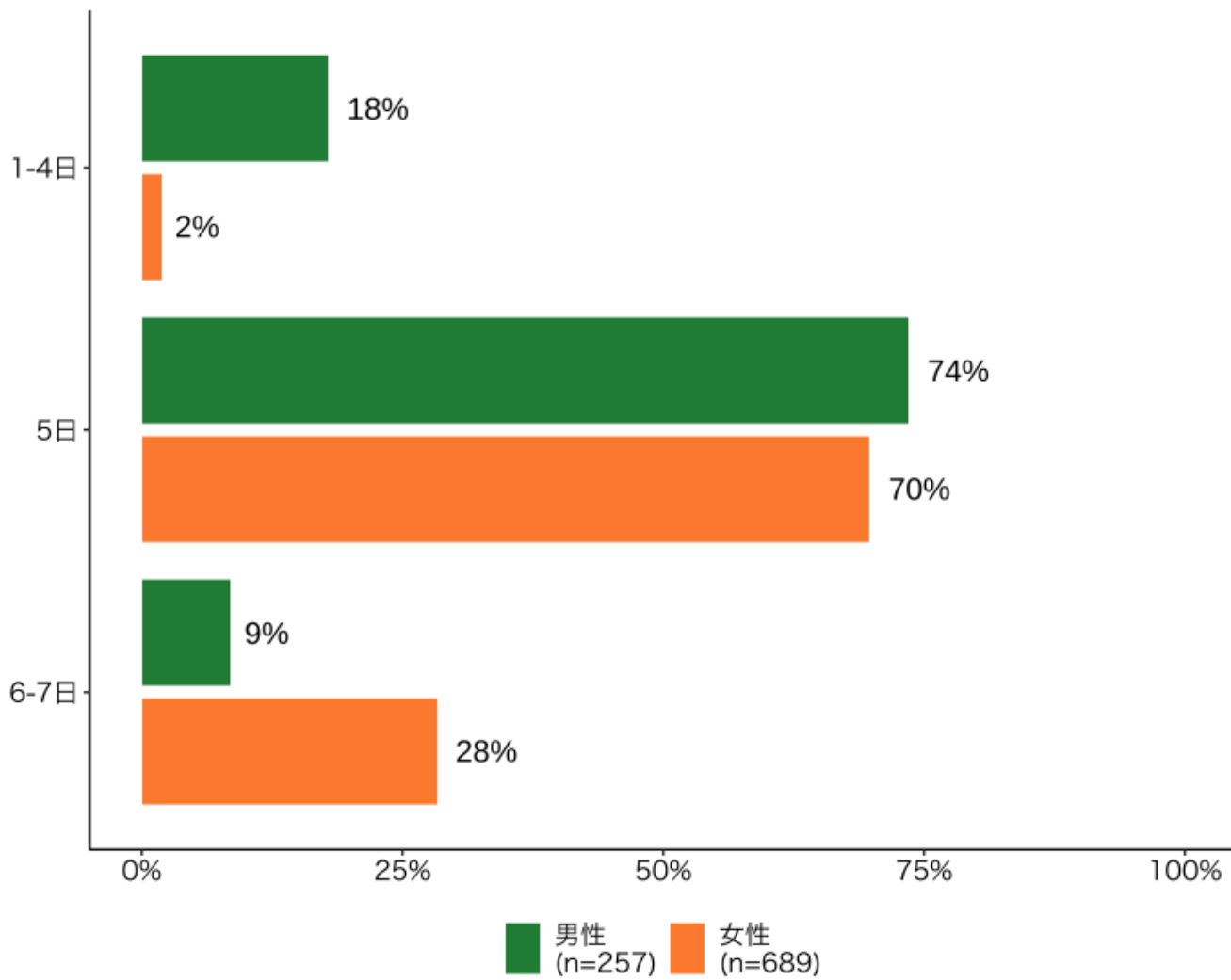
問 28 配偶者の就労形態【問 14 で 2 を回答した方のみ】



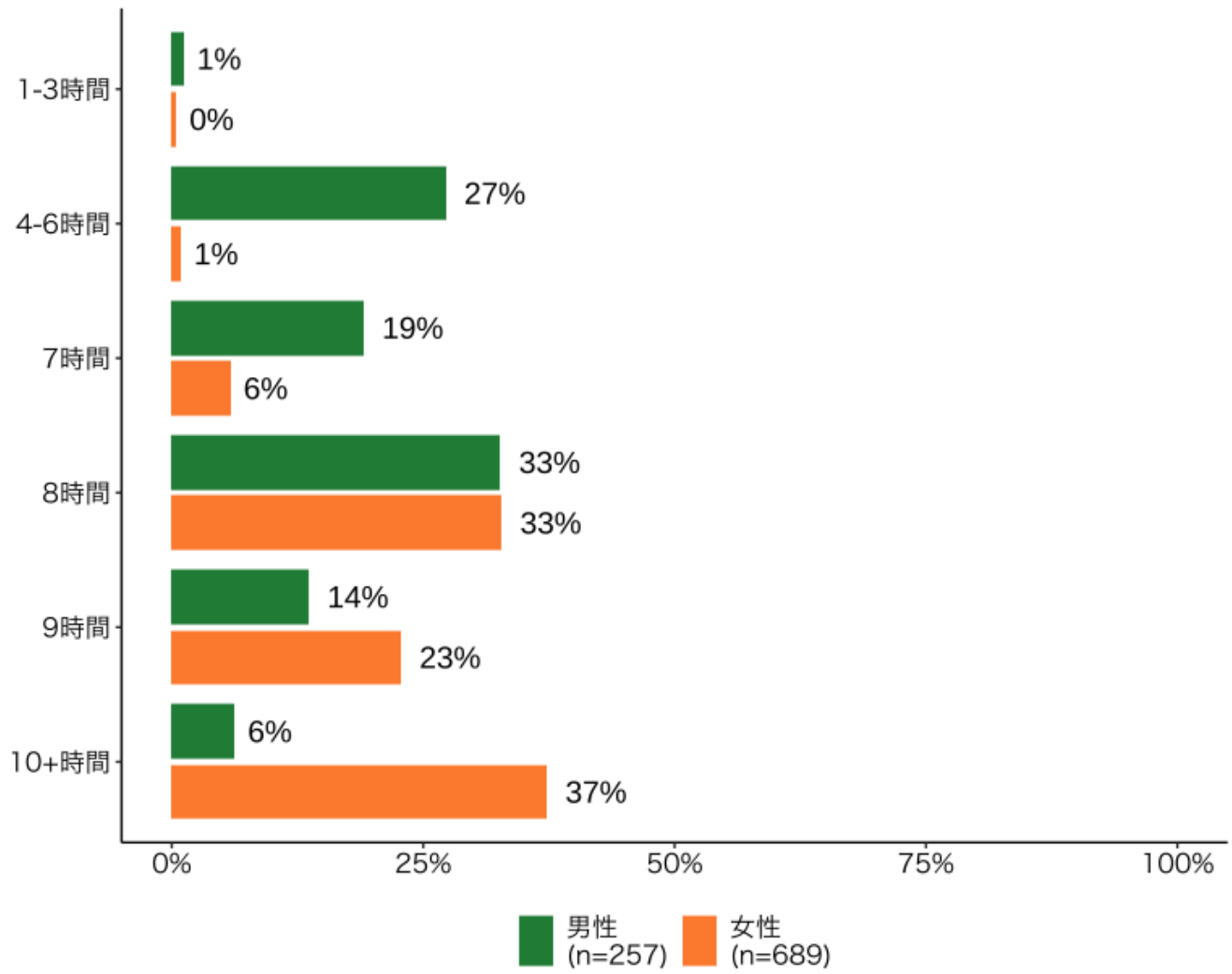
問 29 理想とする夫婦の就労形態【問 14 で 2 を回答した方のみ】



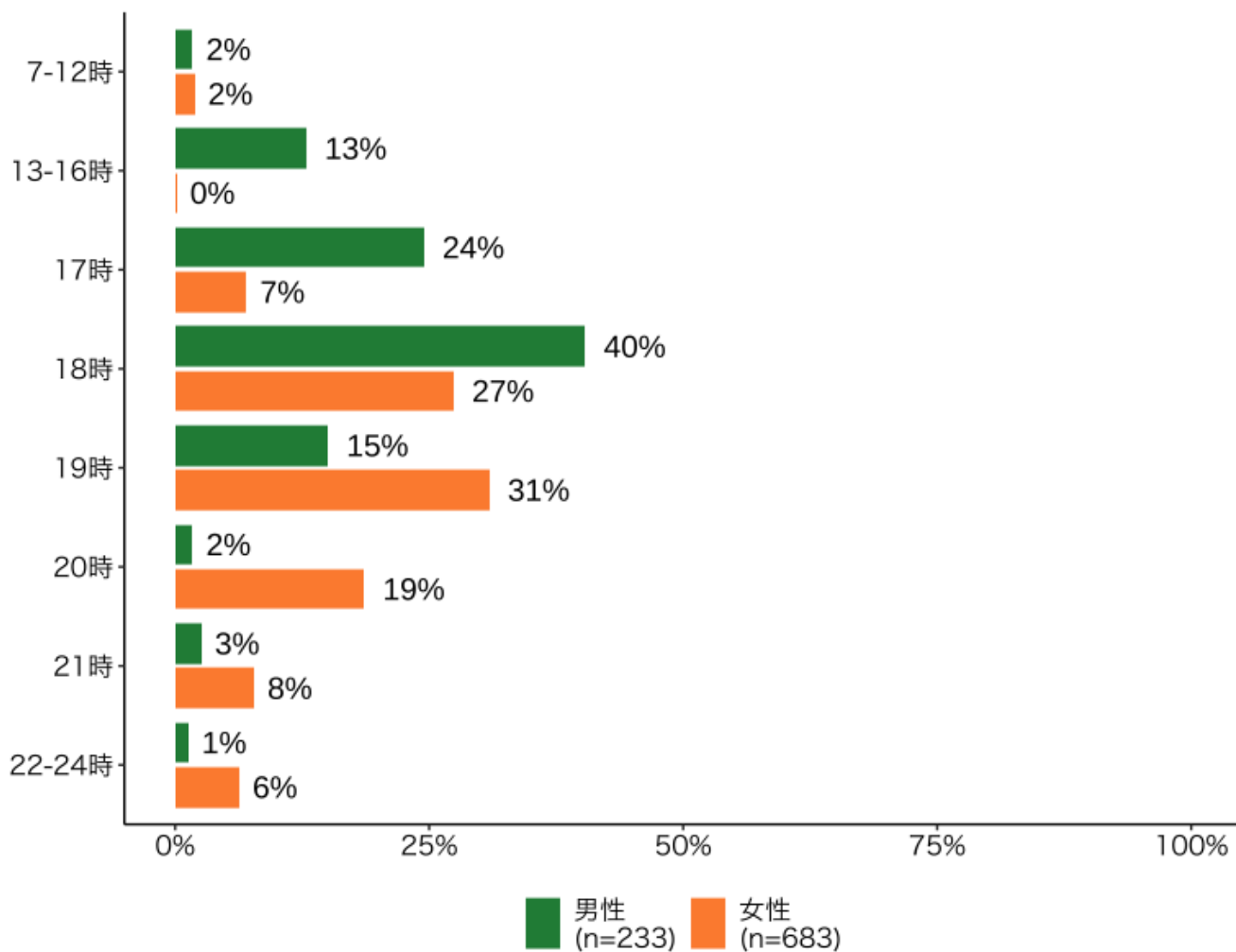
問 30 配偶者の労働日数【問 28 で 1~4 を回答した方のみ】



問 31 配偶者の労働時間【問 28 で 1~4 を回答した方のみ】



問 32 配偶者の帰宅時間【問 28 で 1~4 を回答した方のみ】



欠損値：男性に24ケース; 女性に6ケース

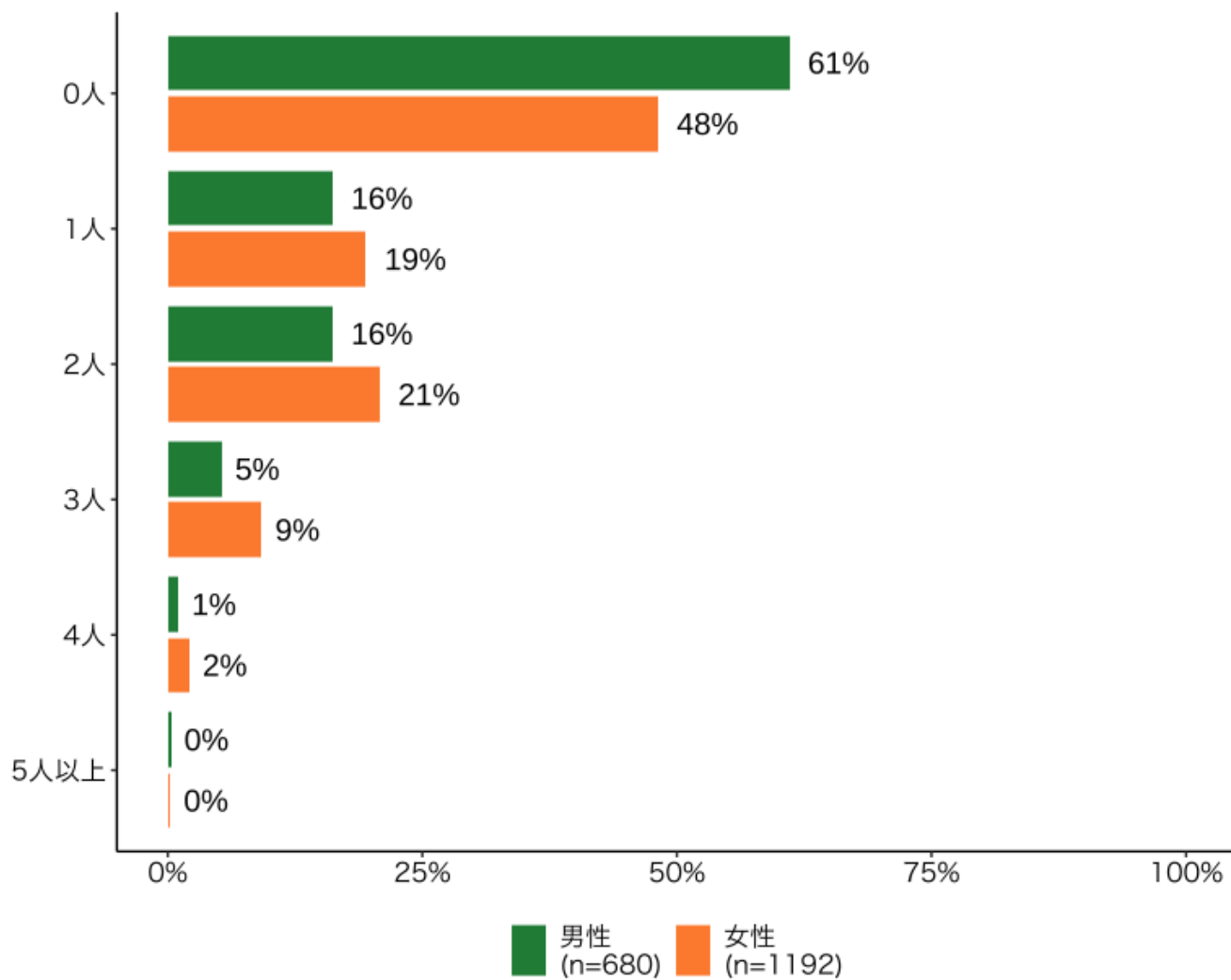
問 33 配偶者の飲み会の頻度【問 28 で 1~4 を回答した方のみ】



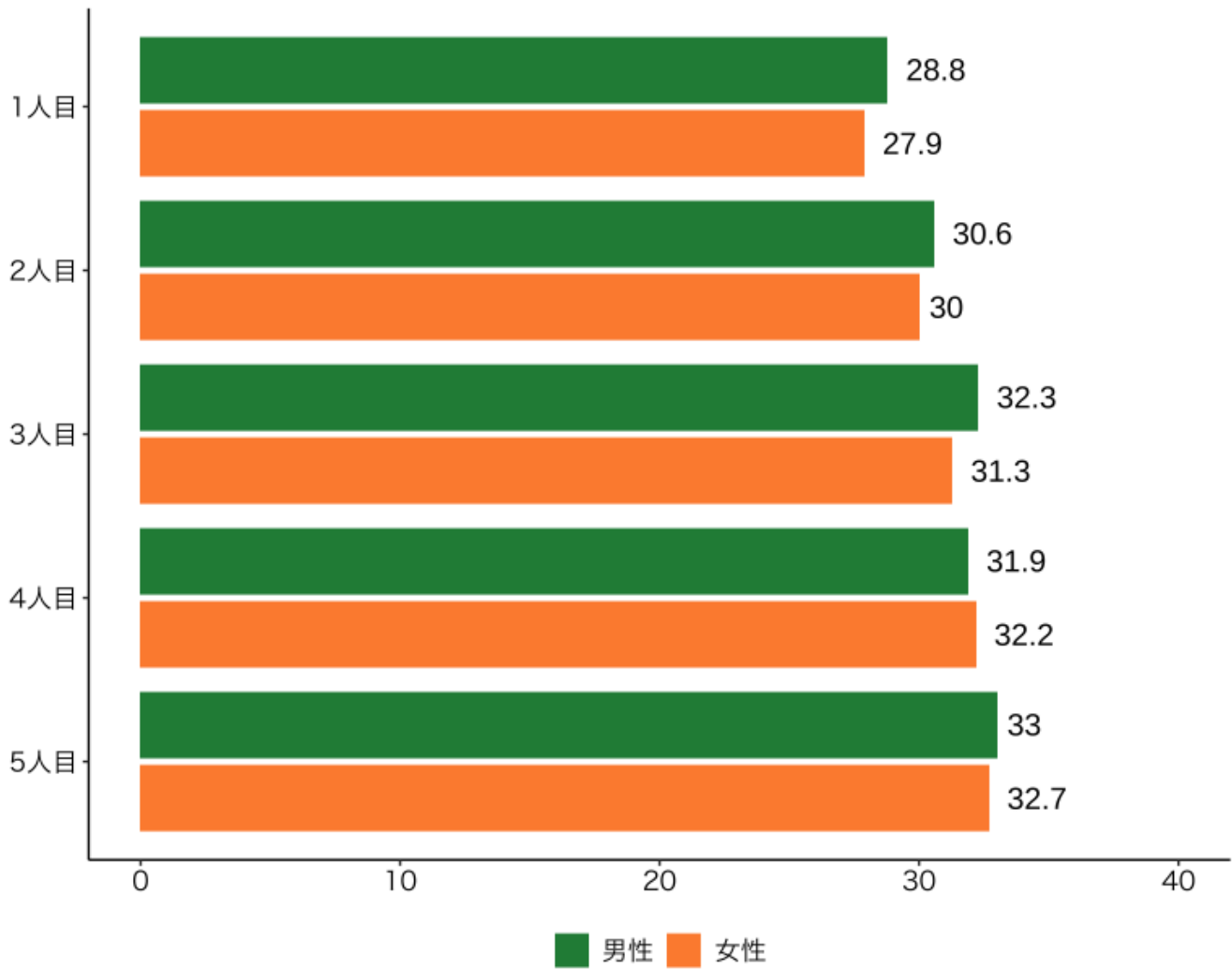
欠損値：男性に2ケース; 女性に4ケース

3. 出産・子育てについて

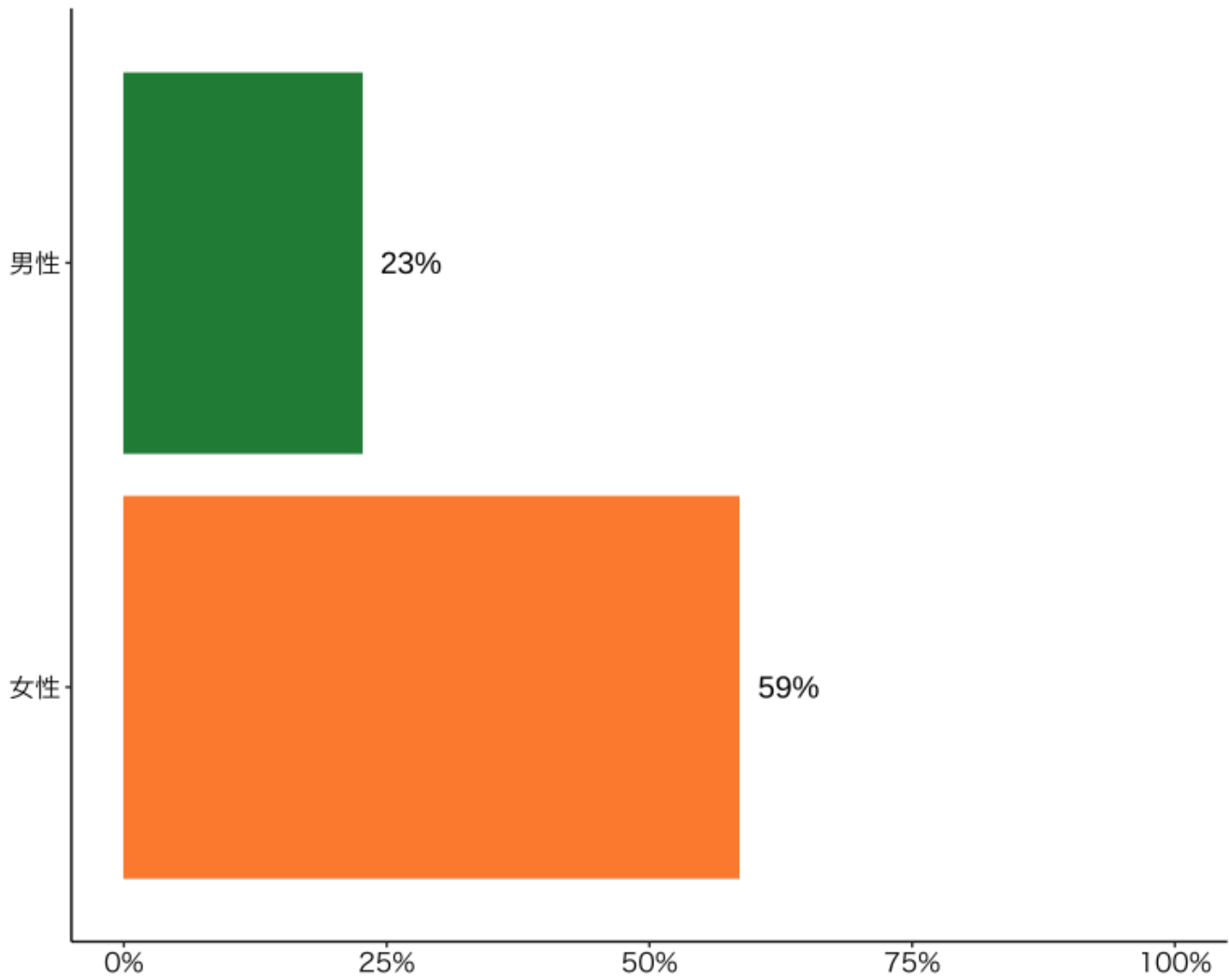
問 34 子どもの数【全員回答】



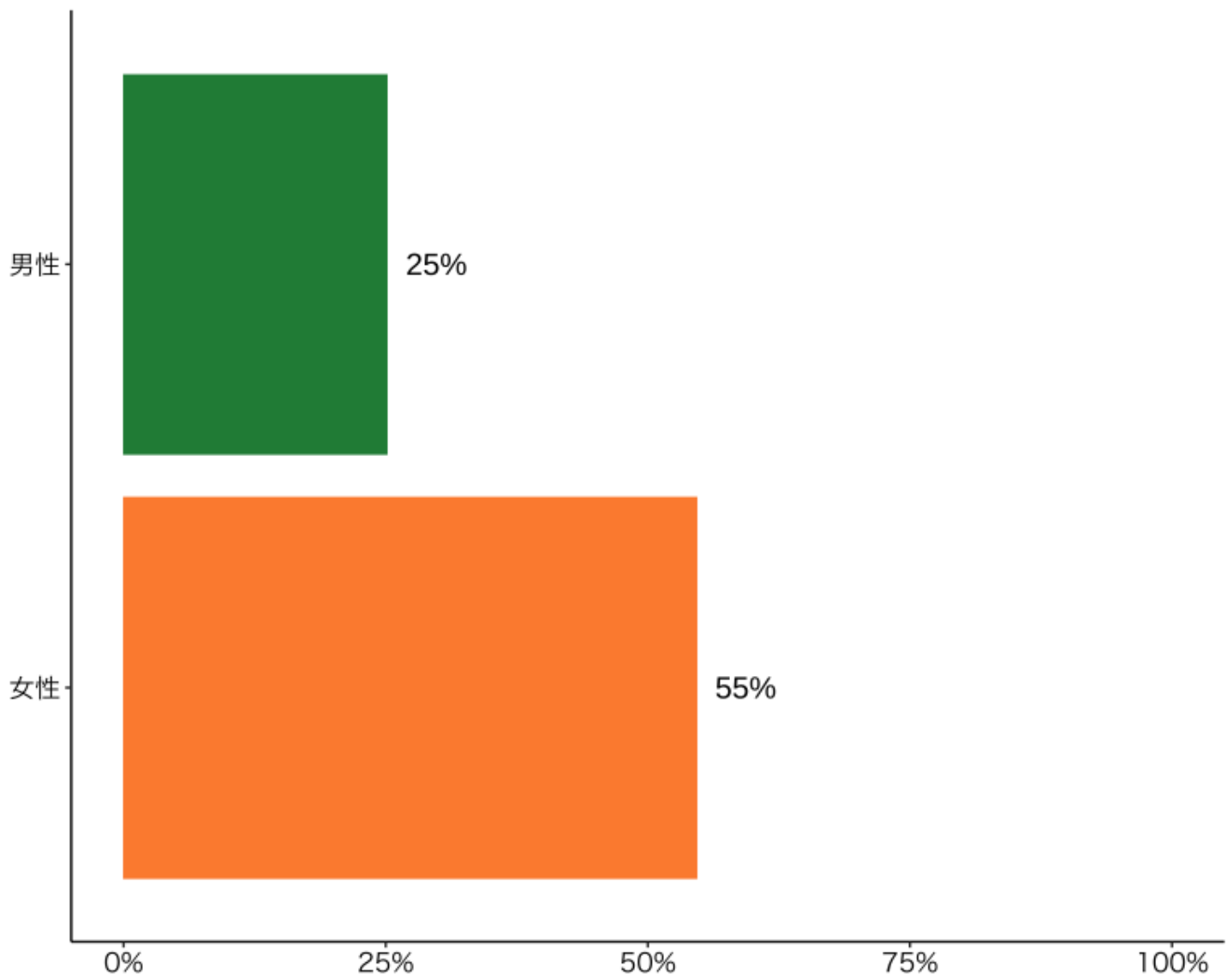
問 35 それぞれの子どもを産んだ平均年齢【問 34 で 2～6 を回答した方のみ】



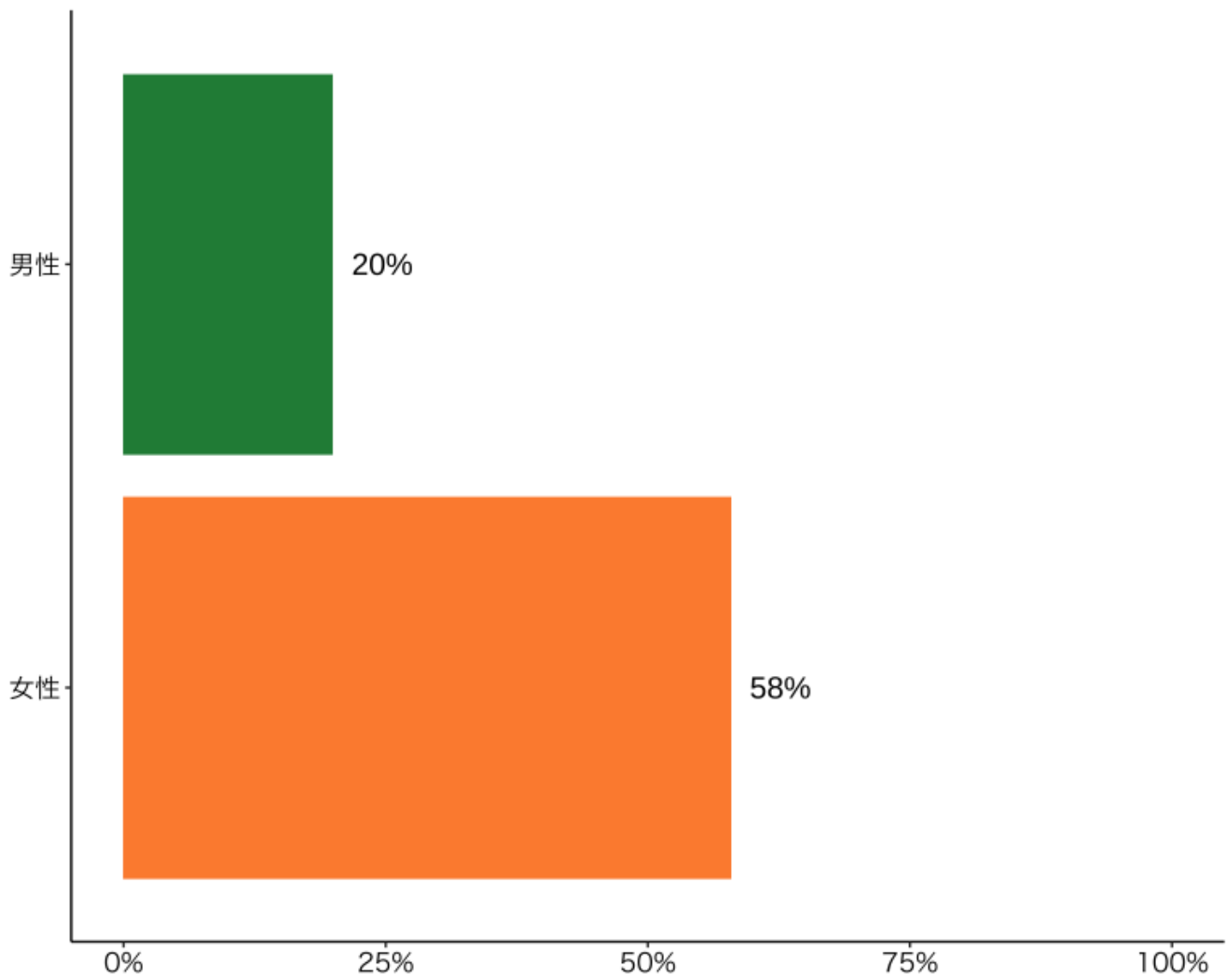
問 36 育児休業の取得状況（第一子時）【問 34 で 2～6 を回答した方のみ】



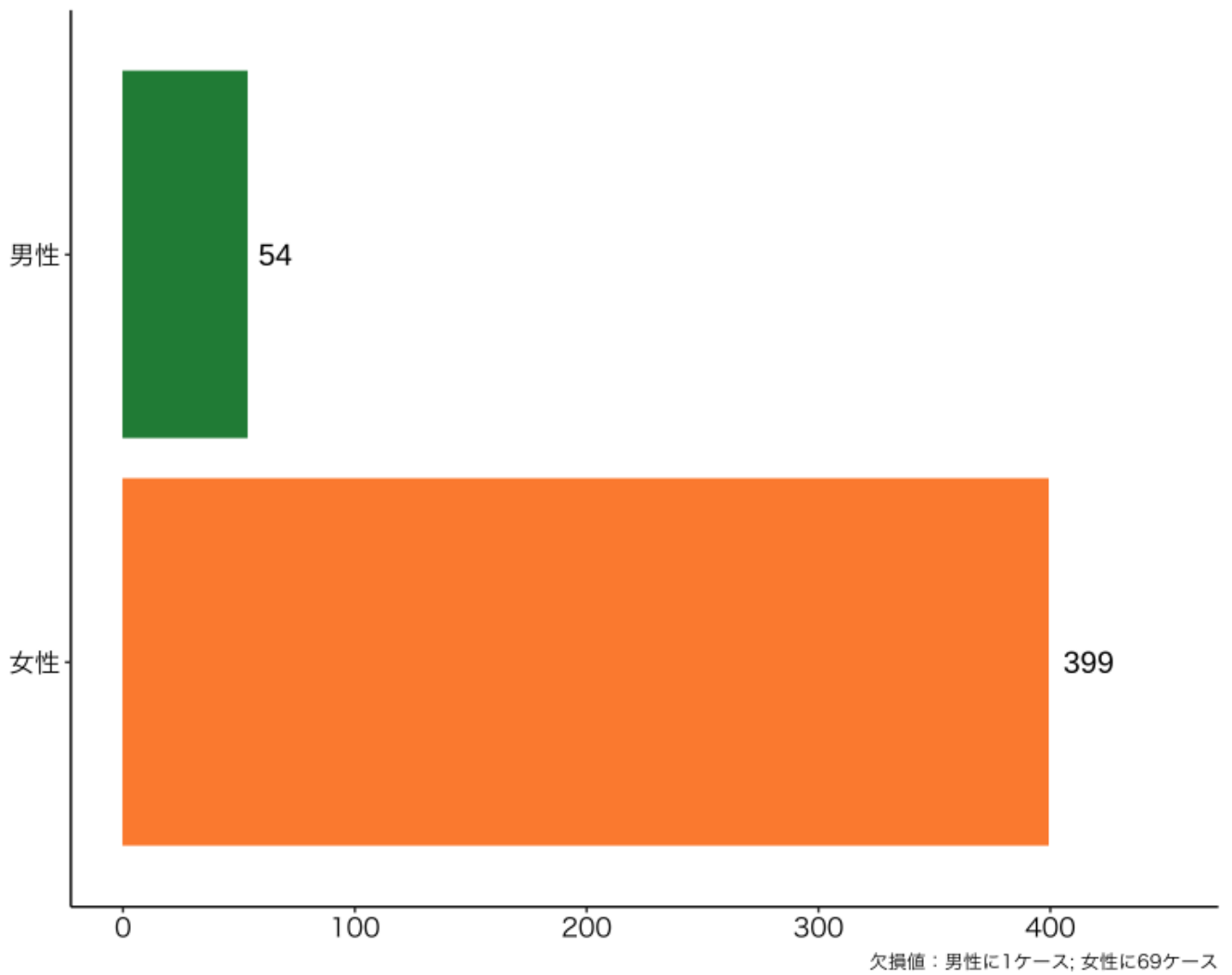
育児休業の取得状況（第二子時）【問 34 で 3～6 を回答した方のみ】



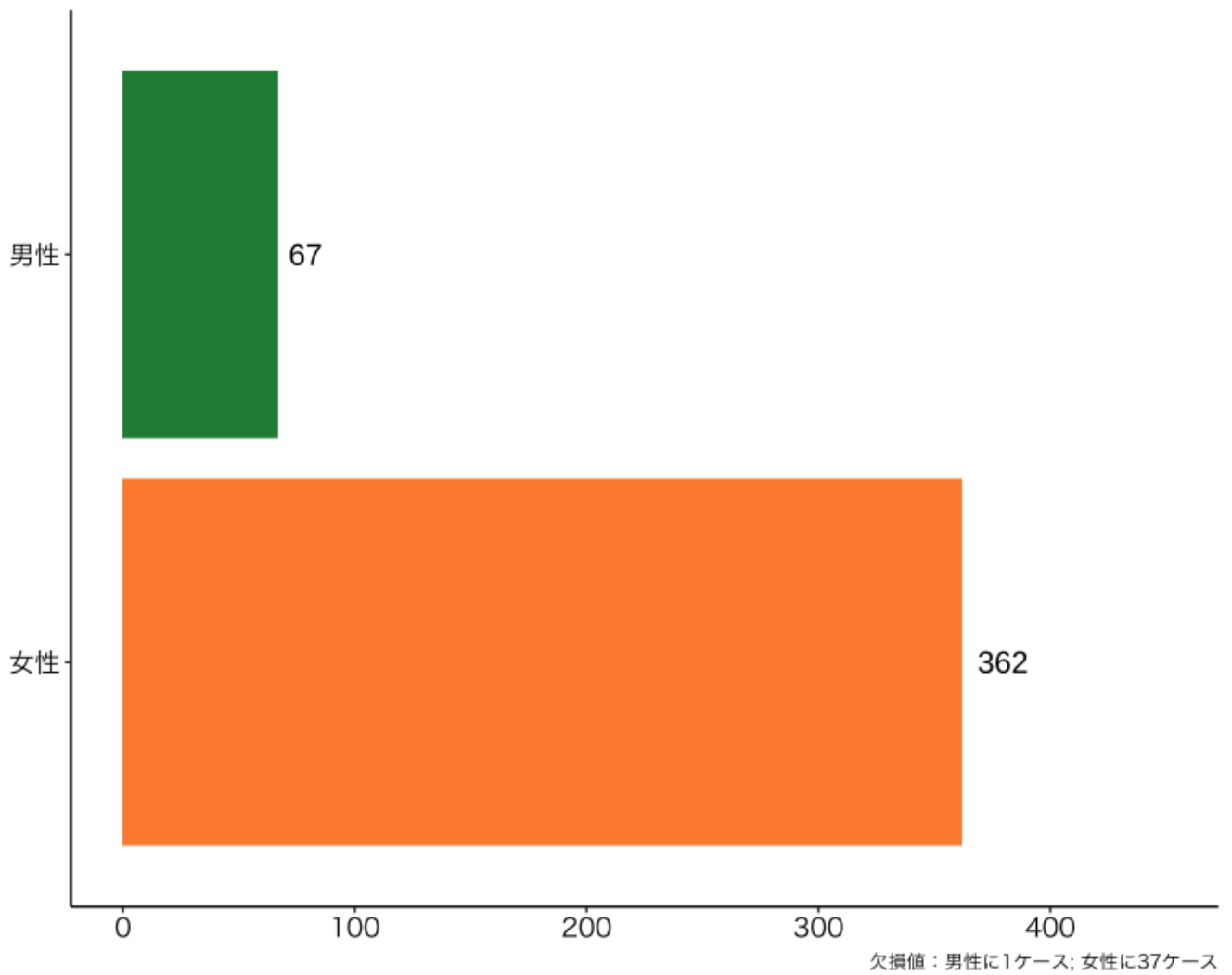
育児休業の取得状況（第三子時）【問 34 で 4～6 を回答した方のみ】



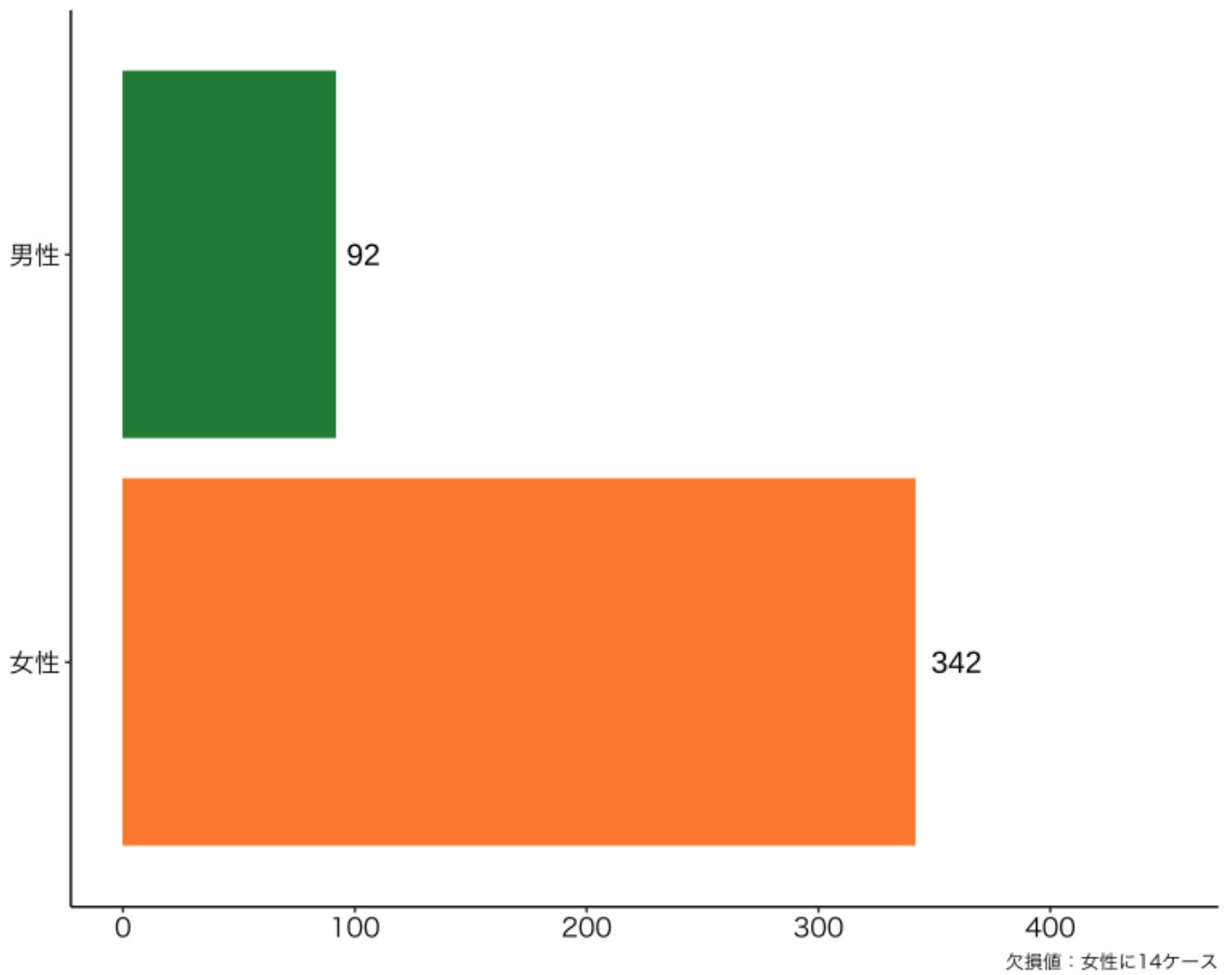
育児休業の取得日数（第一子時）【問 34 で 2～6 を回答した方のみ】



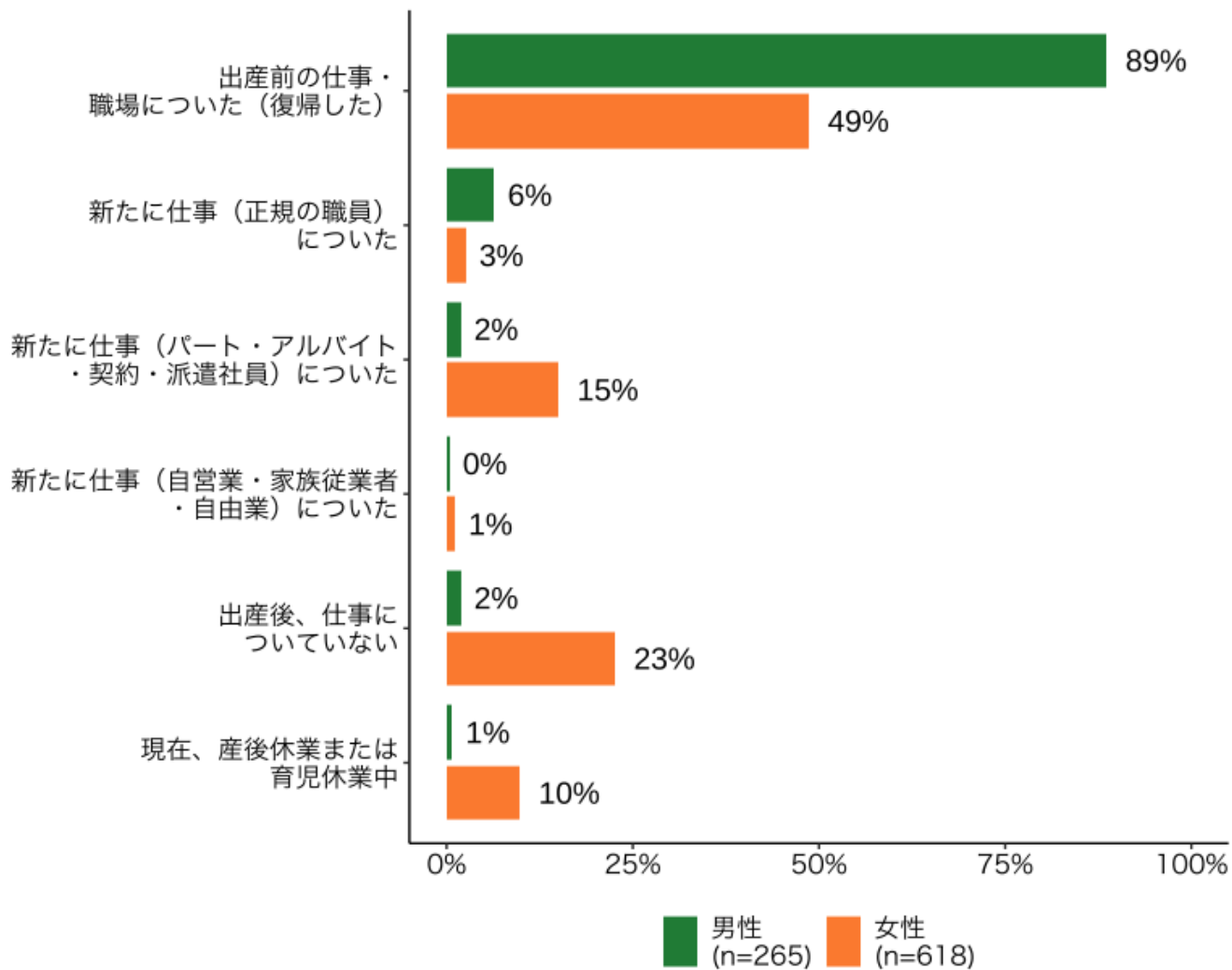
育児休業の取得日数（第二子時）【問34で3～6を回答した方のみ】



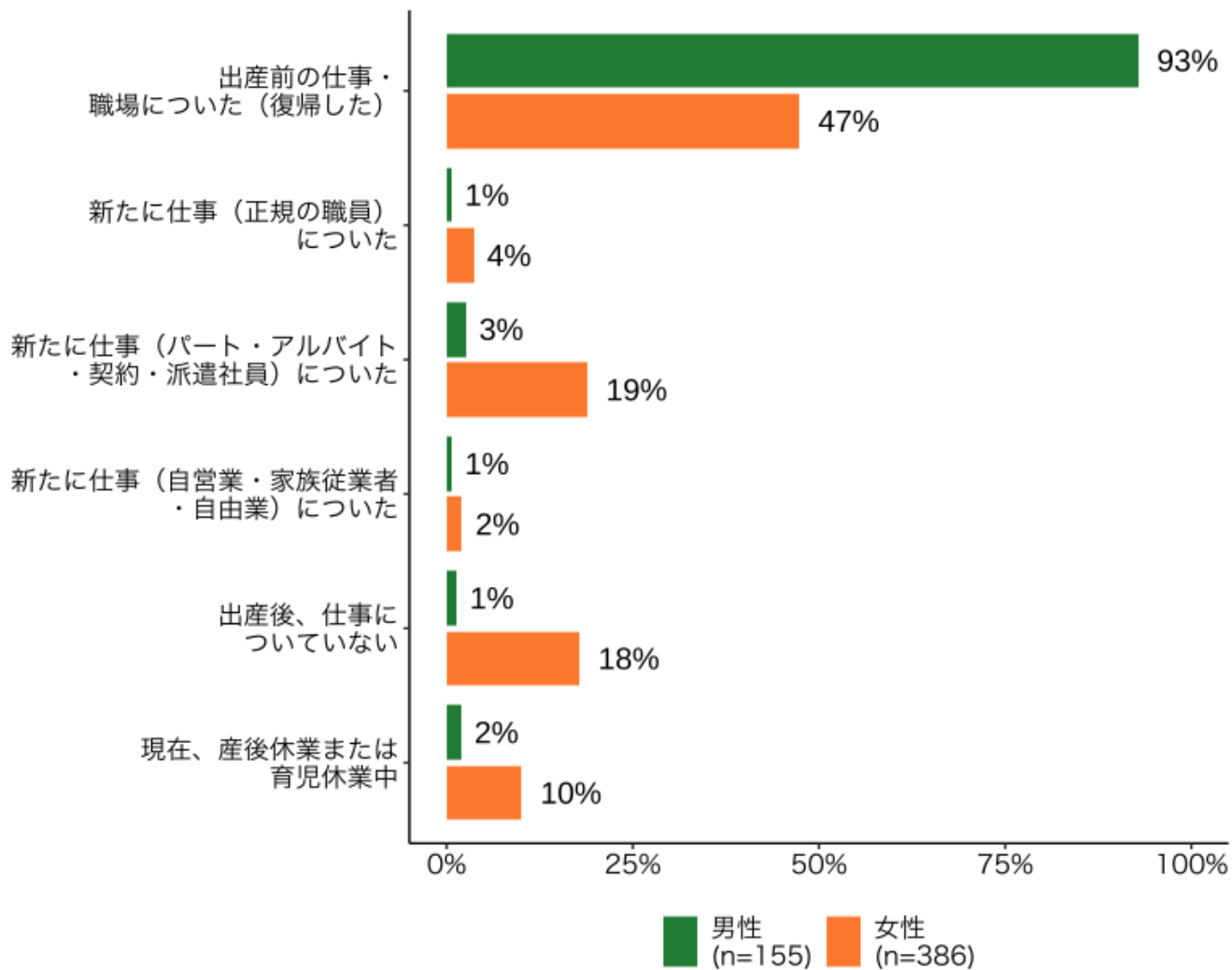
育児休業の取得日数（第三子時）【問34で4～6を回答した方のみ】



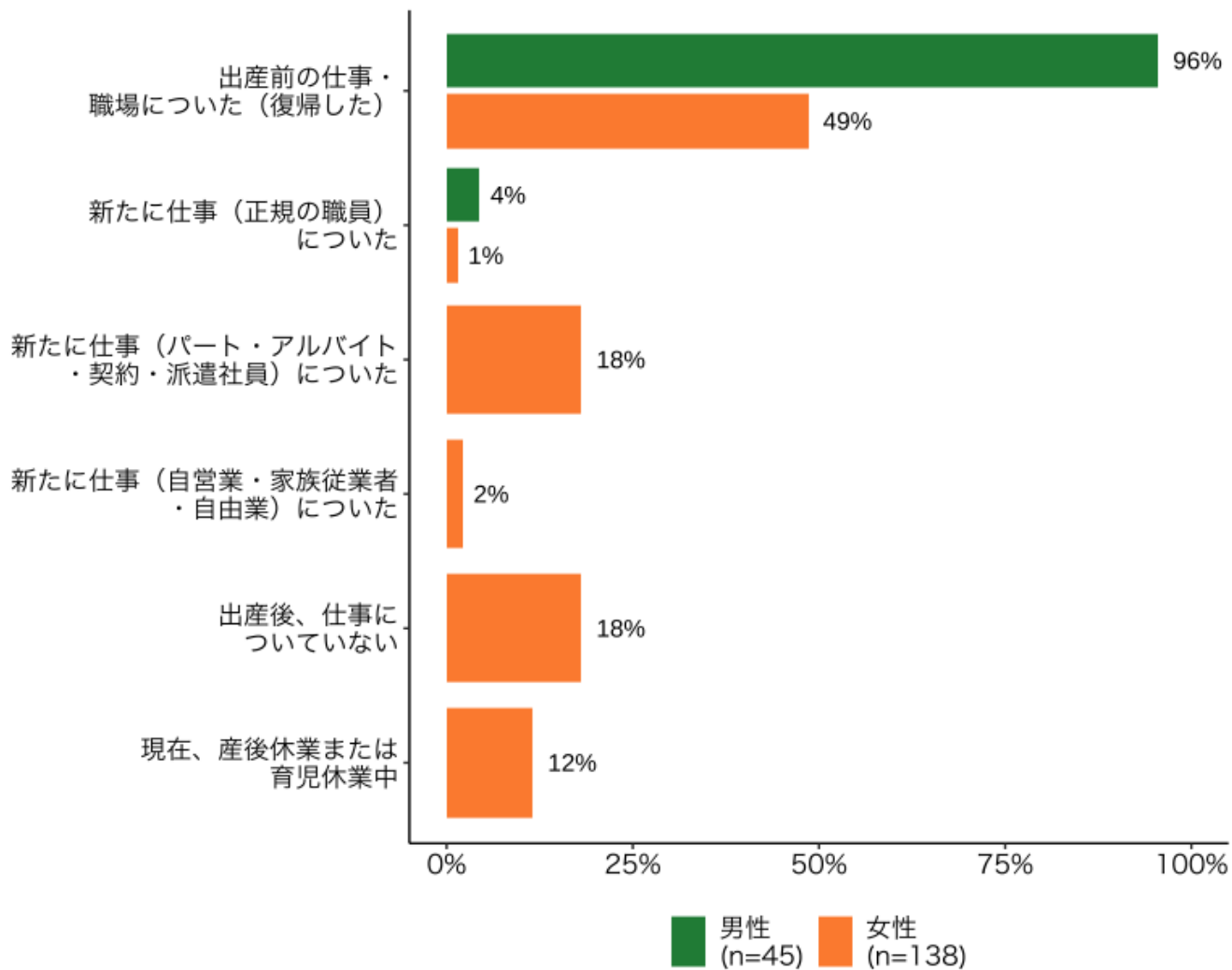
問 37 出産後の就業状況（第一子）【問 34 で 2～6 を回答した方のみ】



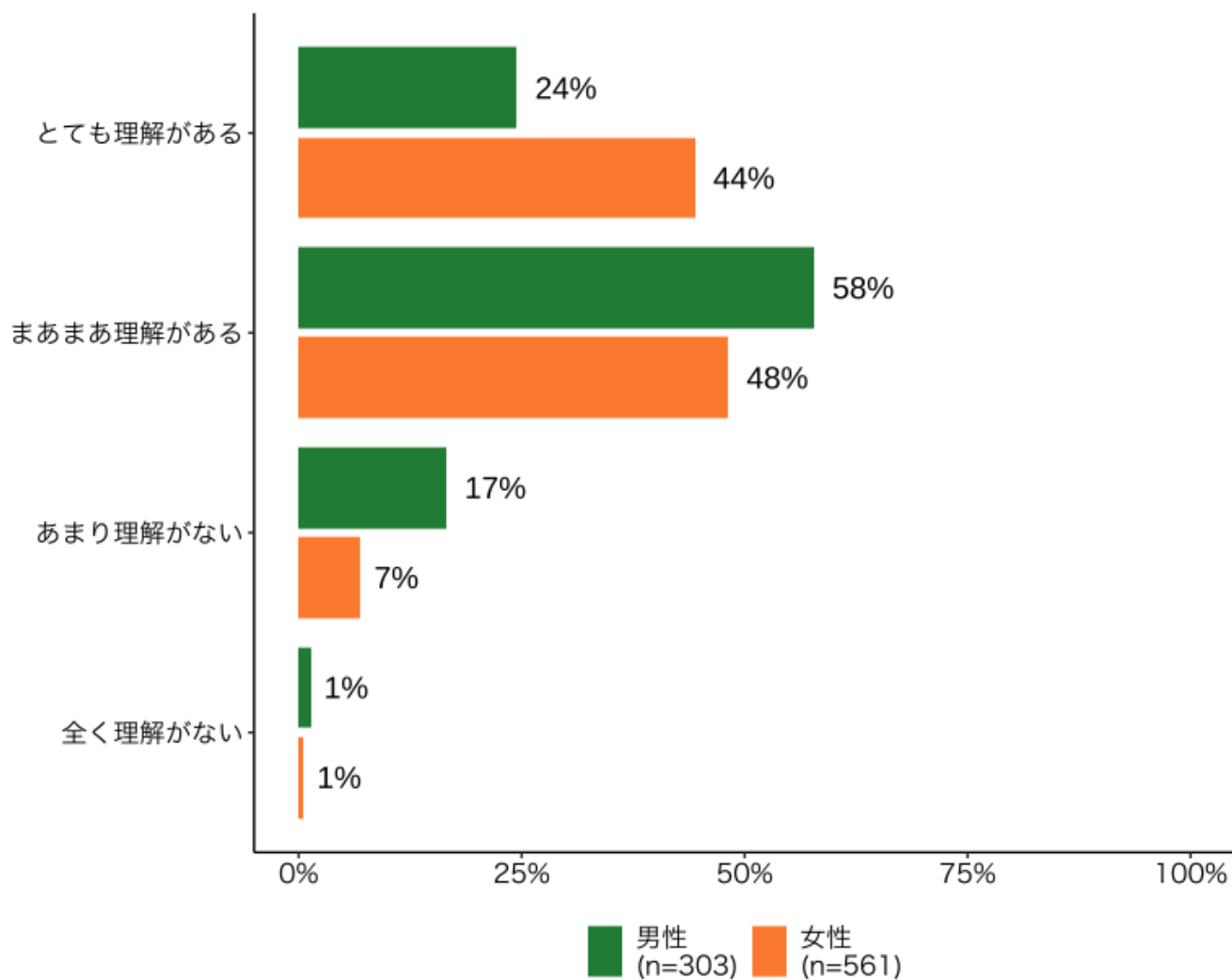
出産後の就業状況（第二子）【問 34 で 3～6 を回答した方のみ】



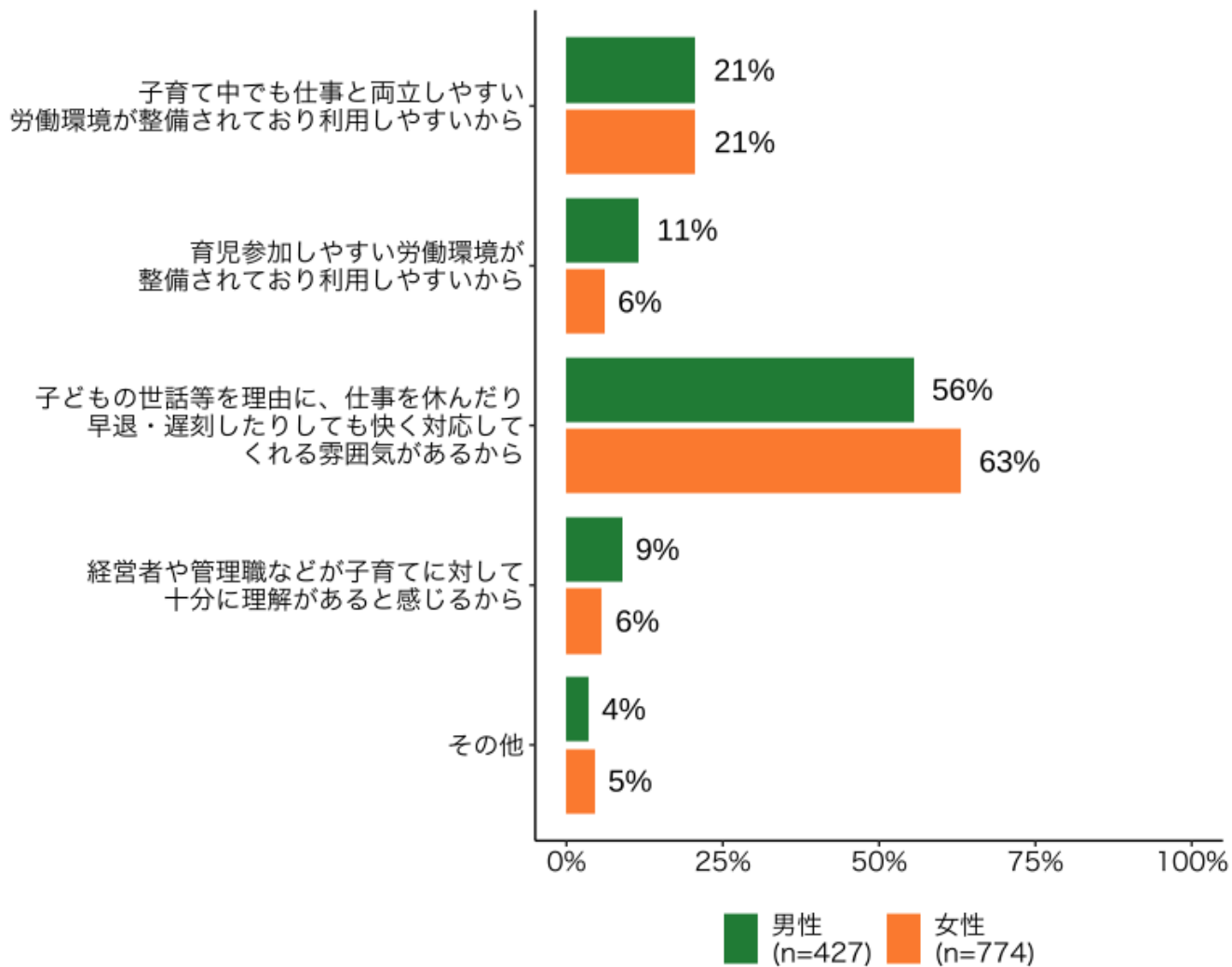
出産後の就業状況（第三子）【問 34 で 4～6 を回答した方のみ】



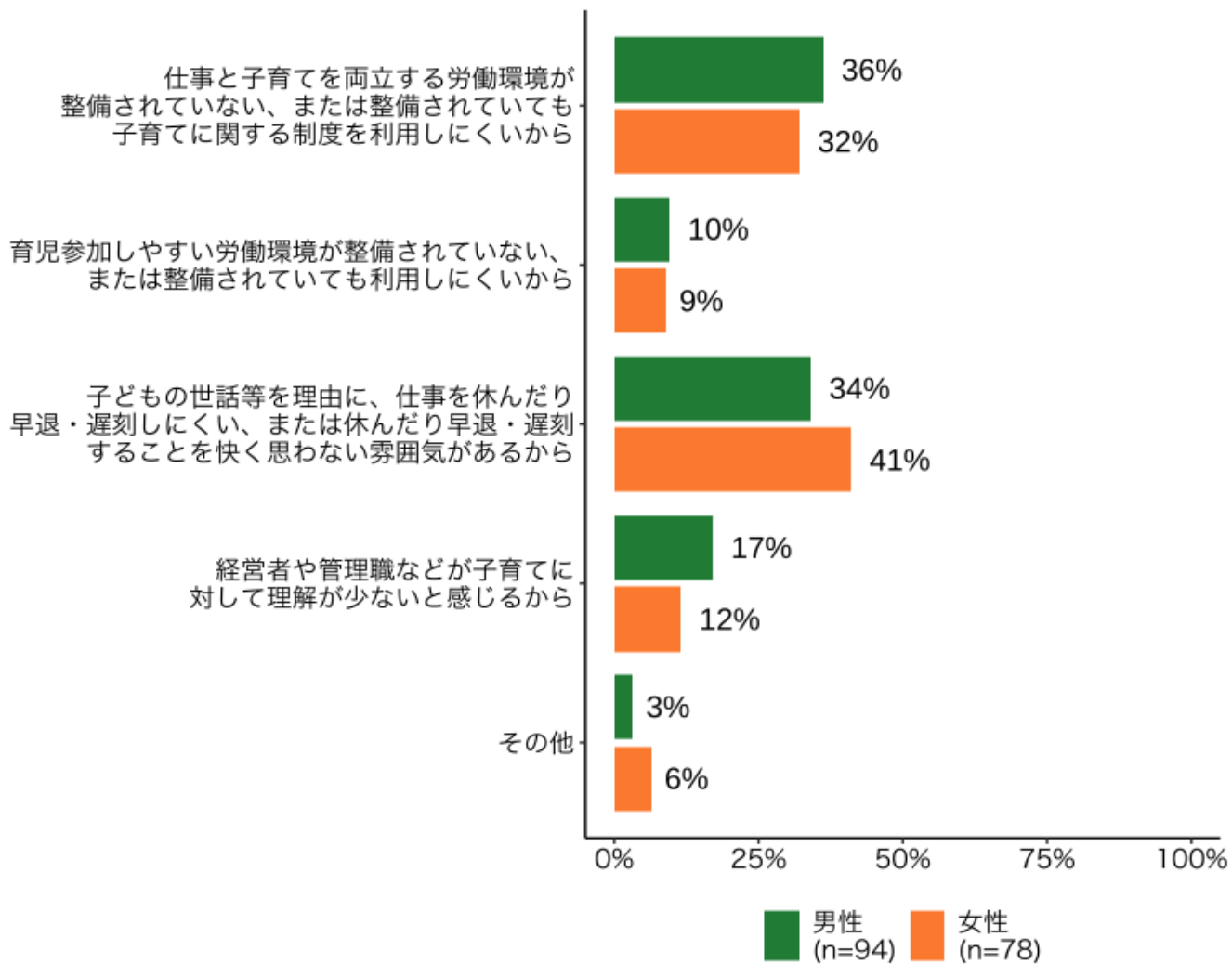
問 38 現在おつとめの職場の子育てへの理解について【問 7 で 1~3 を回答した方、かつ、問 14 で 2 もしくは問 34 で 2~6 を回答した方のみ】



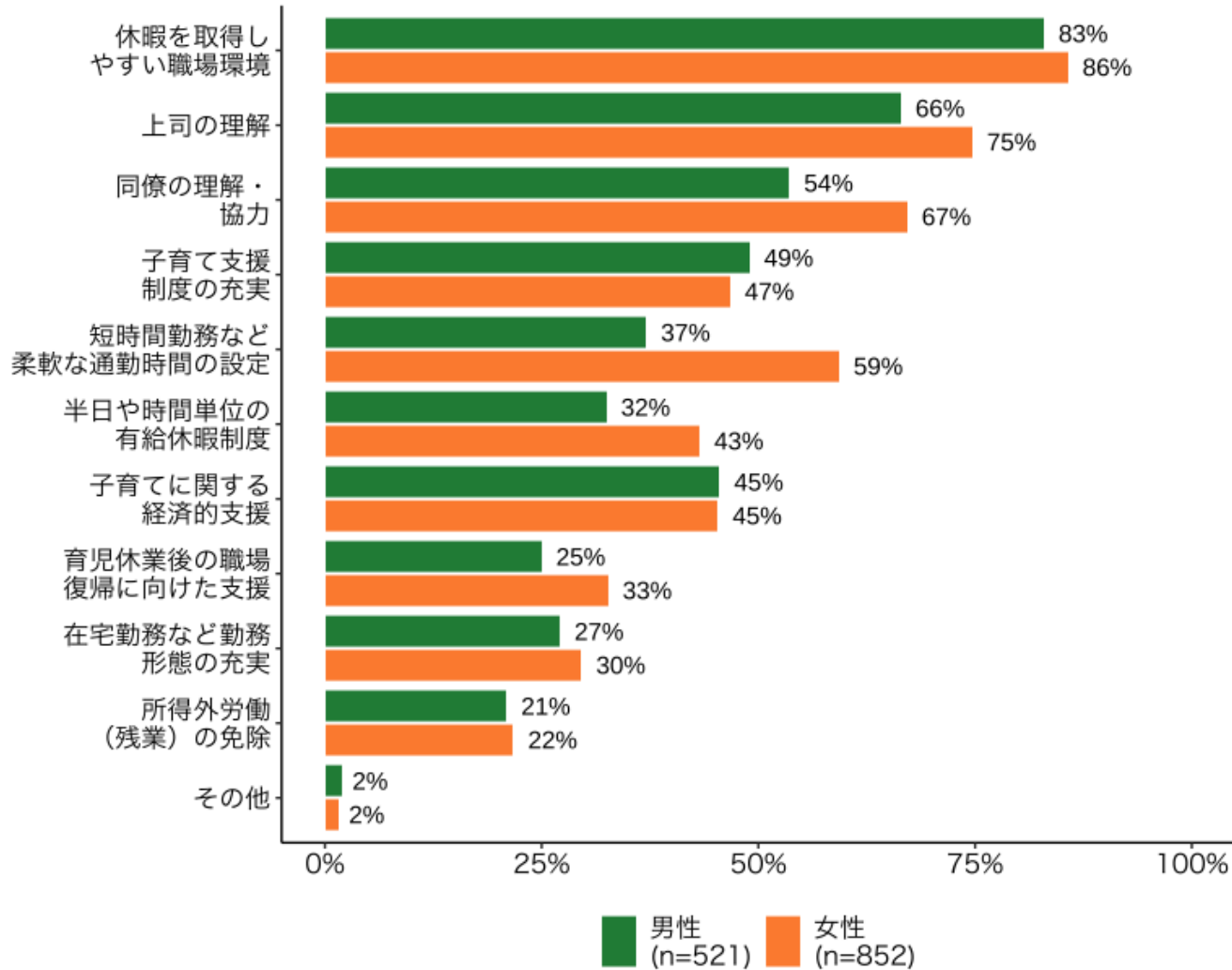
問 39-1 子育てへの理解があると回答した理由【問 38 で 1~2 を回答した方のみ】



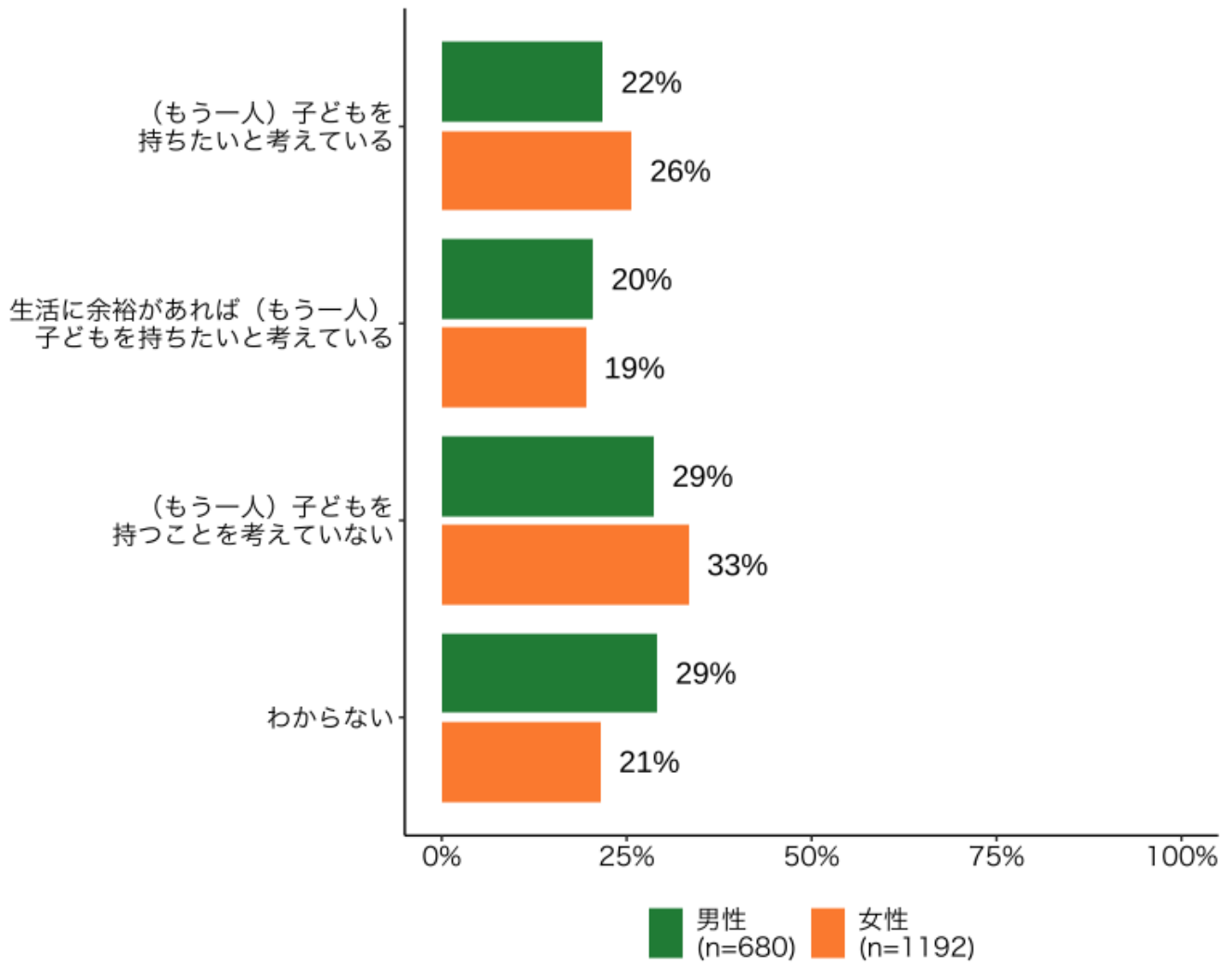
問 39-2 子育てへの理解がないと回答した理由【問 38 で 3~4 を回答した方のみ】



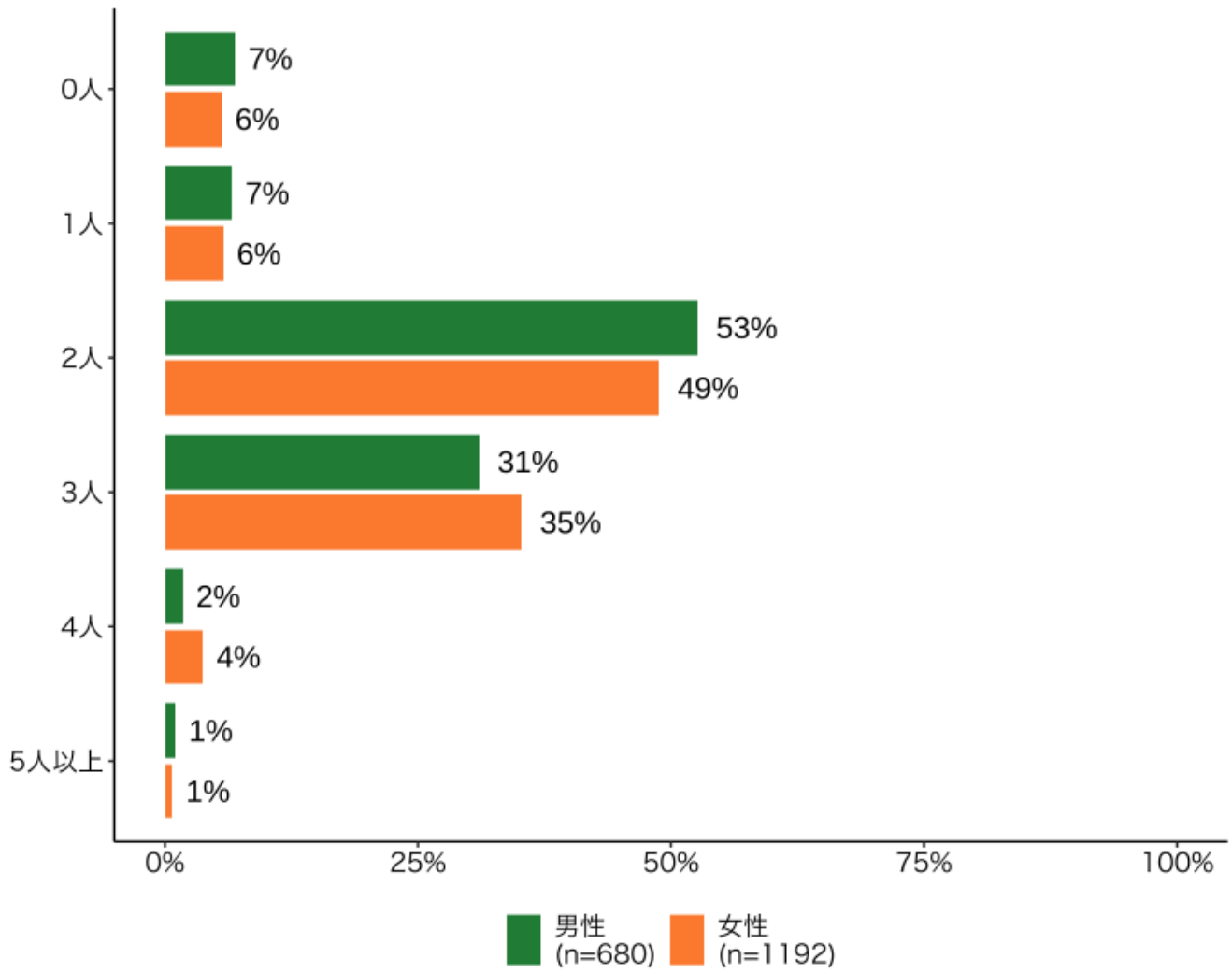
問 40 理想の労働環境【問 7 で 1~3 を回答した方のみ】



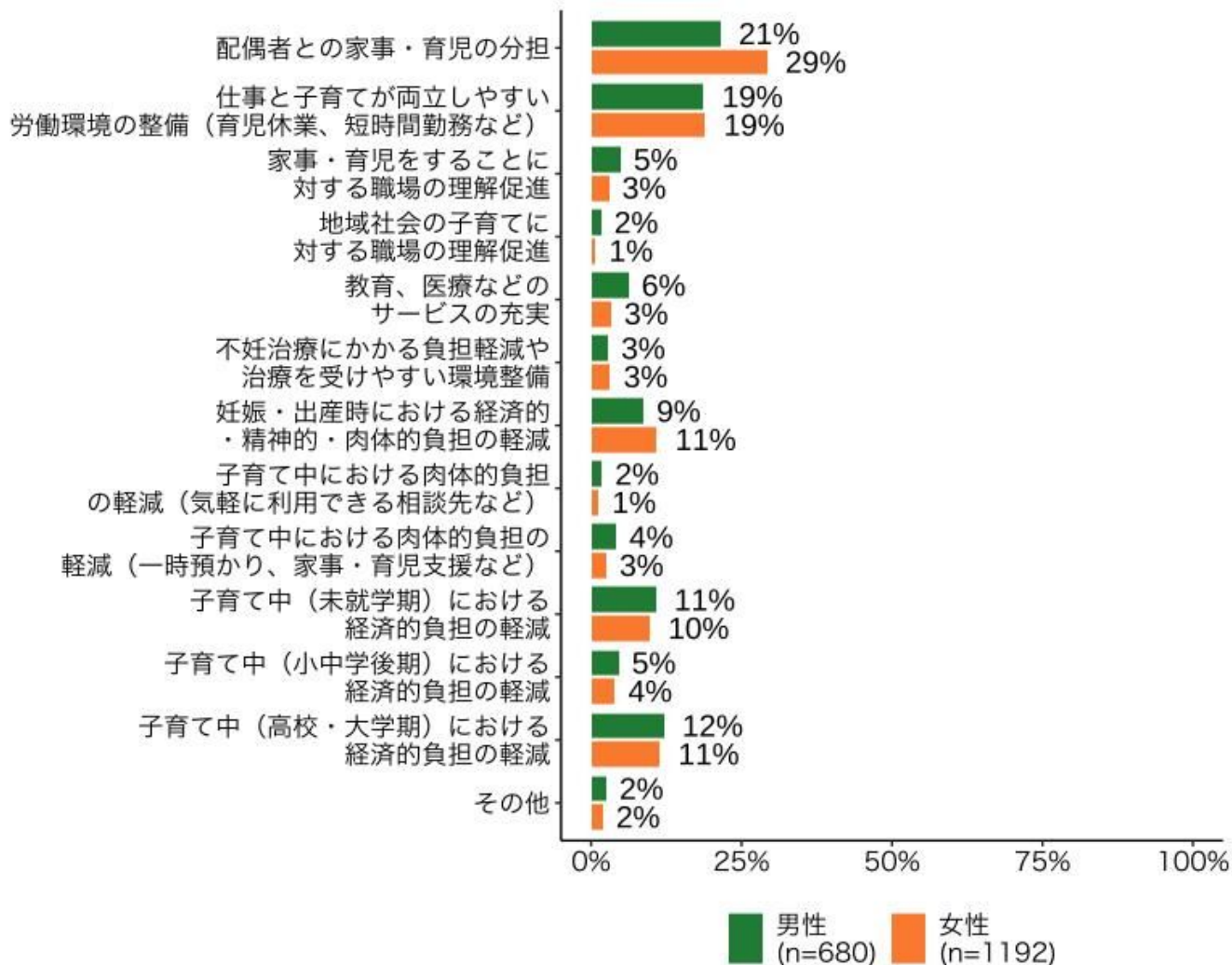
問 41 3年以内に子どもを持ちたいか【全員回答】



問 42 理想とする子ども数【全員回答】

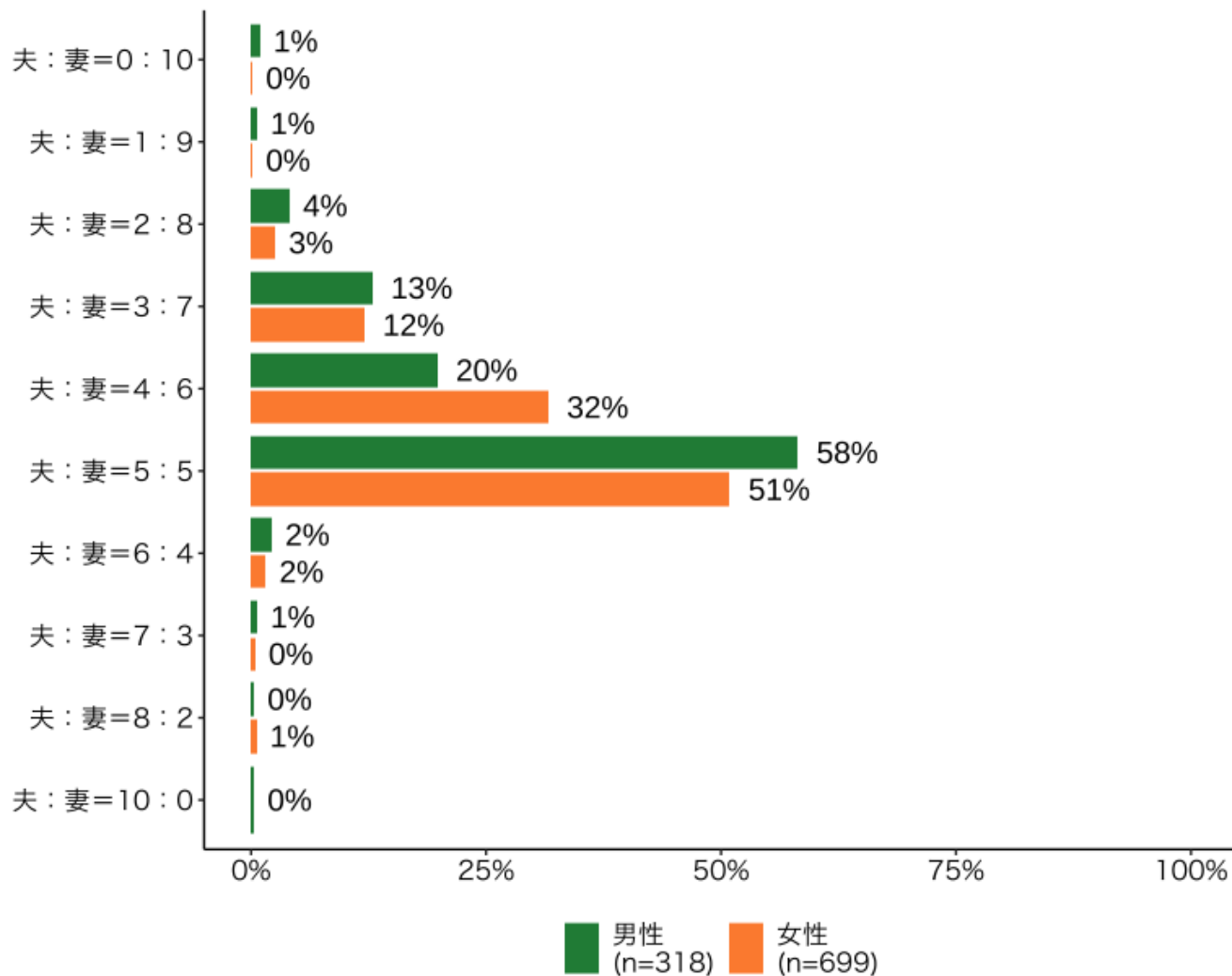


問 43 理想とする子ども数の実現に必要なもの（1位）【全員回答】

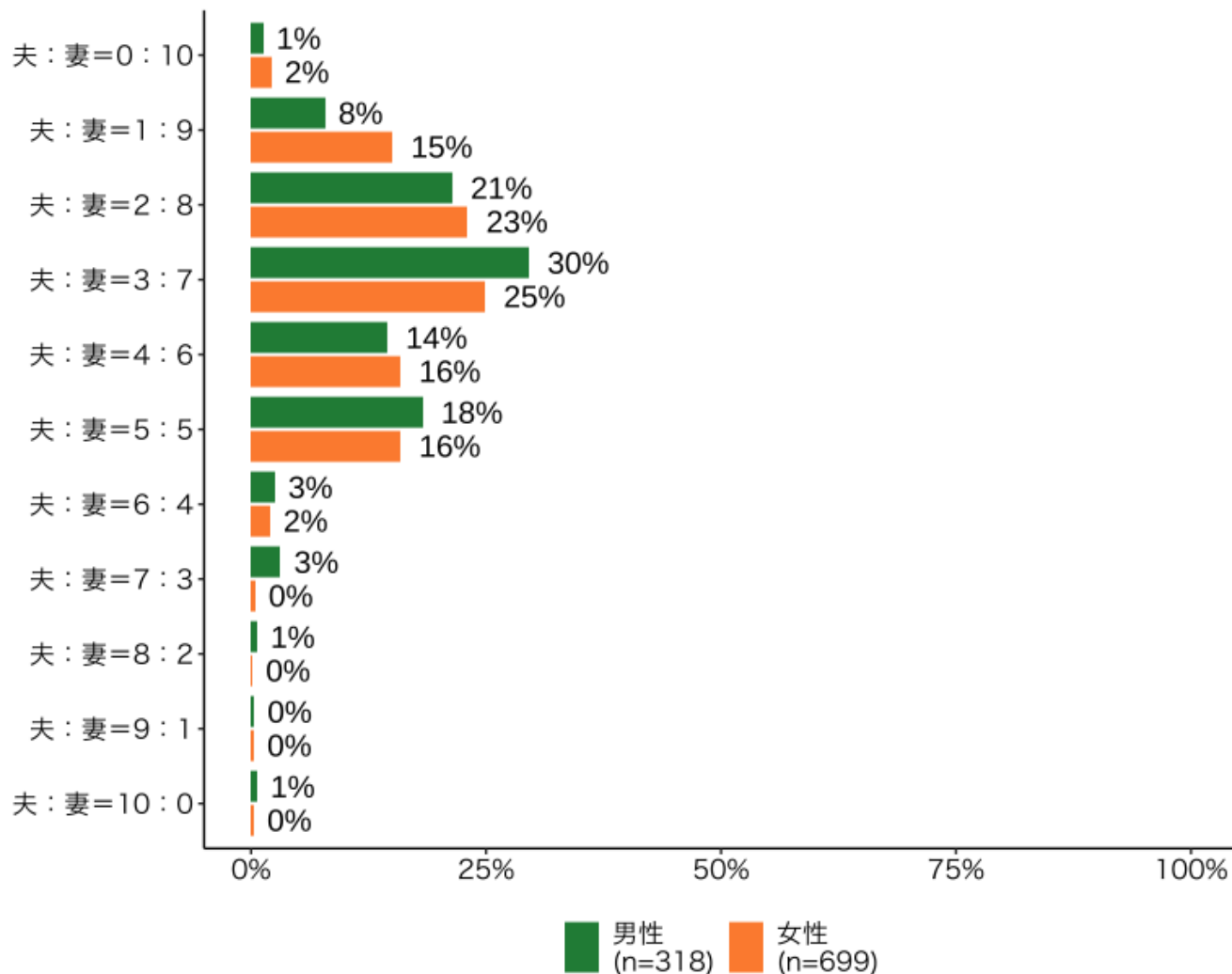


4. 家事・育児について

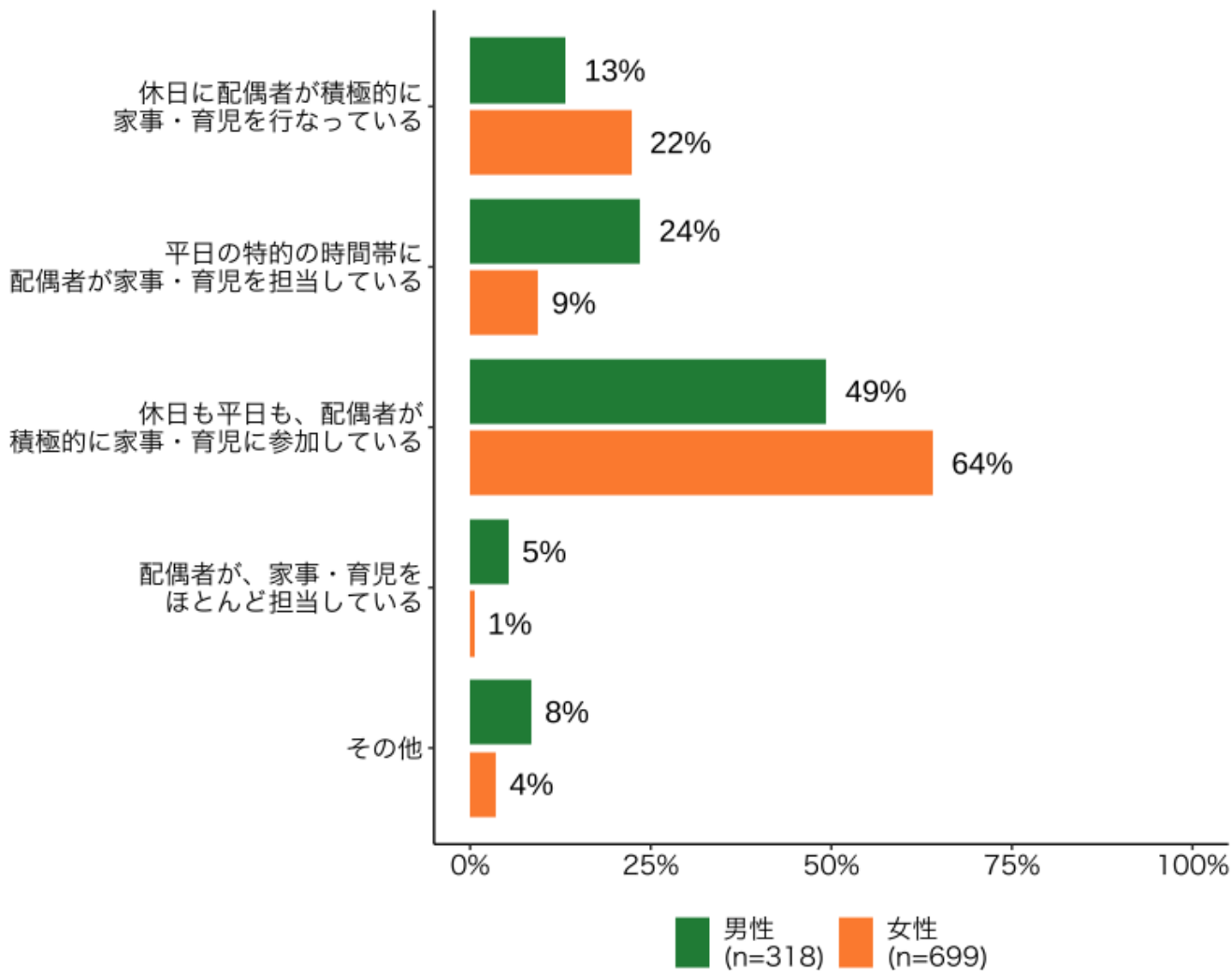
問 44 夫と妻の家事・育児への理想の関わり具合【問 14 で 2 と回答した方のみ】



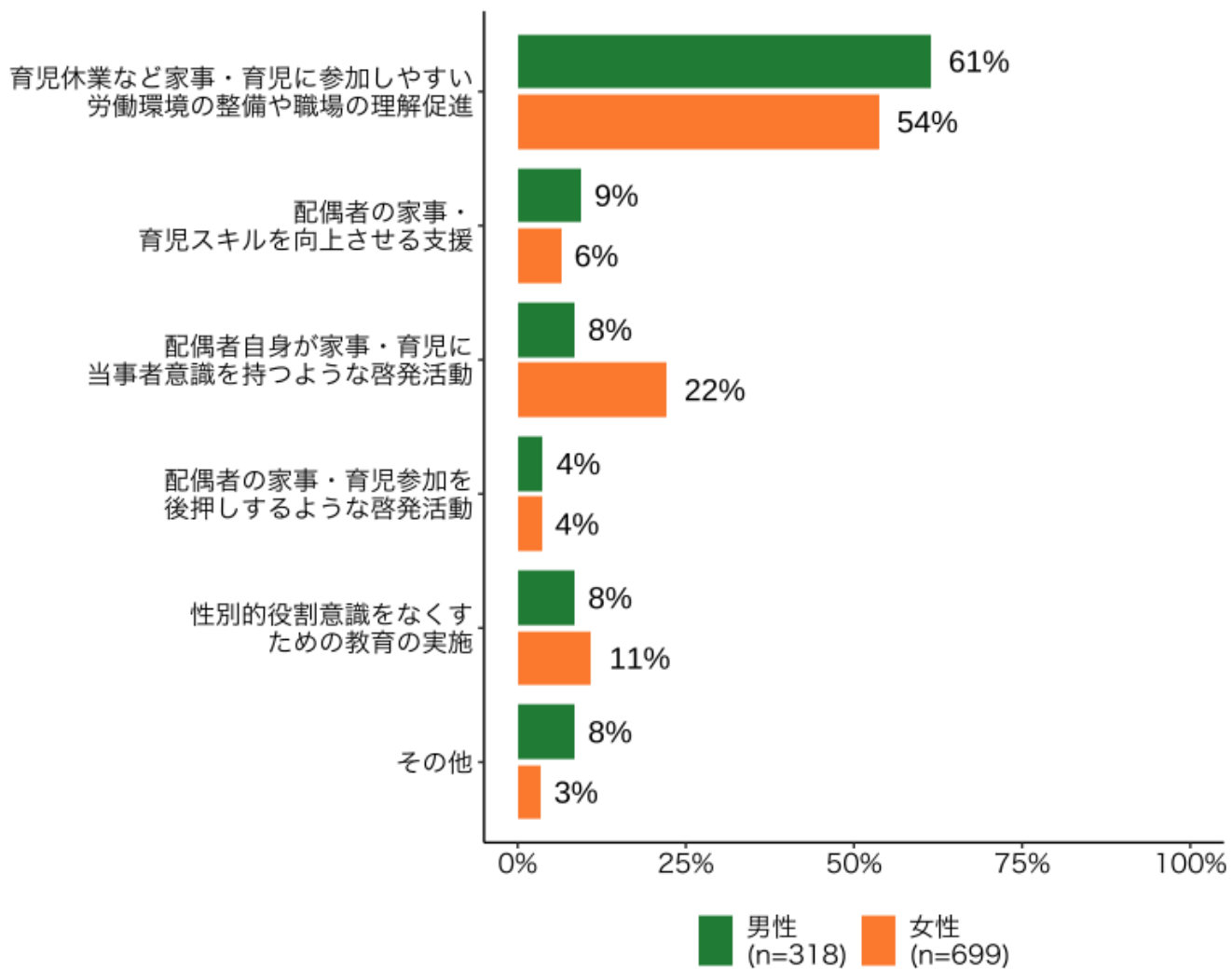
問 45 夫と妻の家事・育児への実際の関わり具合【問 14 で 2 と回答した方のみ】



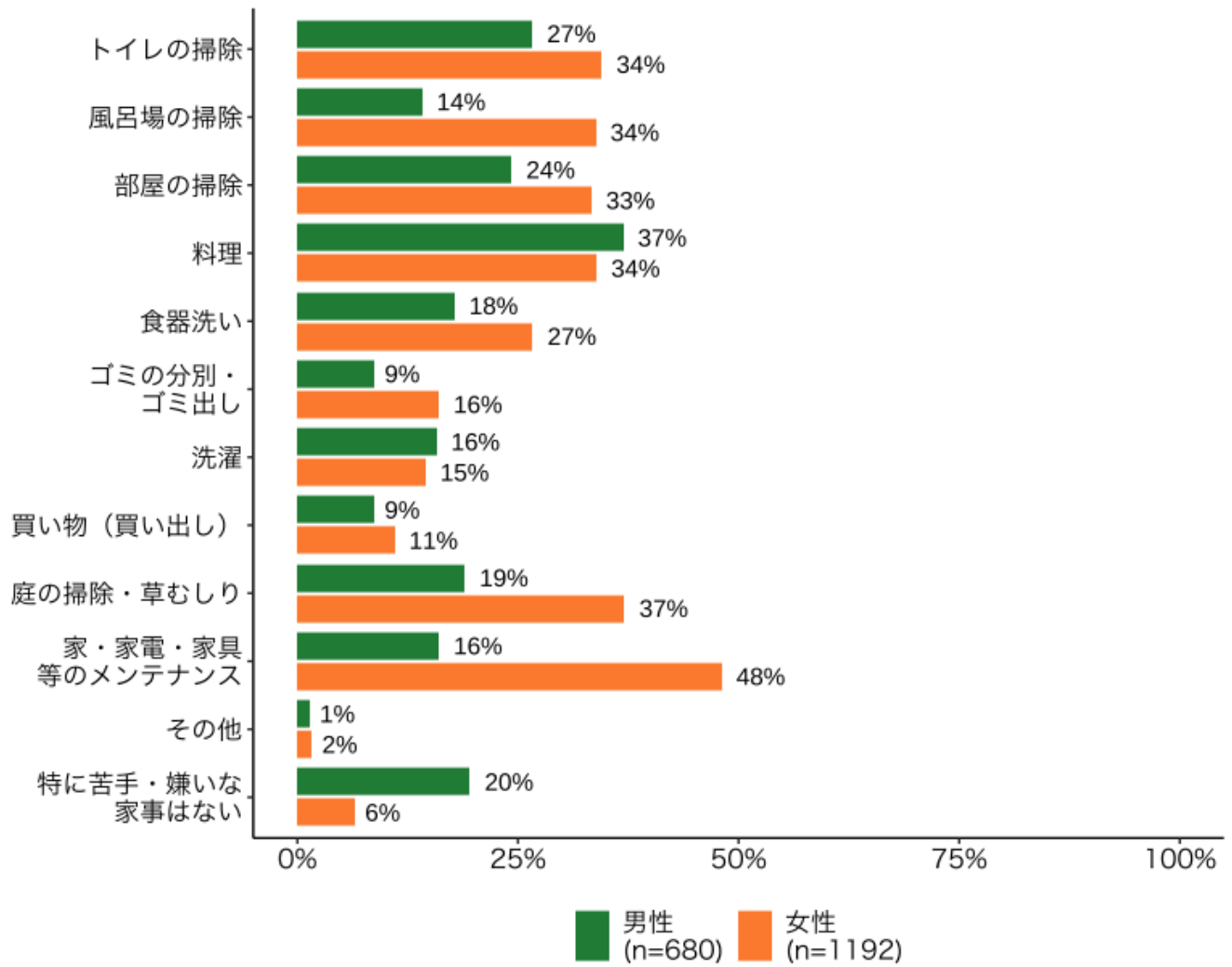
問 46 理想とする配偶者の家事・育児の関わり方【問 14 で 2 と回答した方のみ】



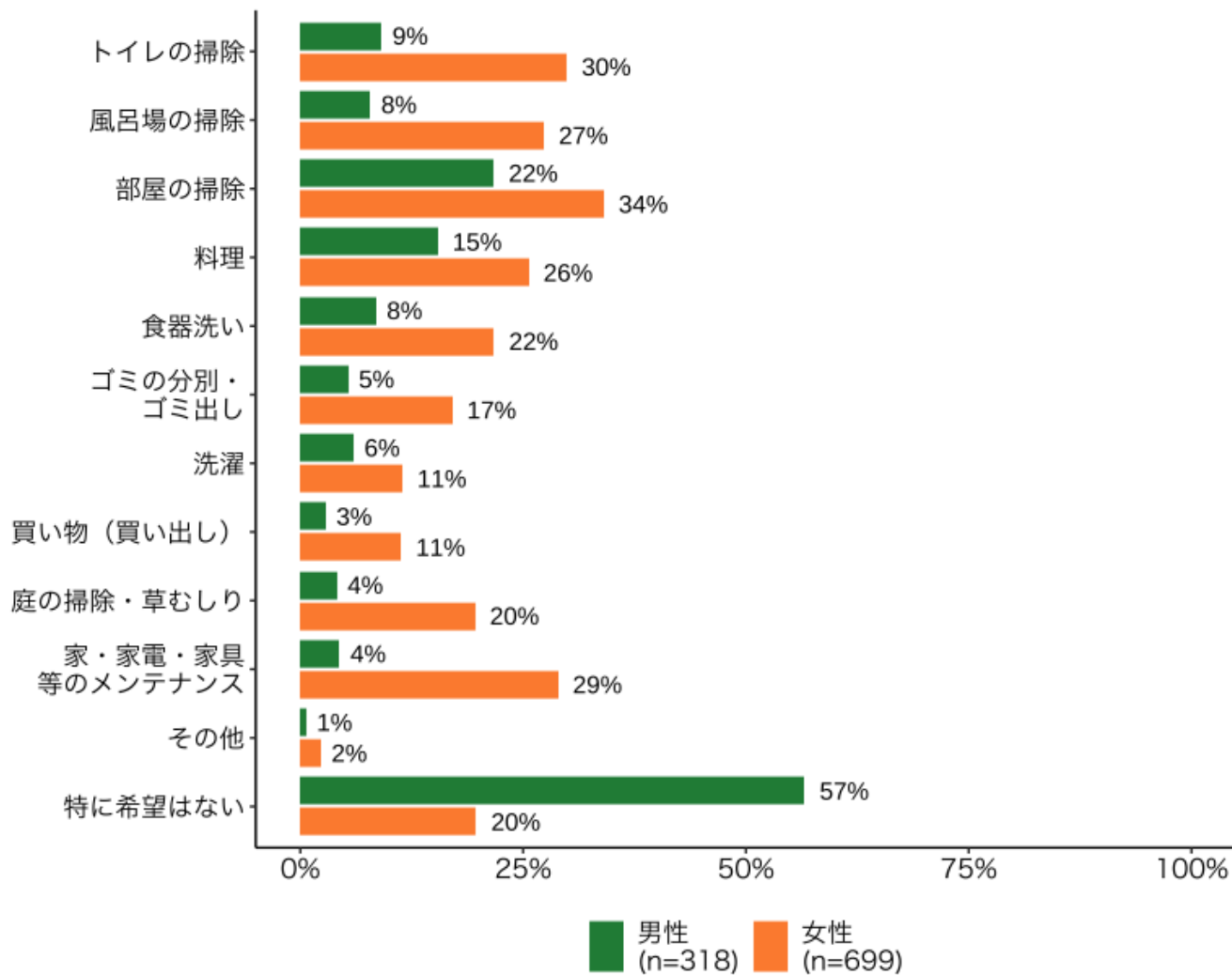
問 47 理想の家事・育児の関わり具合を実現するために必要だと思うこと【問 14 で 2 と回答した方のみ】



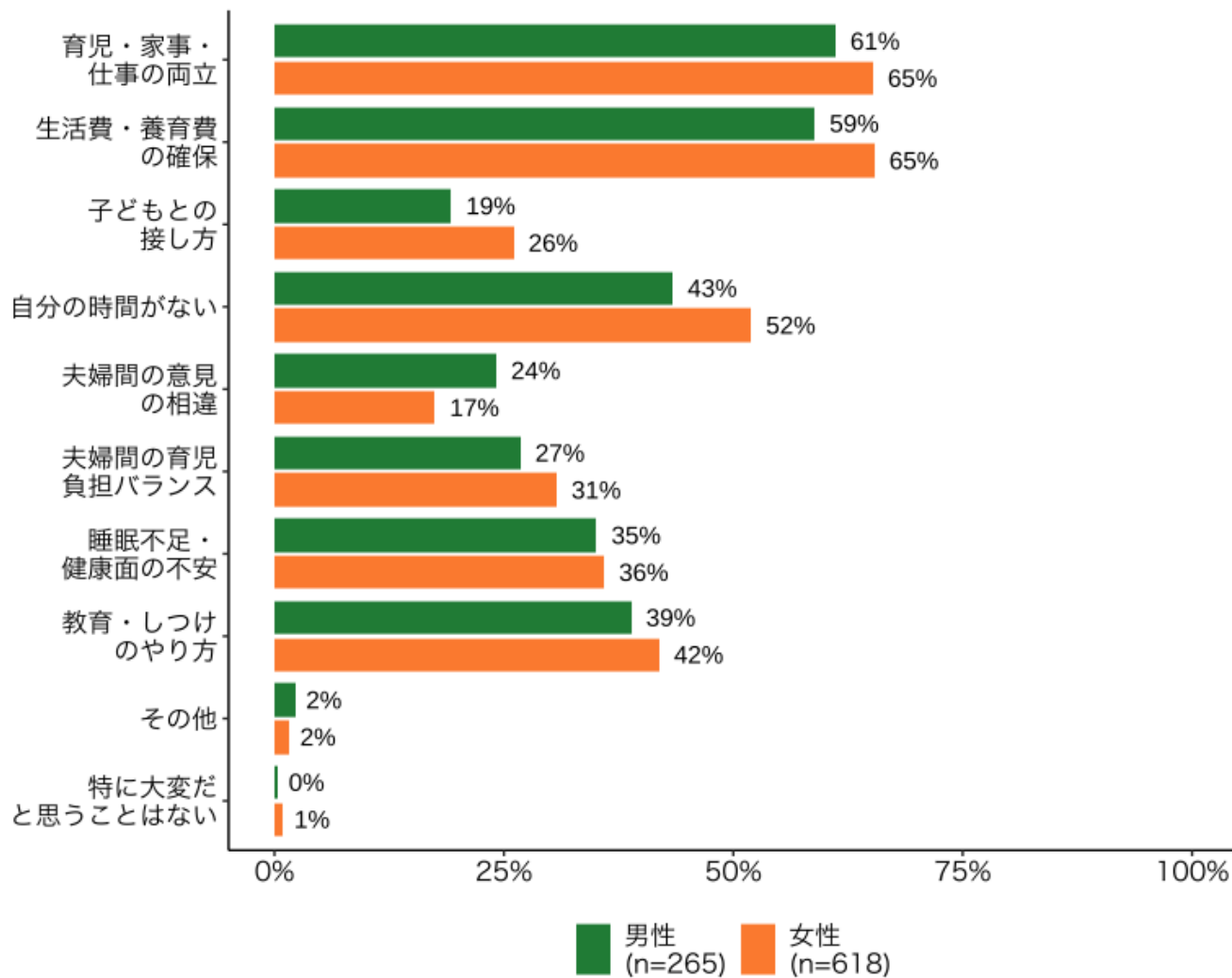
問 48 苦手な家事【全員回答】



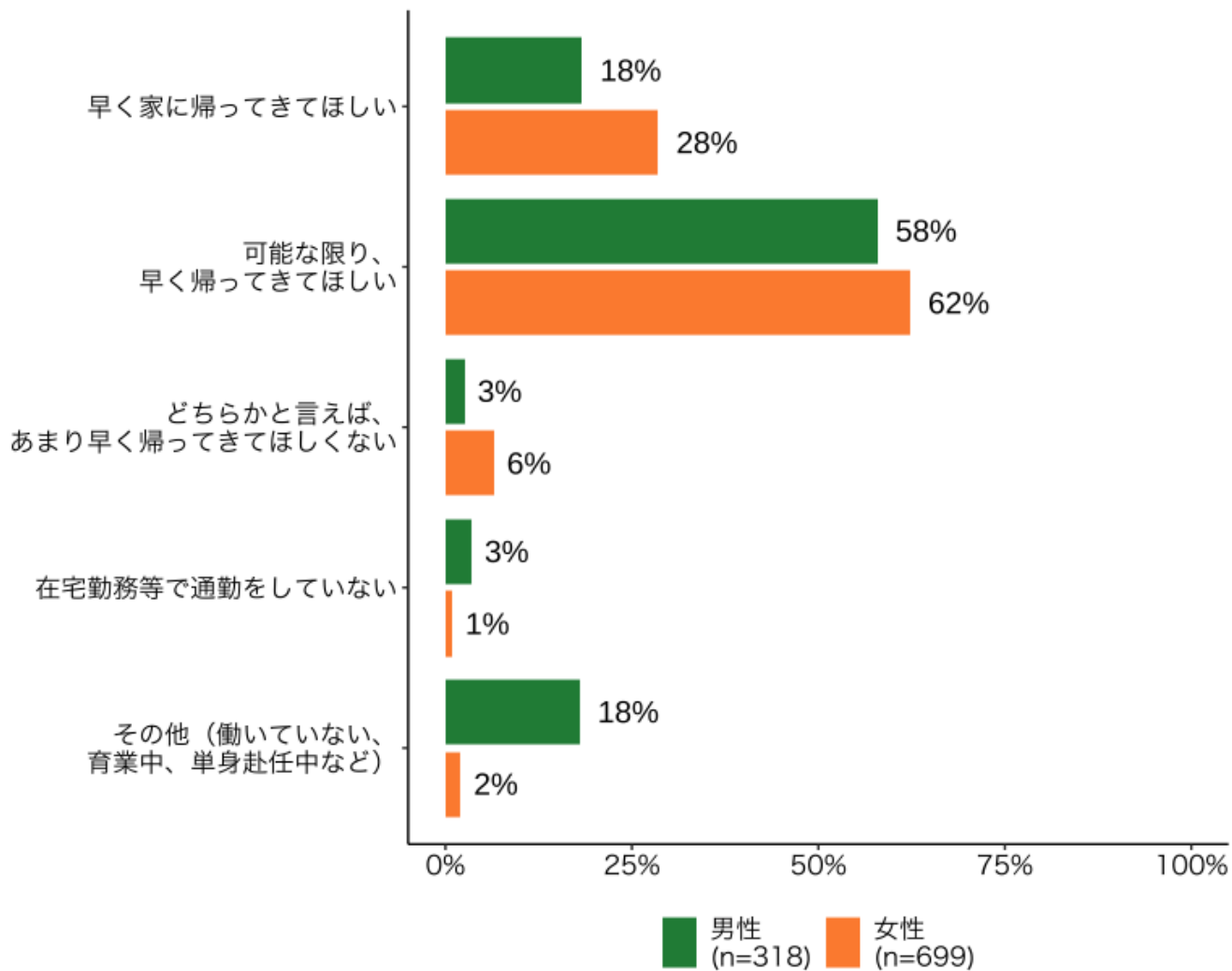
問 49 配偶者に行ってほしいと思う家事【問 14 で 2 と回答した方のみ】



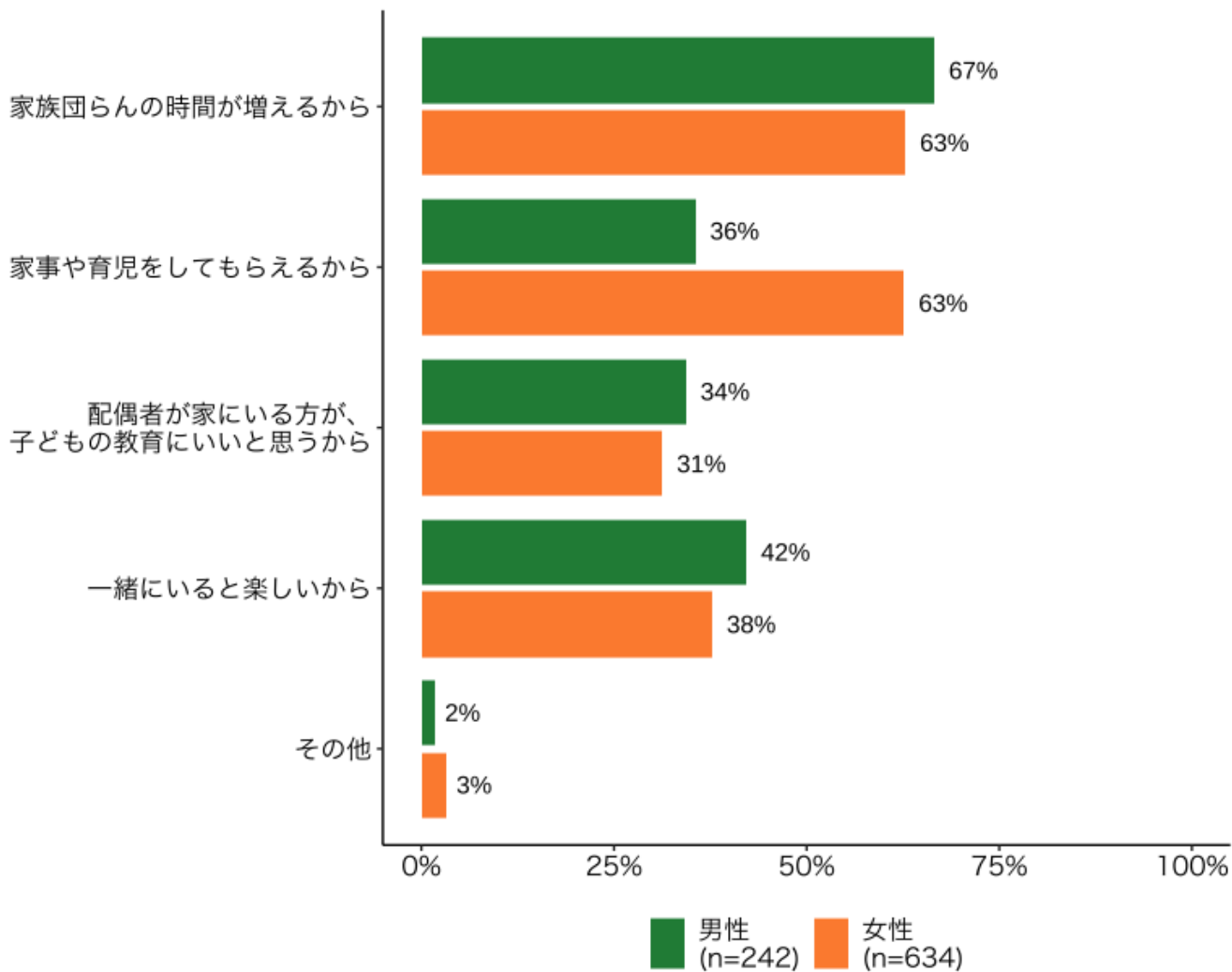
問 50 子育てで大変だと思うこと【問 34 で 2~6 と回答した方のみ】



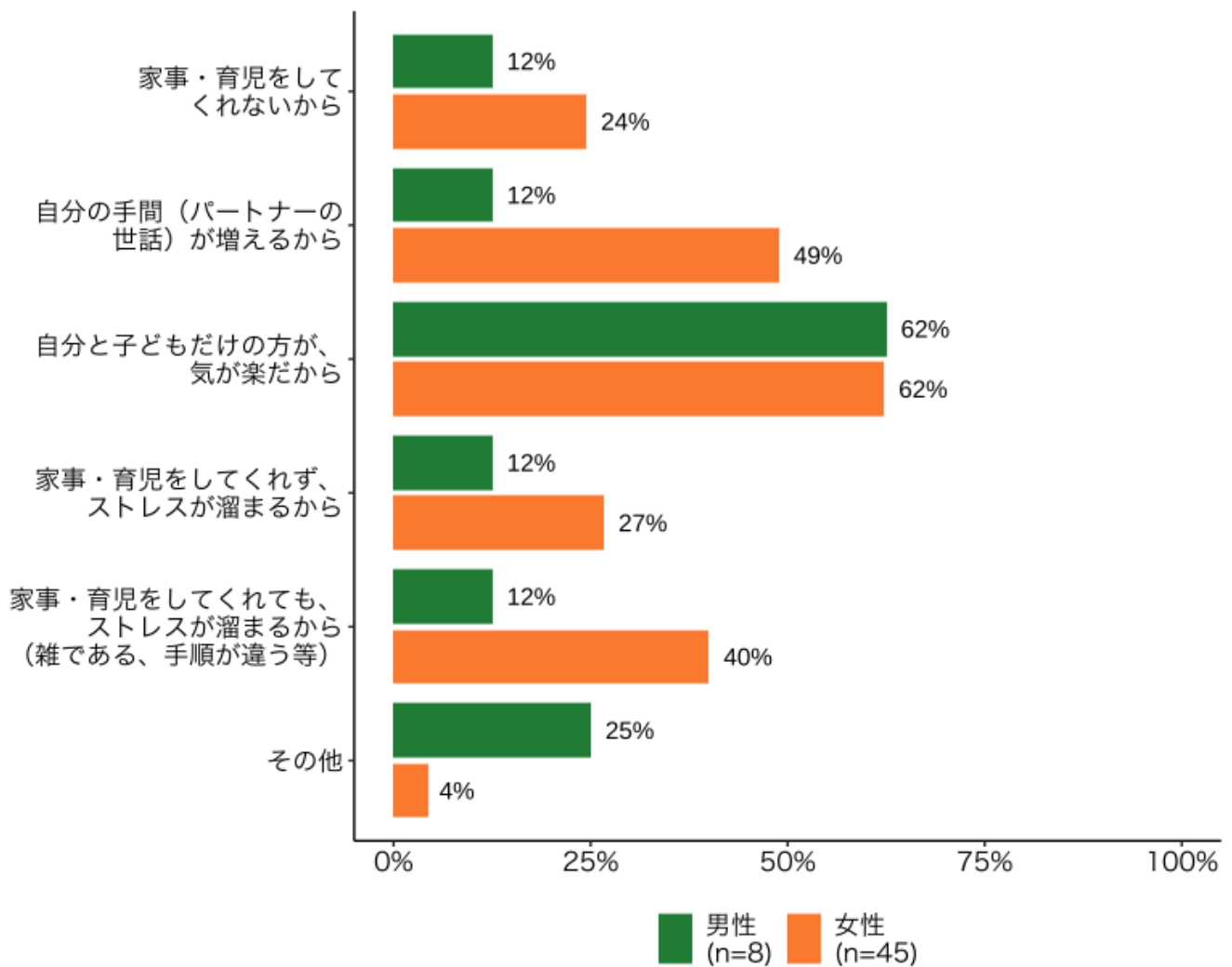
問 51-1 配偶者の帰宅時間【問 14 で 2 と回答した方のみ】



問 51-2 配偶者に早く帰宅してほしいと思う理由【問 51-1 で 1~2 と回答した方のみ】

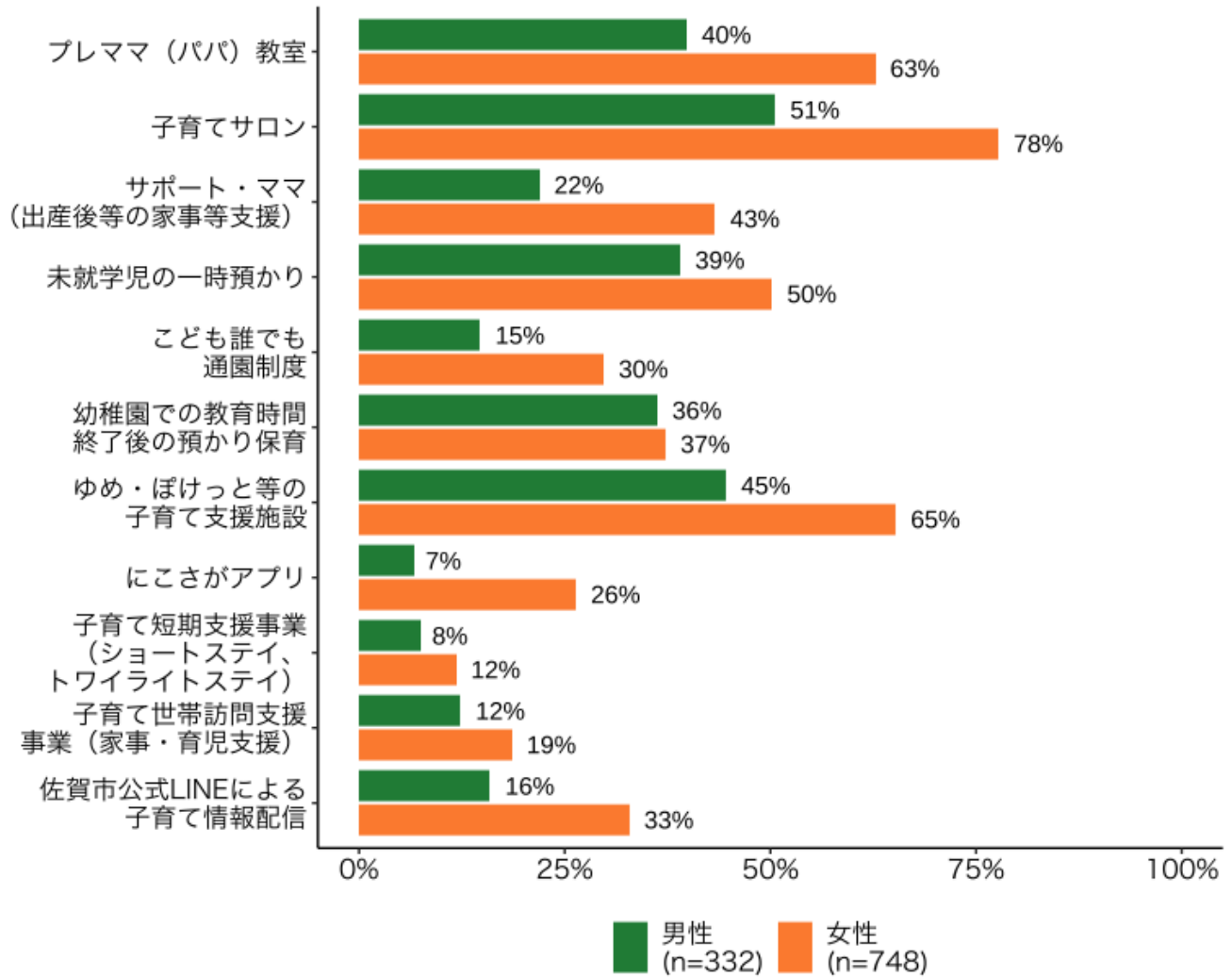


問 51-3 配偶者に、あまり早く帰ってきてほしくないと思う理由【問 51-1 で 3 と回答した方のみ】



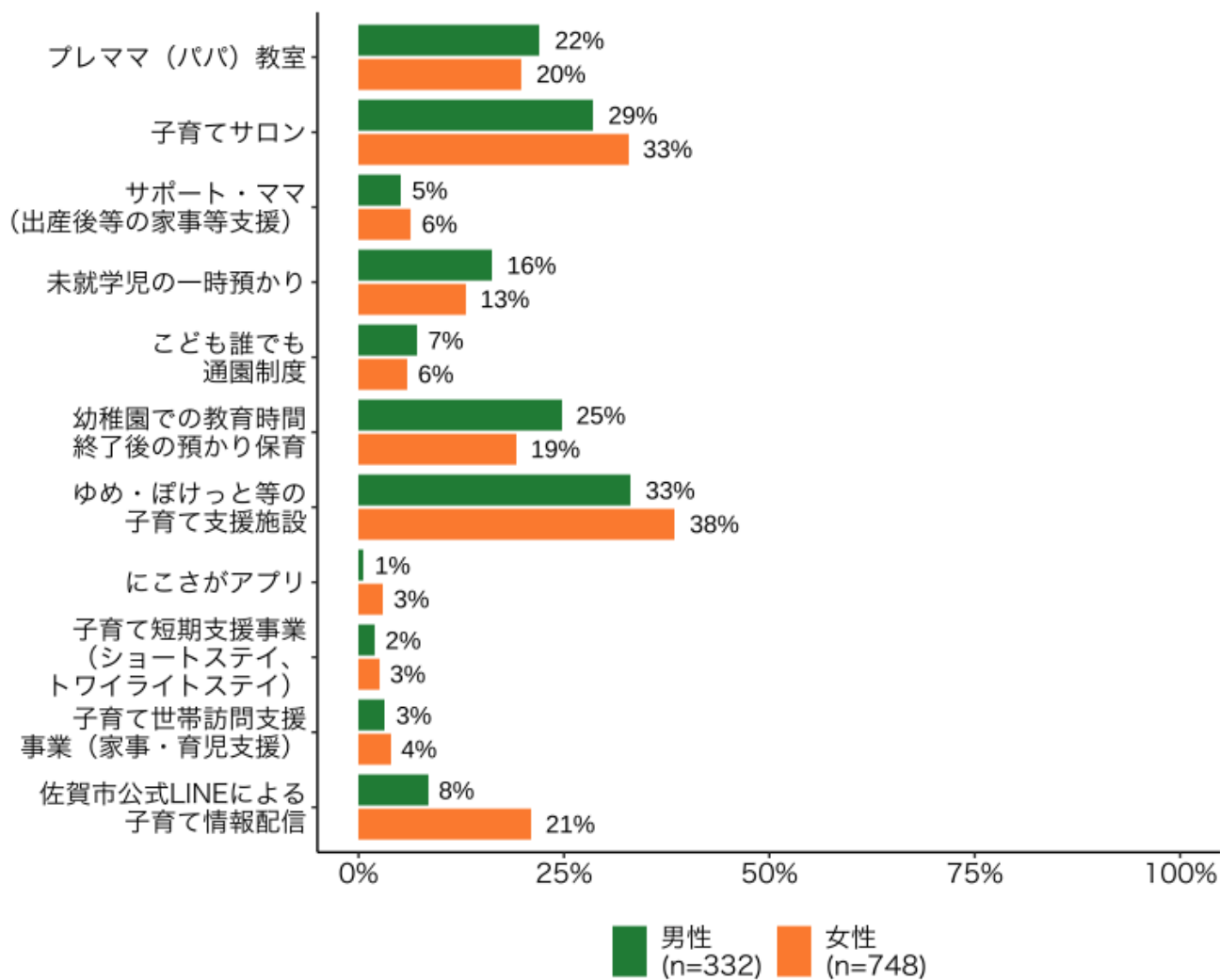
5. 子育て支援策について

問 52 子育て支援策の認知度【問 14 で 2、または問 34 で 2～6 と回答した方のみ】



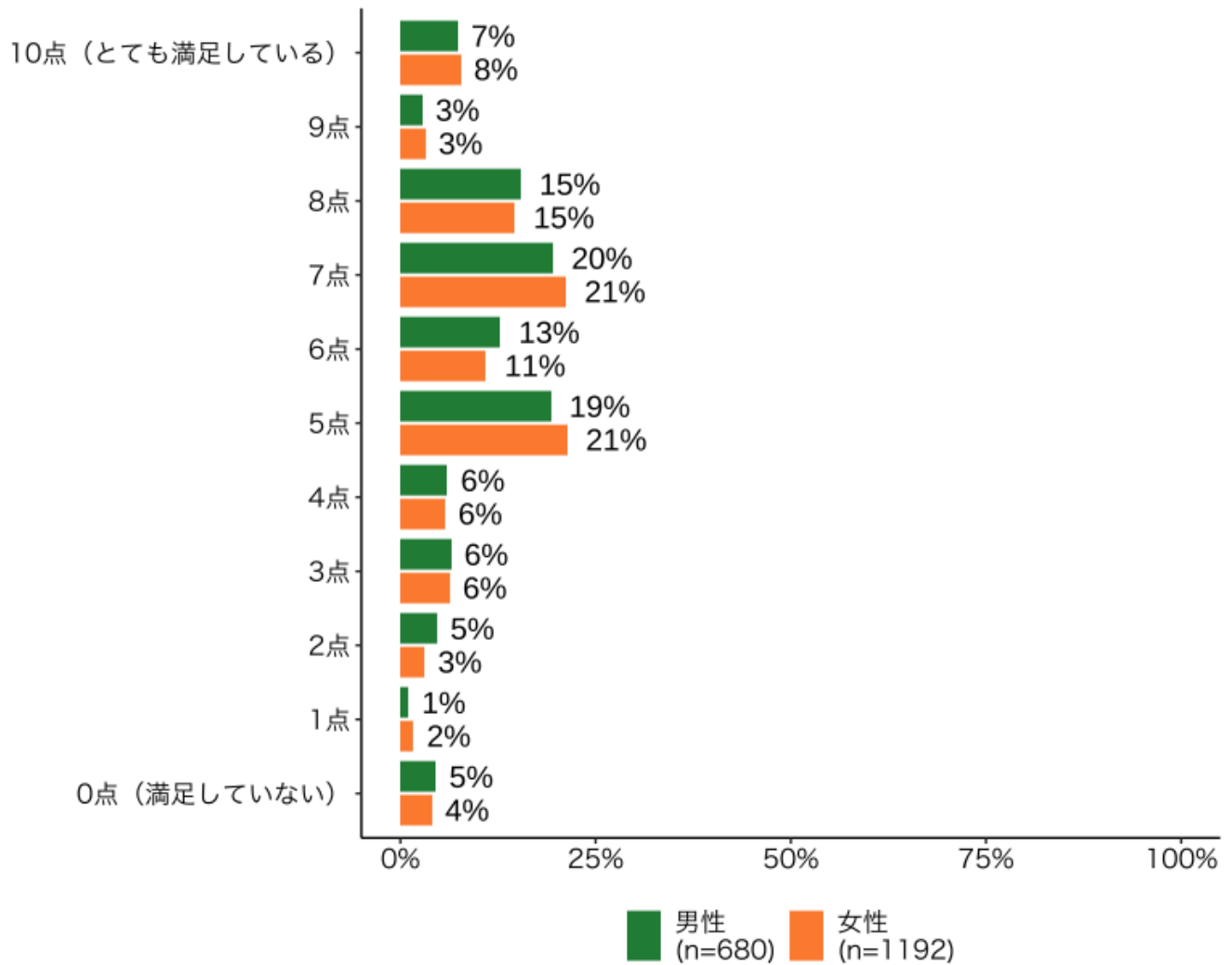
問 53 子育て支援策の満足度【問 14 で 2、または問 34 で 2～6 と回答した方のみ】

それぞれの支援策を満足していると回答した割合（複数回答）

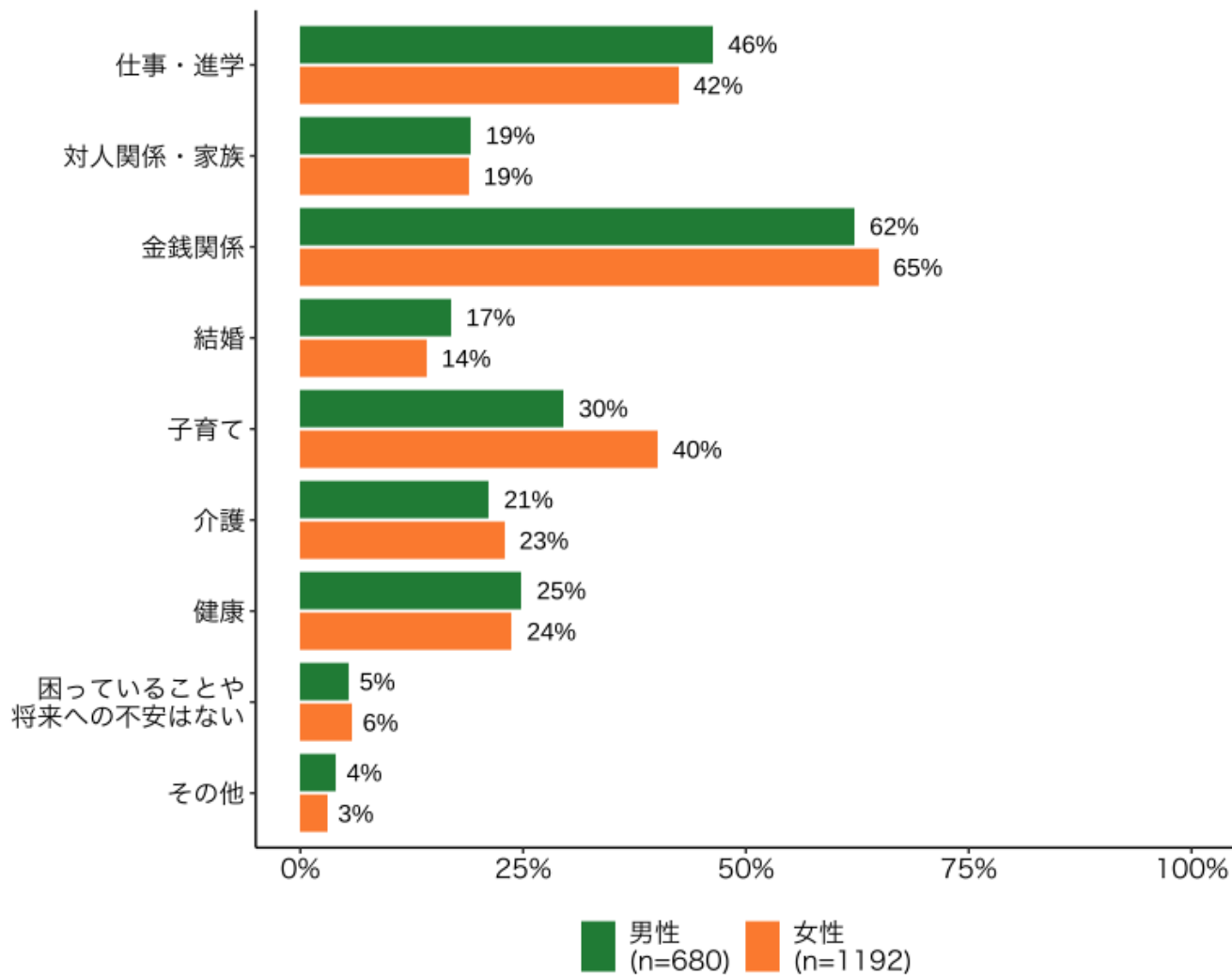


6. Well-Being について

問 54 生活満足度【全員回答】



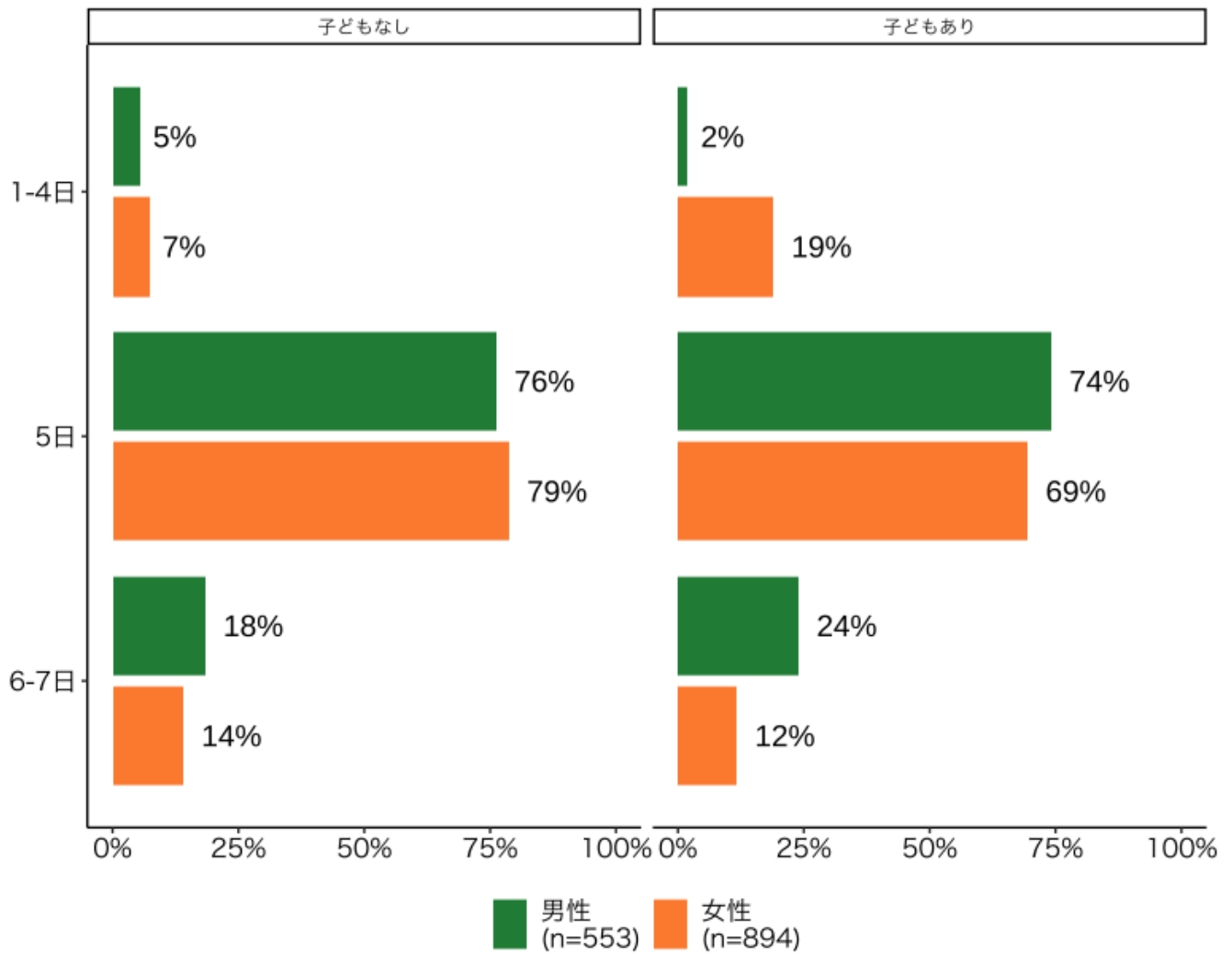
問 55 生活で困っていること【全員回答】



追加分析補項

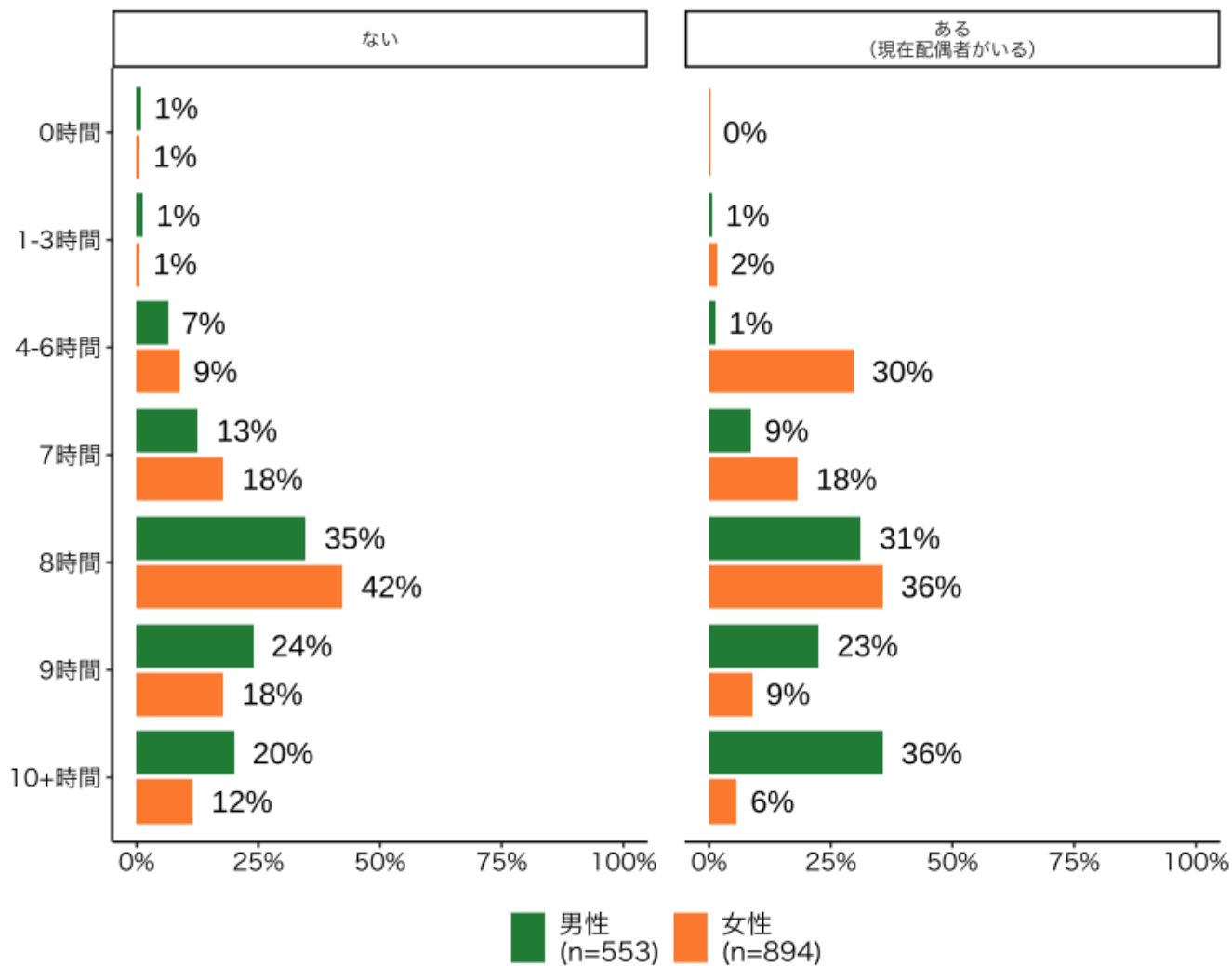
問8 労働日数【問7で1~4を回答した方のみ】

子どもの有無別

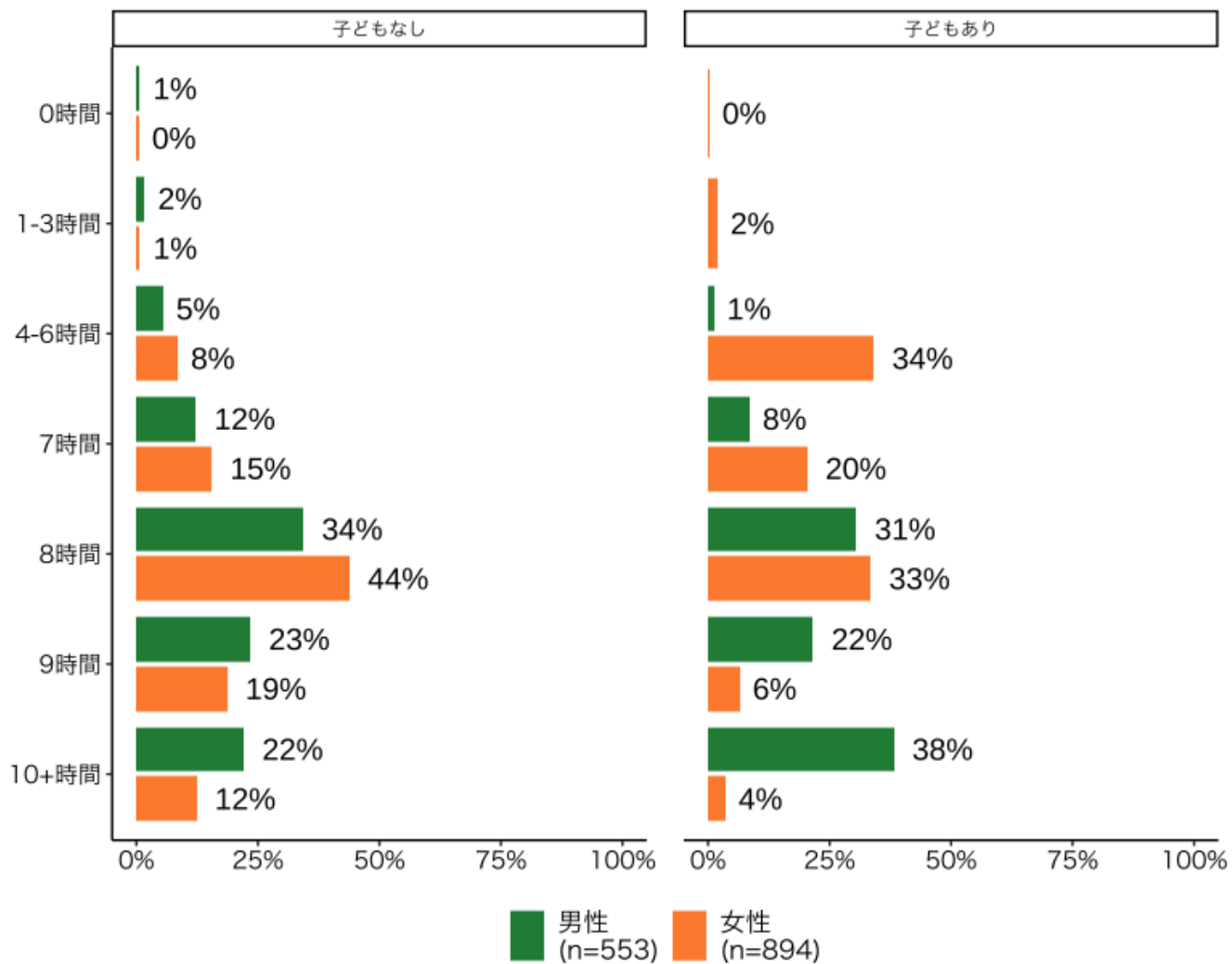


問9 1日の平均的な労働時間（残業時間含む）【問7で1～4を回答した方のみ】

配偶関係別

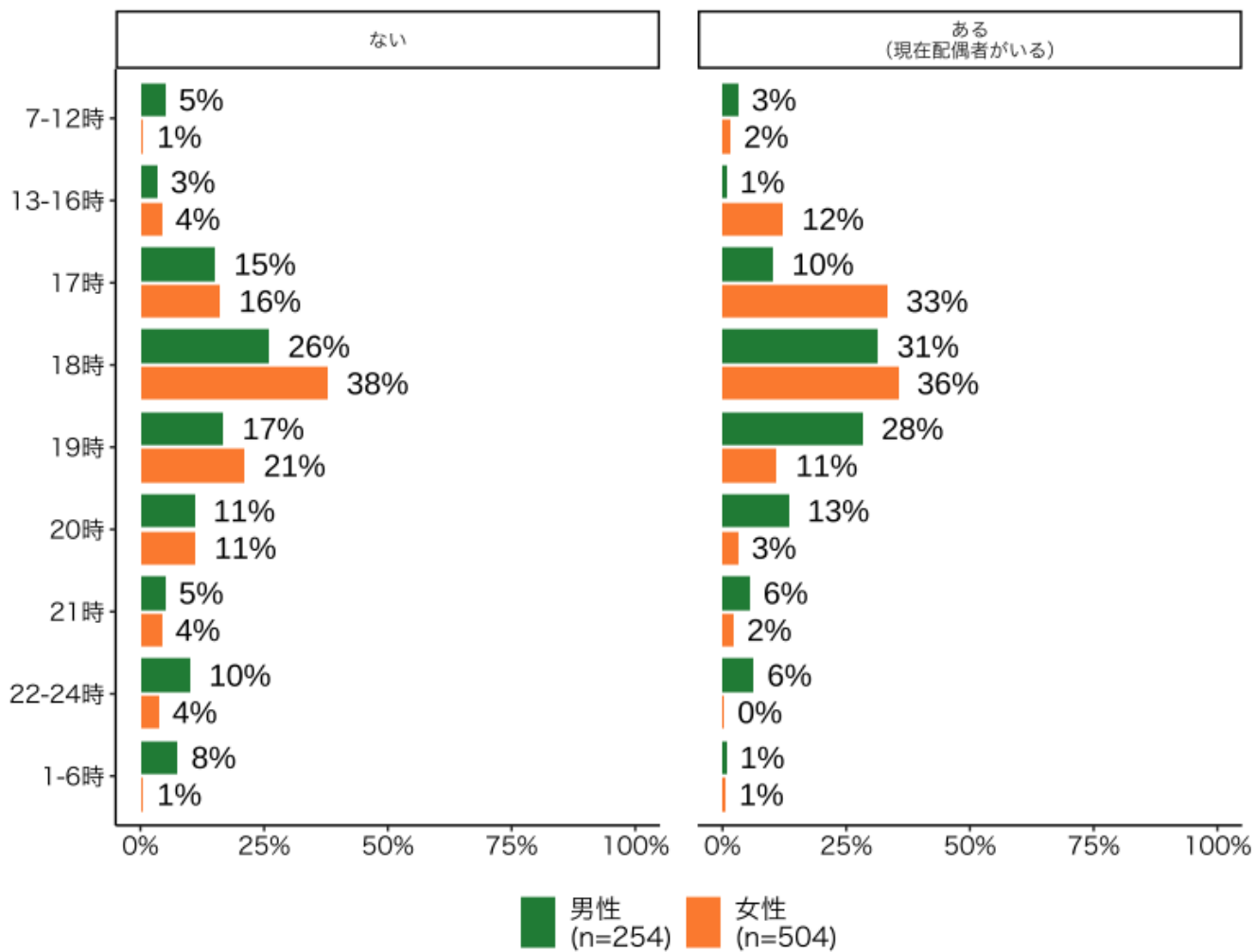


子どもの有無別



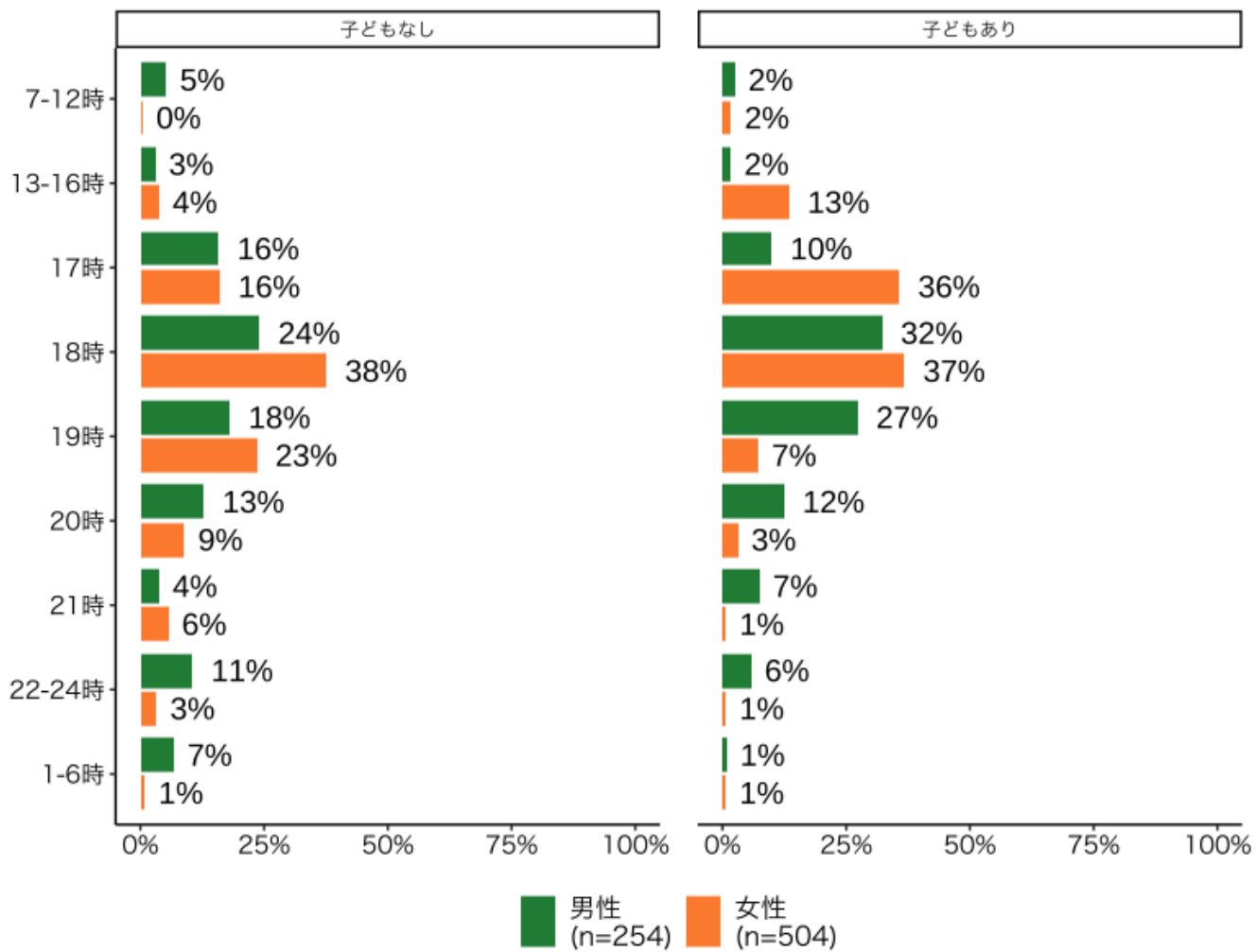
問 10 平均的な勤務後の帰宅時間【問 7 で 1~4 を回答した方のみ】

配偶関係別



欠損値：男性に69ケース; 女性に4ケース

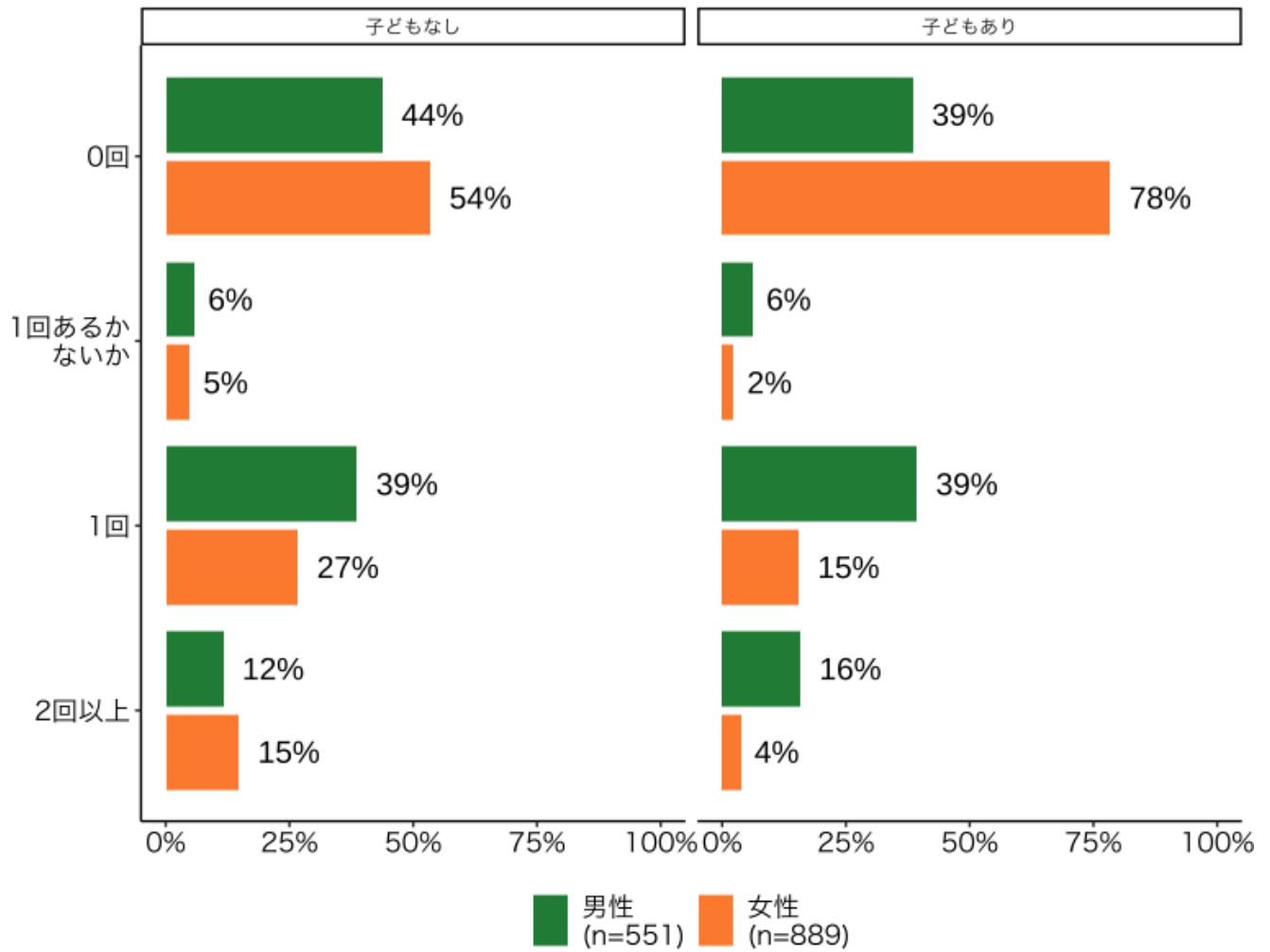
子ども数別



欠損値：男性に70ケース; 女性に4ケース

問11 1ヶ月の平均的な飲み会の頻度【問7で1~4を回答した方のみ】

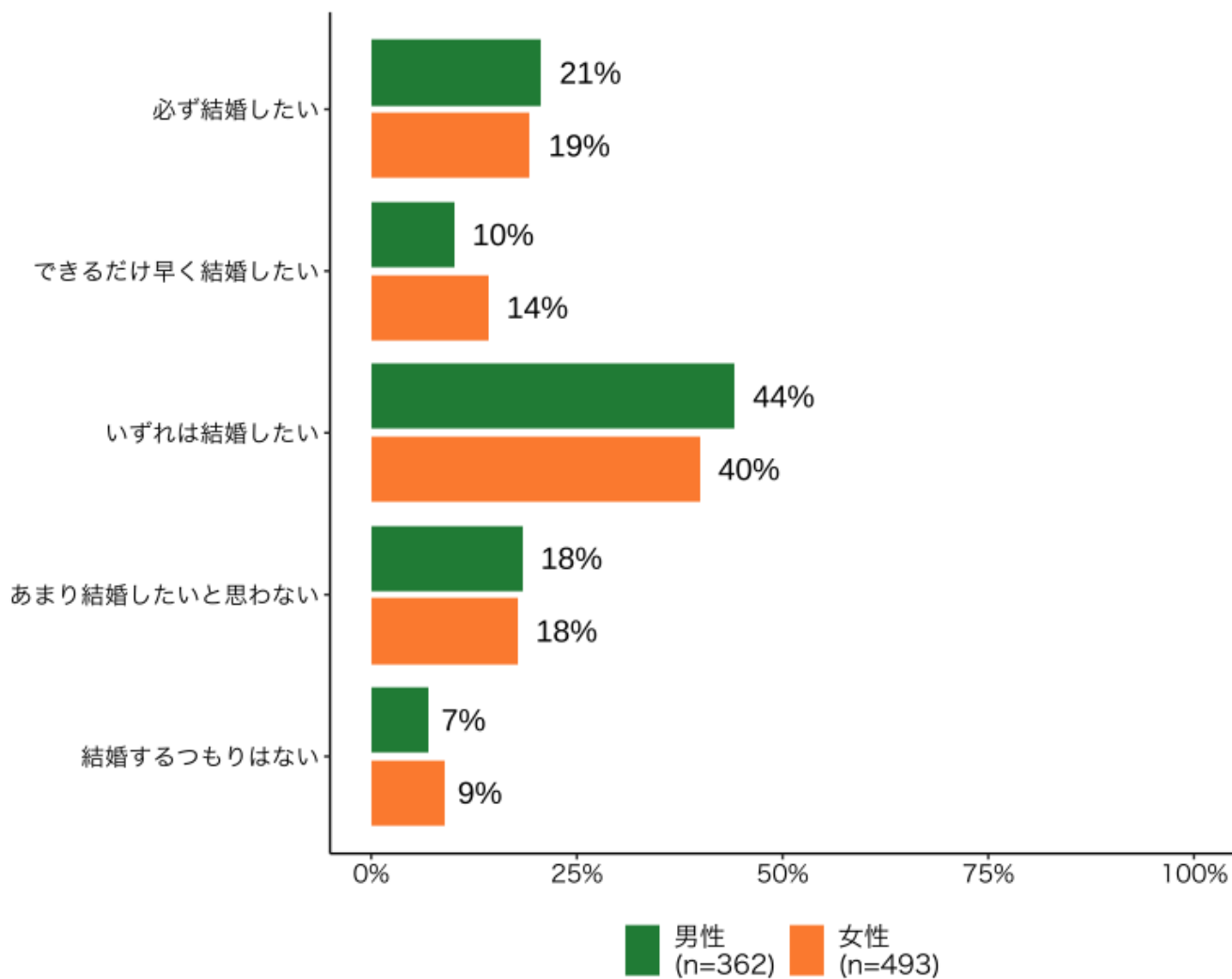
子どもの有無別



欠損値：男性に2ケース; 女性に2ケース

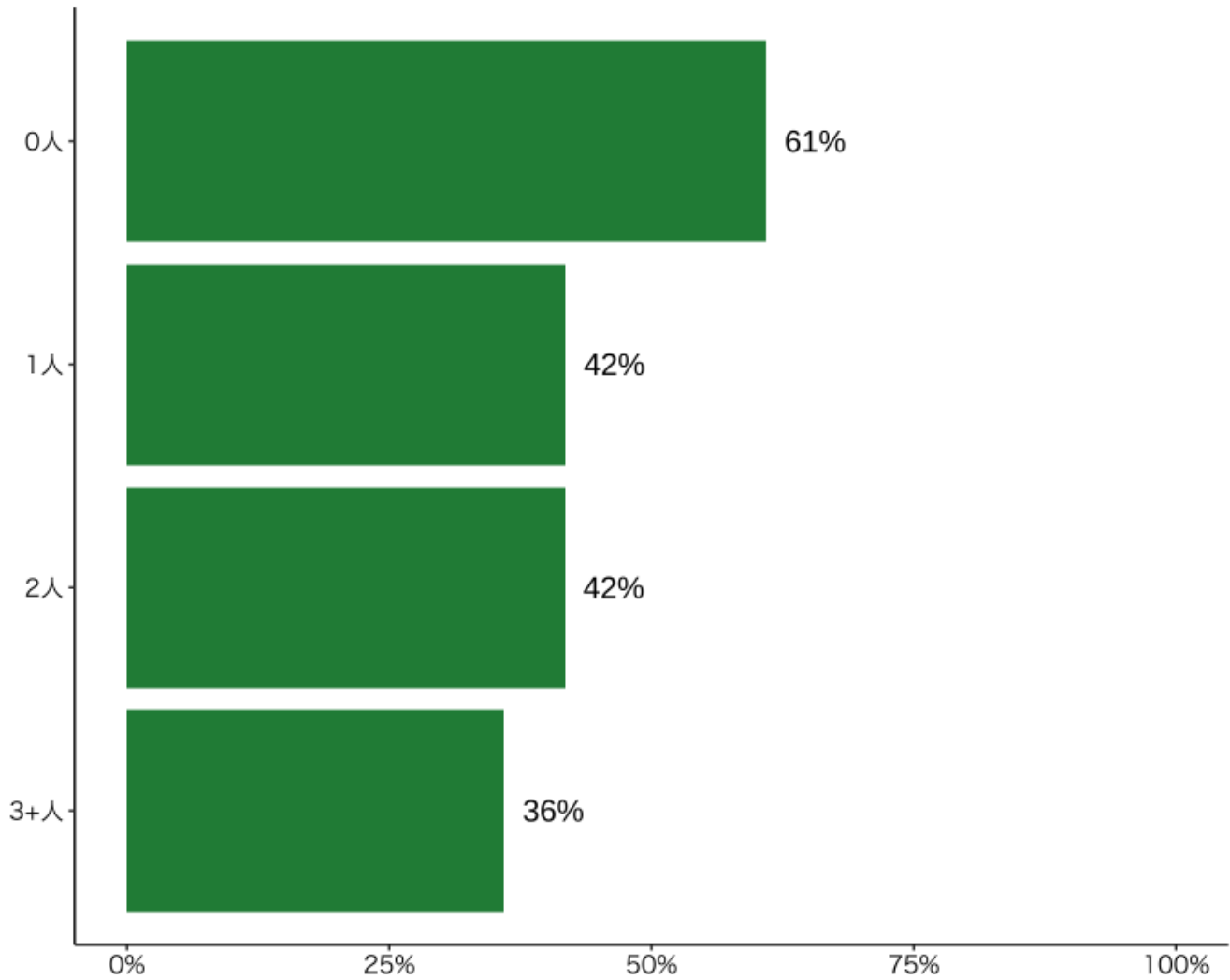
問 19 今後、結婚したいと思うか【問 14 で 1 または 3 を回答した方のみ】

結婚したことがない人のみ

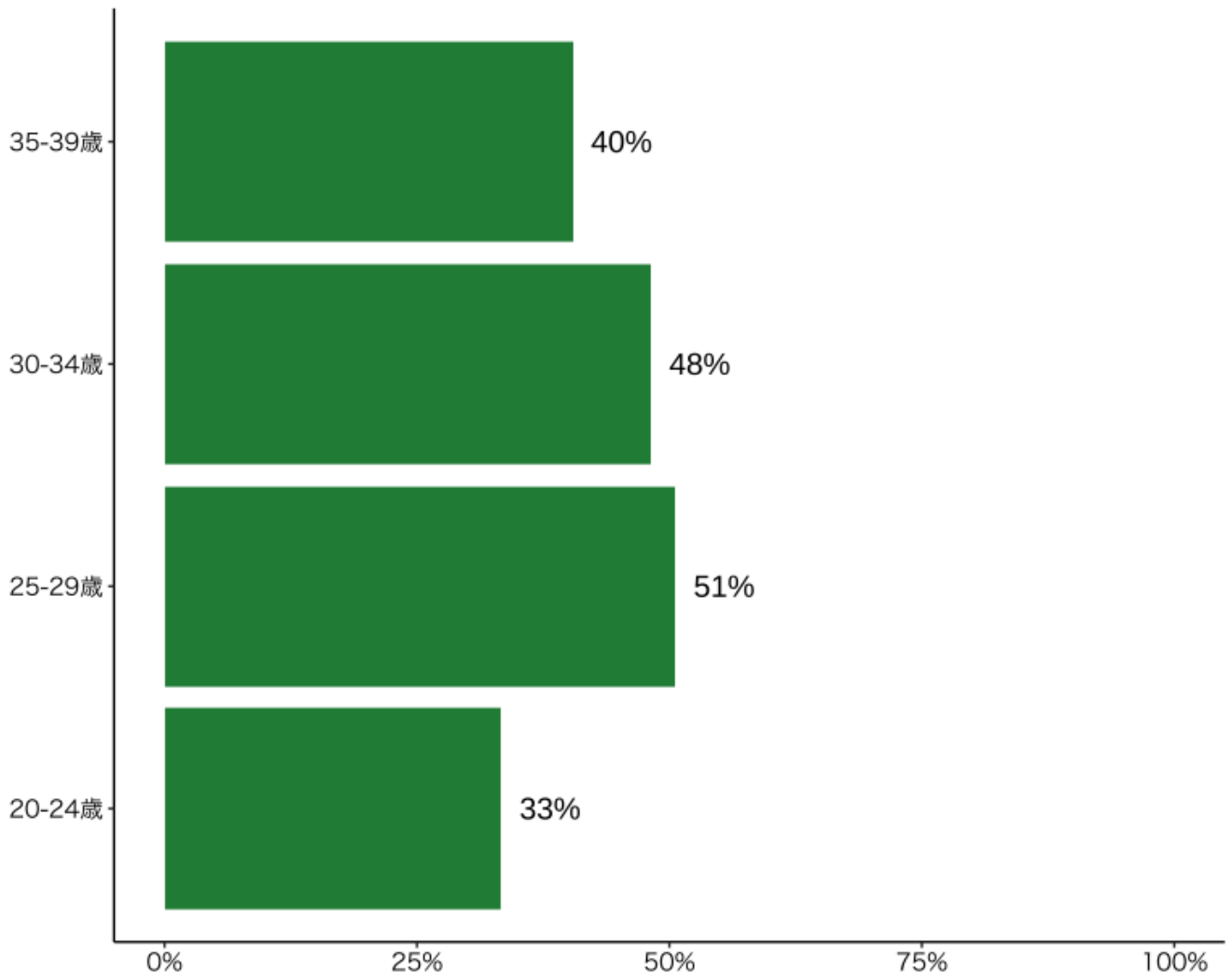


問 28 配偶者の就労形態【問 14 で 2 を回答した方のみ】

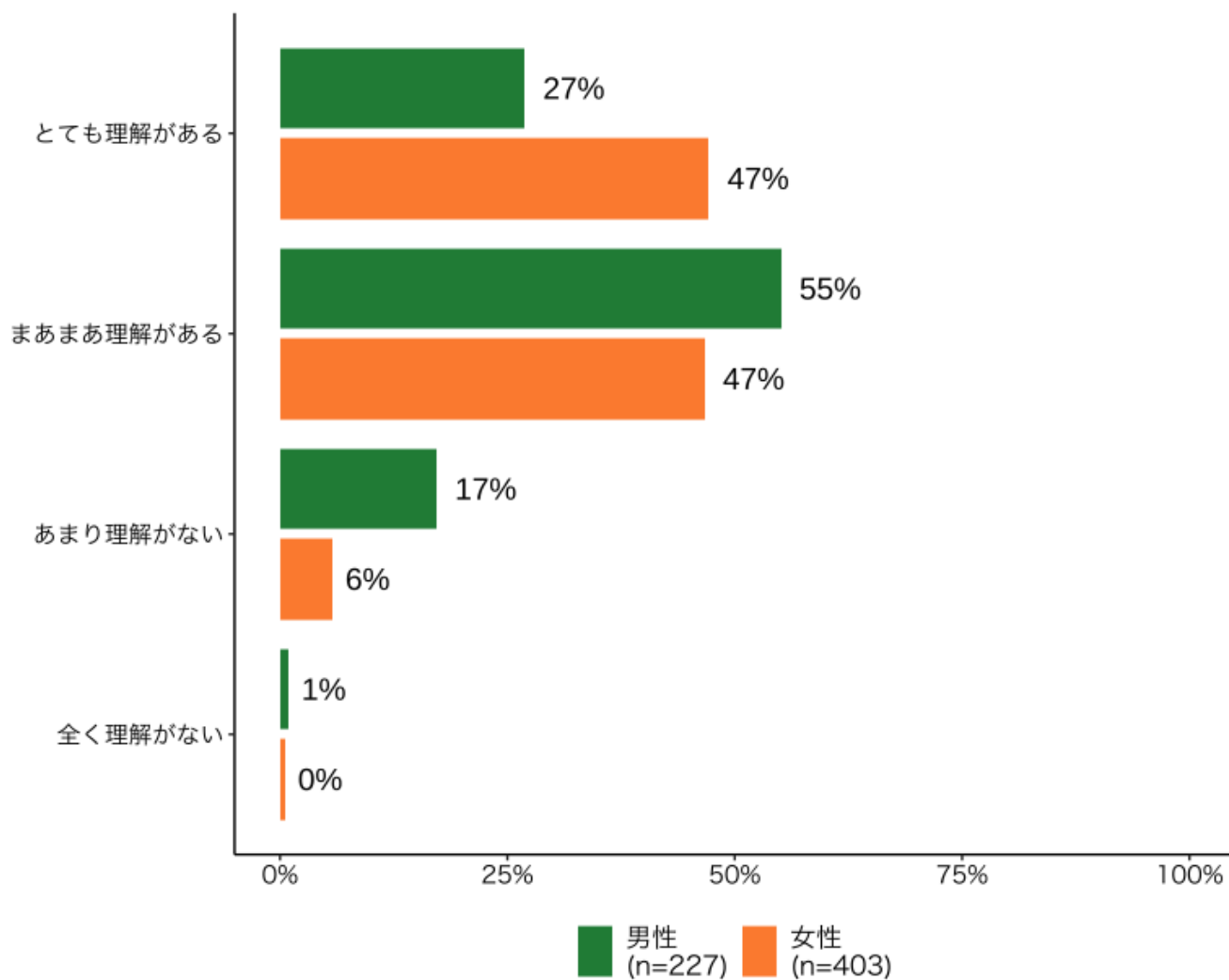
子ども数別にみた夫婦共に正規雇用な人の割合



年齢階級別にみた夫婦共に正規雇用な人の割合

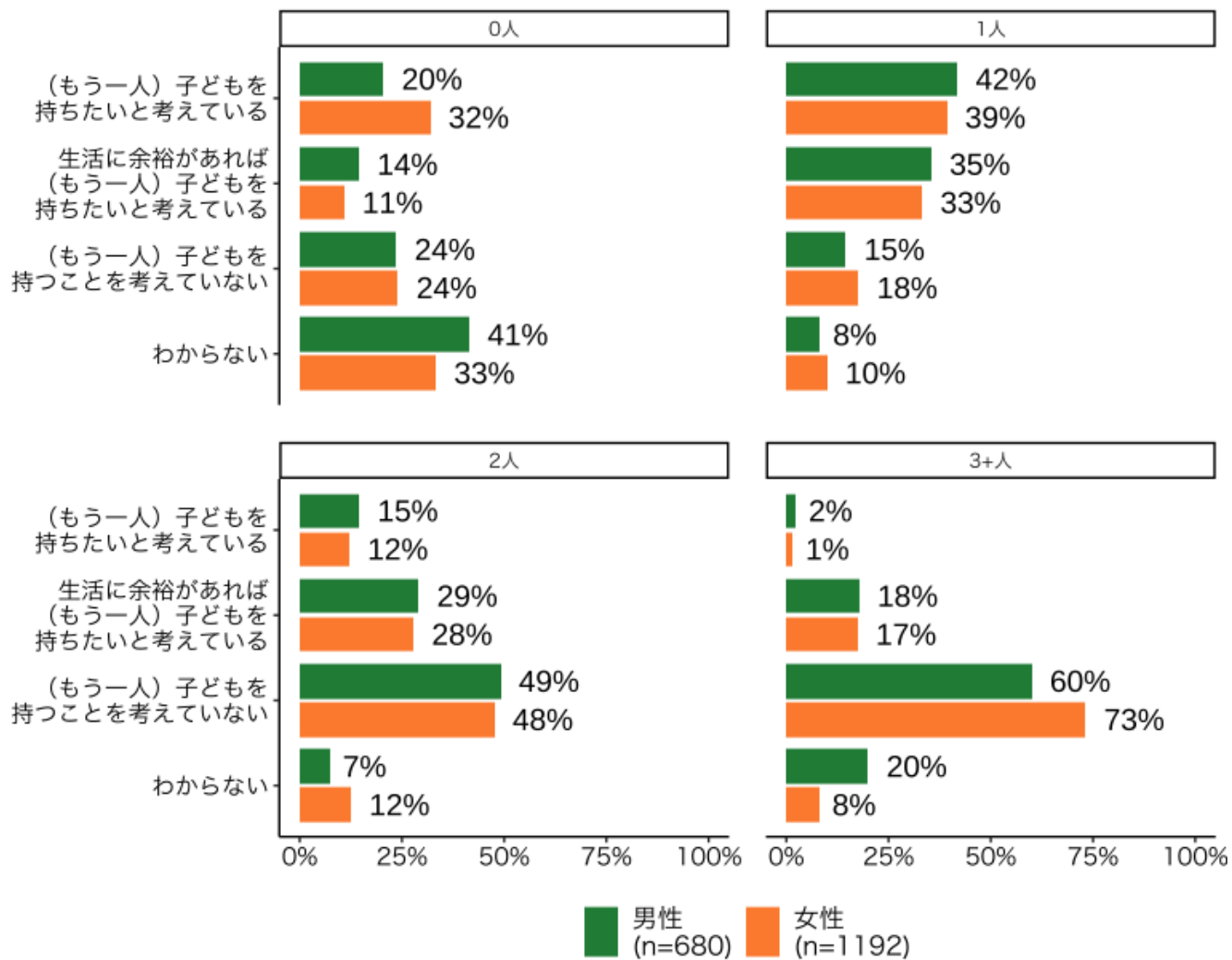


問 38 現在おつとめの職場の子育てへの理解について【問 7 で 1~3 を回答した方、かつ、問 14 で 2、かつ、問 34 で 2~6 を回答した方のみ】



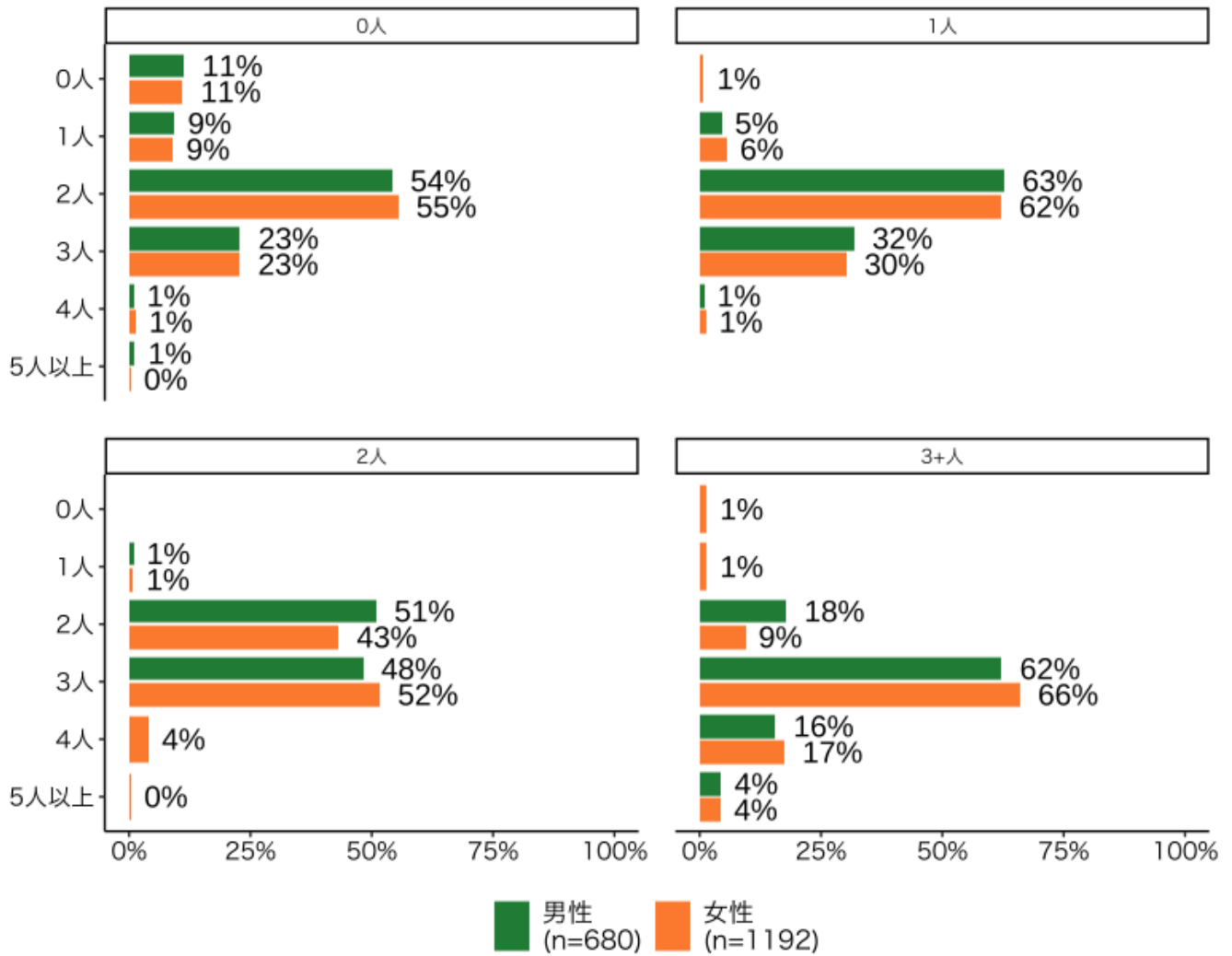
問 41 3年以内に子どもを持ちたいか【全員回答】

子ども数別

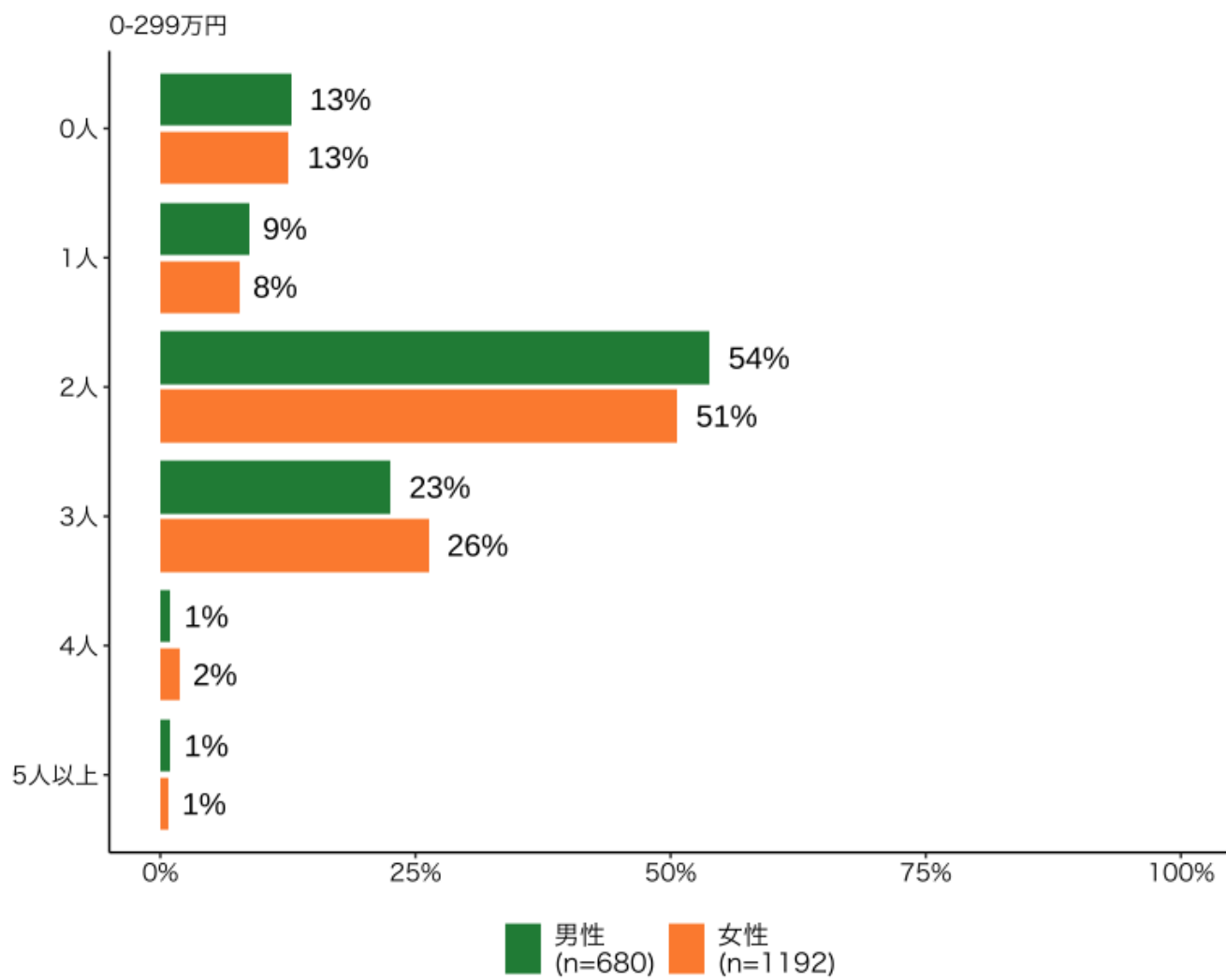


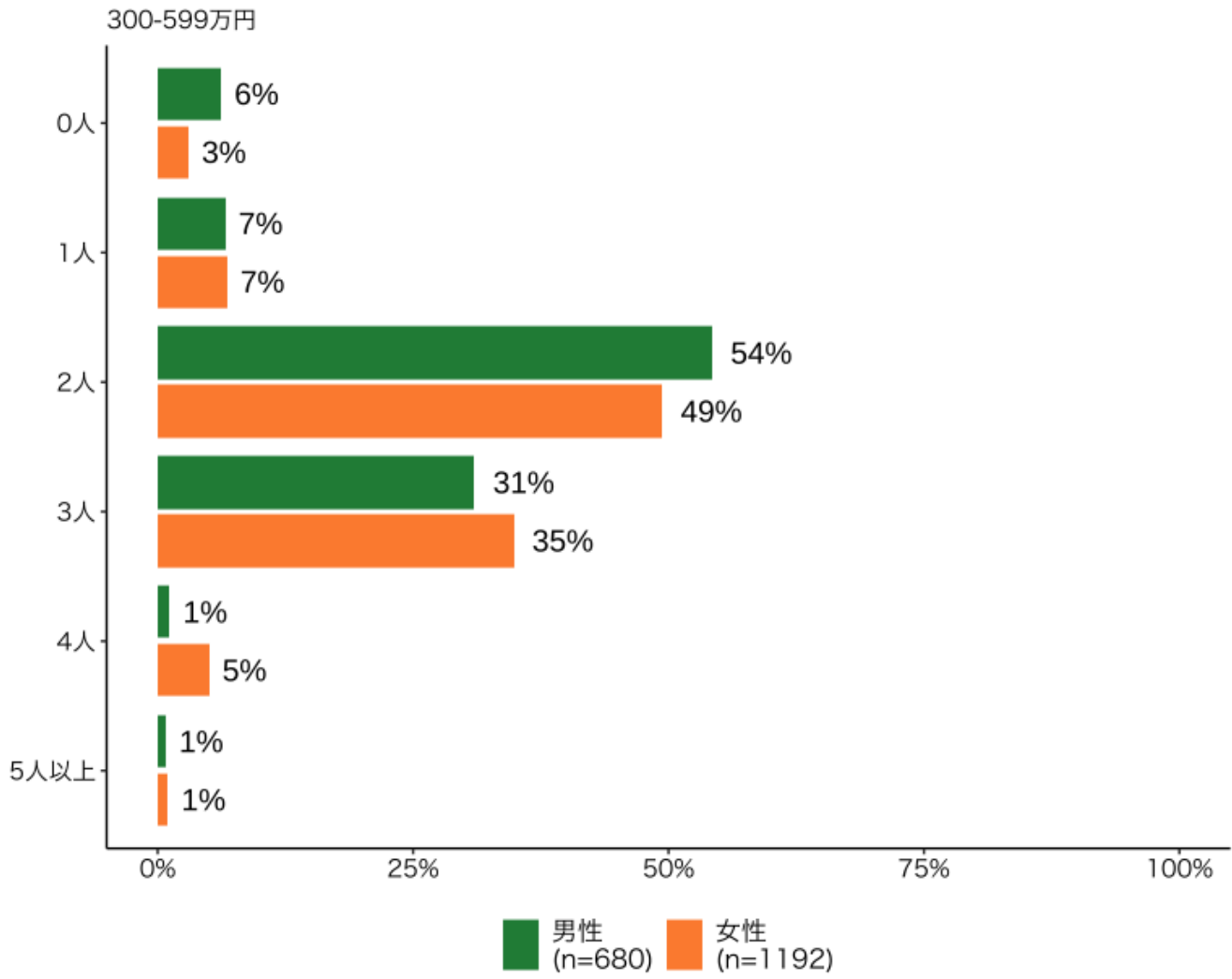
問 42 理想とする子ども数【全員回答】

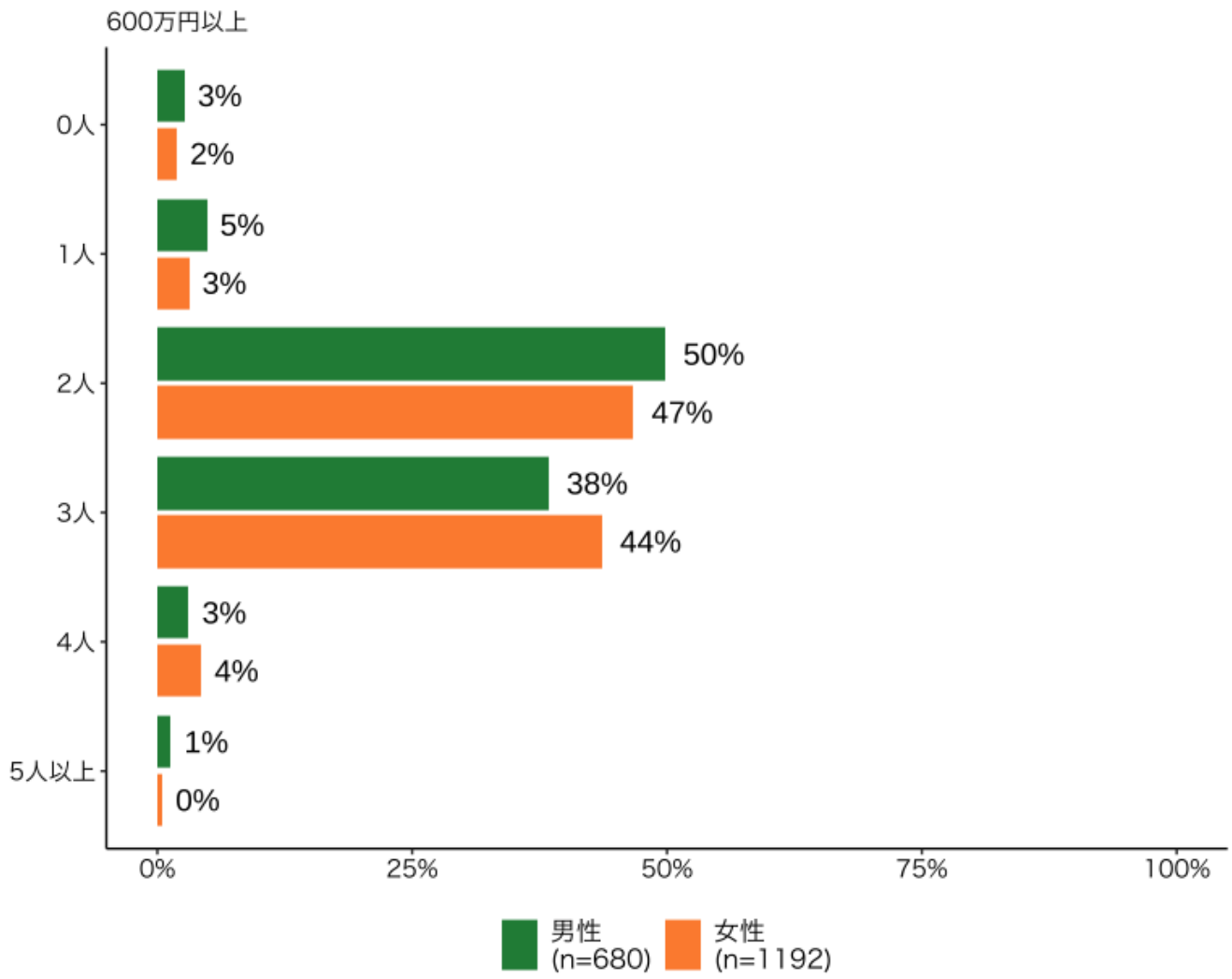
子ども数別



世帯年収別

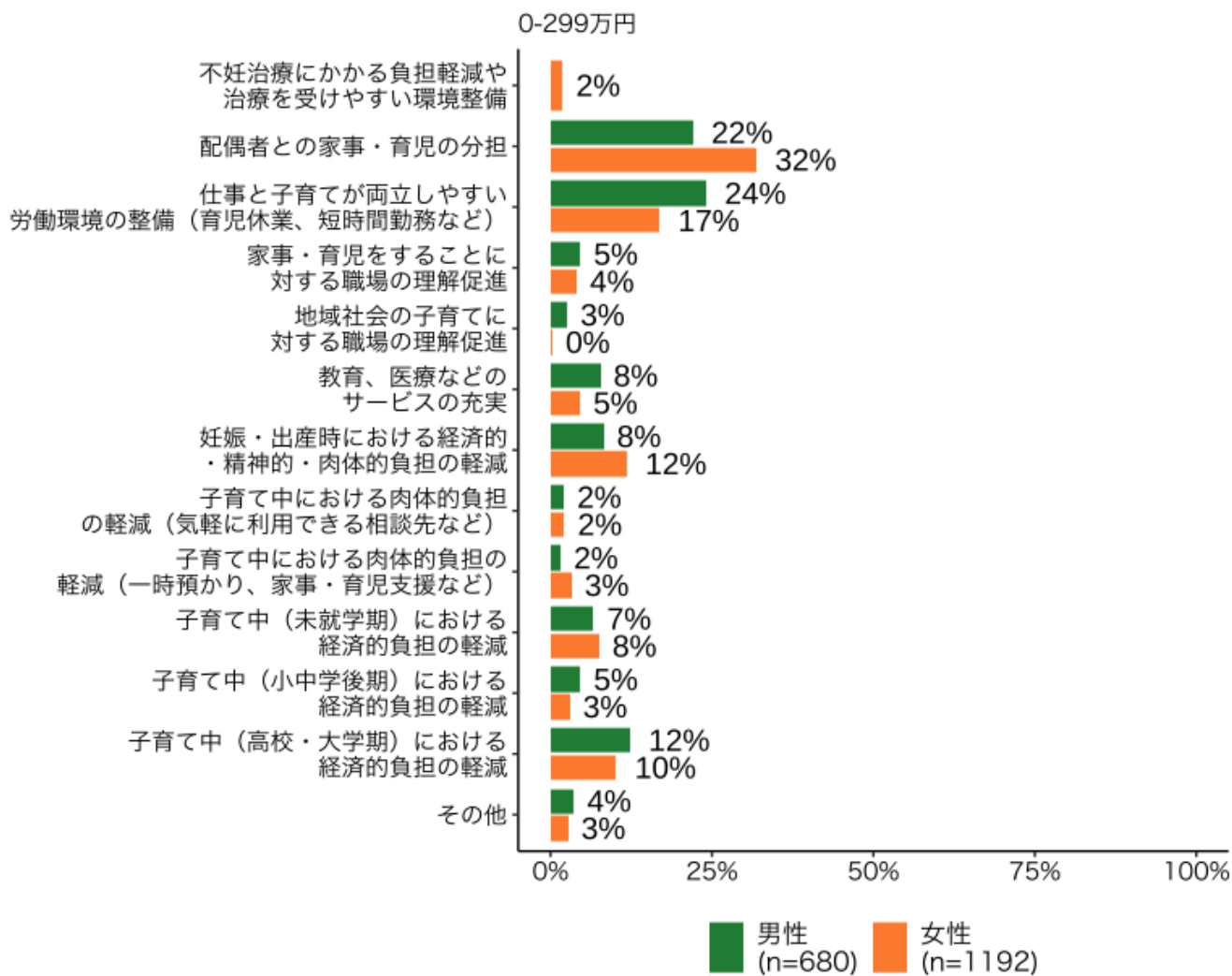




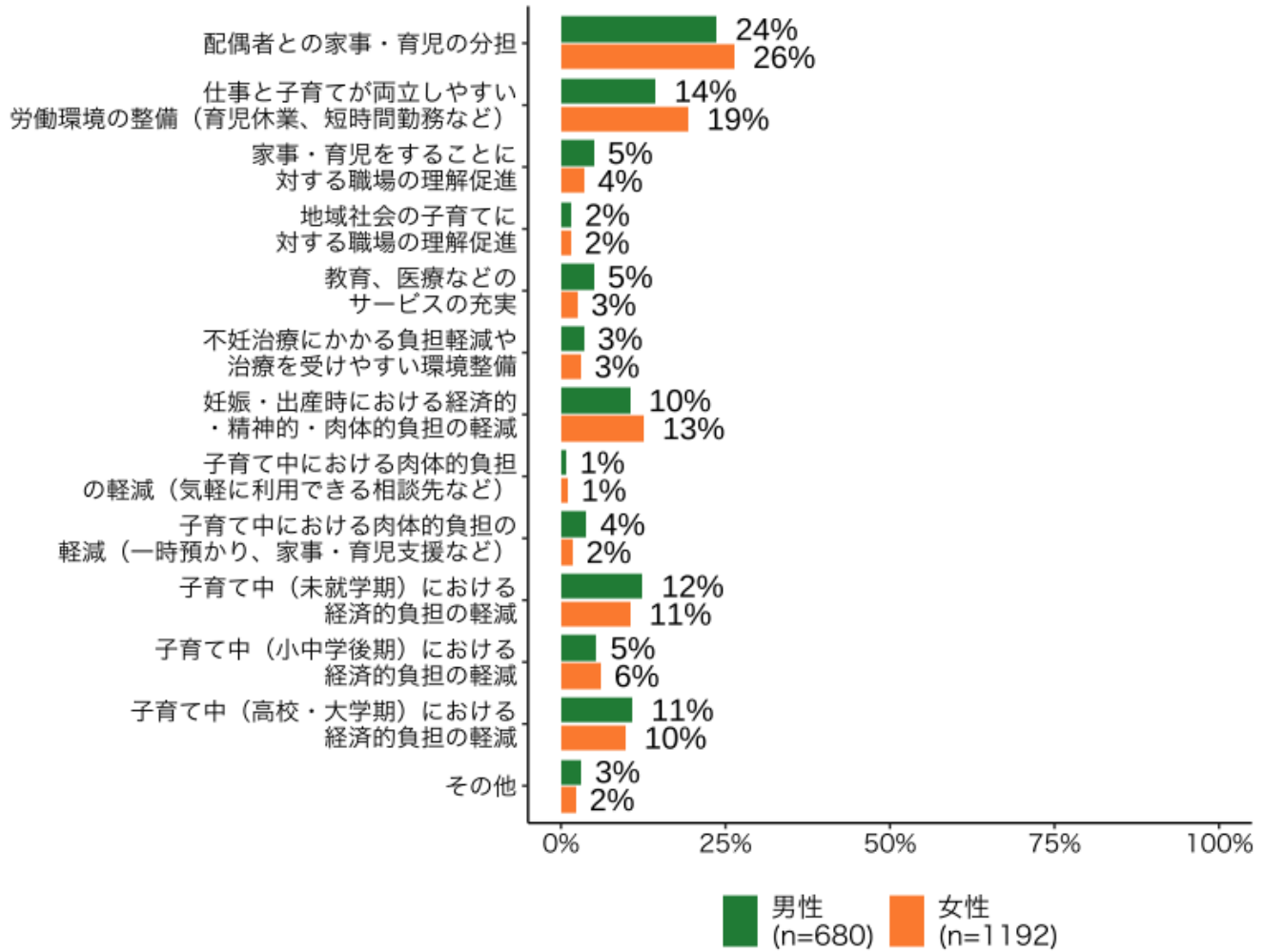


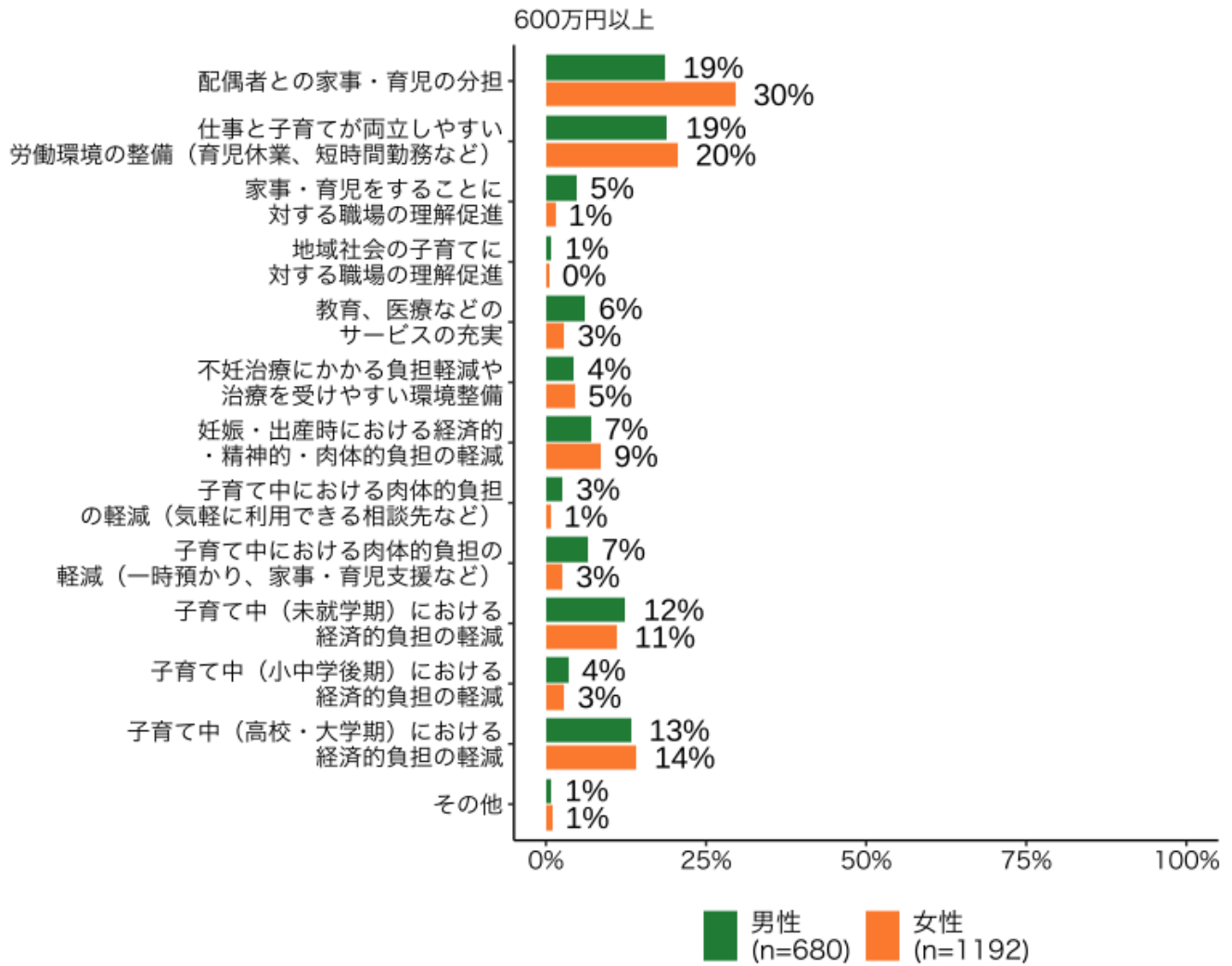
問 43 理想とする子ども数の実現に必要なもの（1位） 【全員回答】

世帯年収別



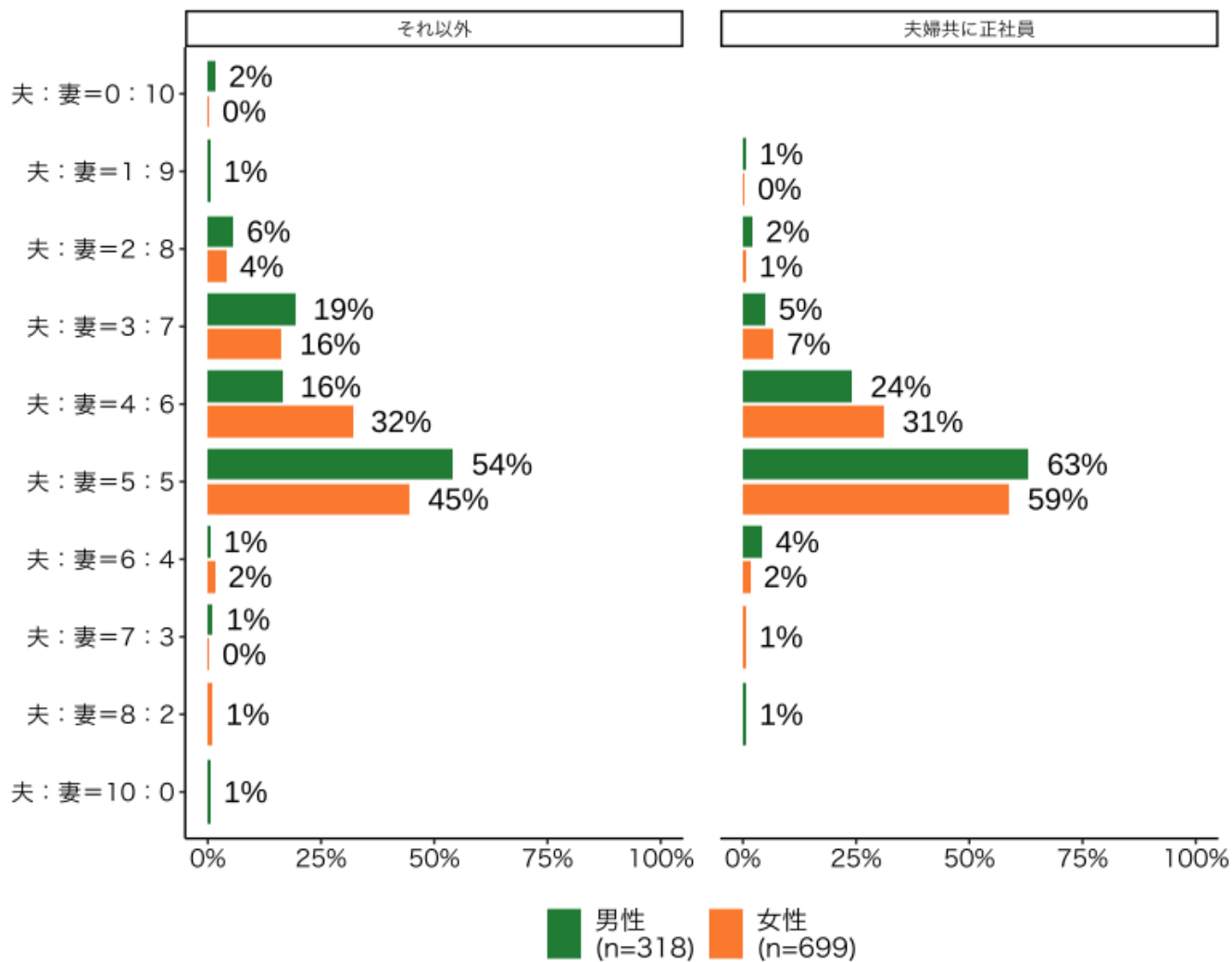
300-599万円





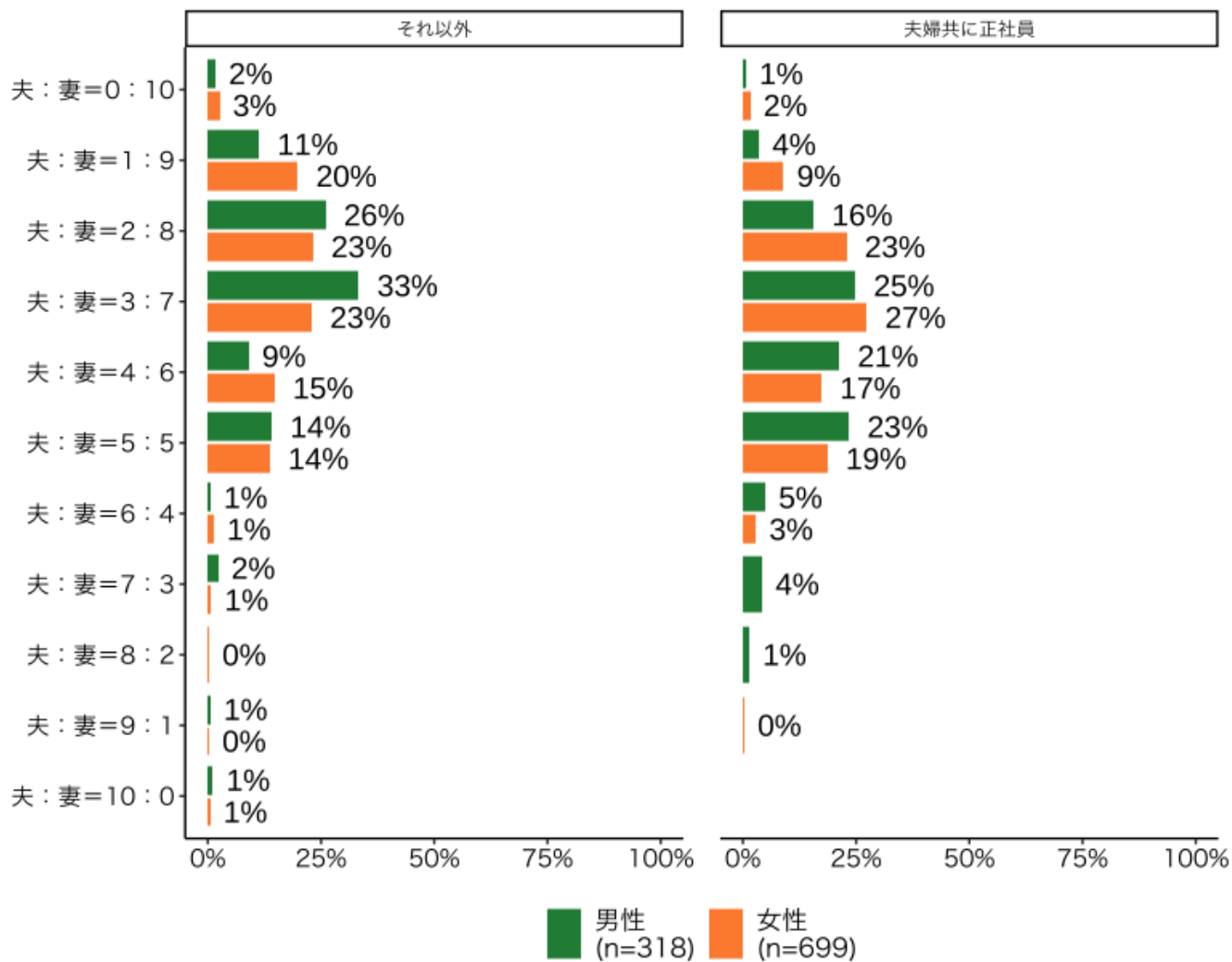
問 44 夫と妻の家事・育児への理想の関わり具合【問 14 で 2 と回答した方のみ】

夫婦共に正社員かどうか

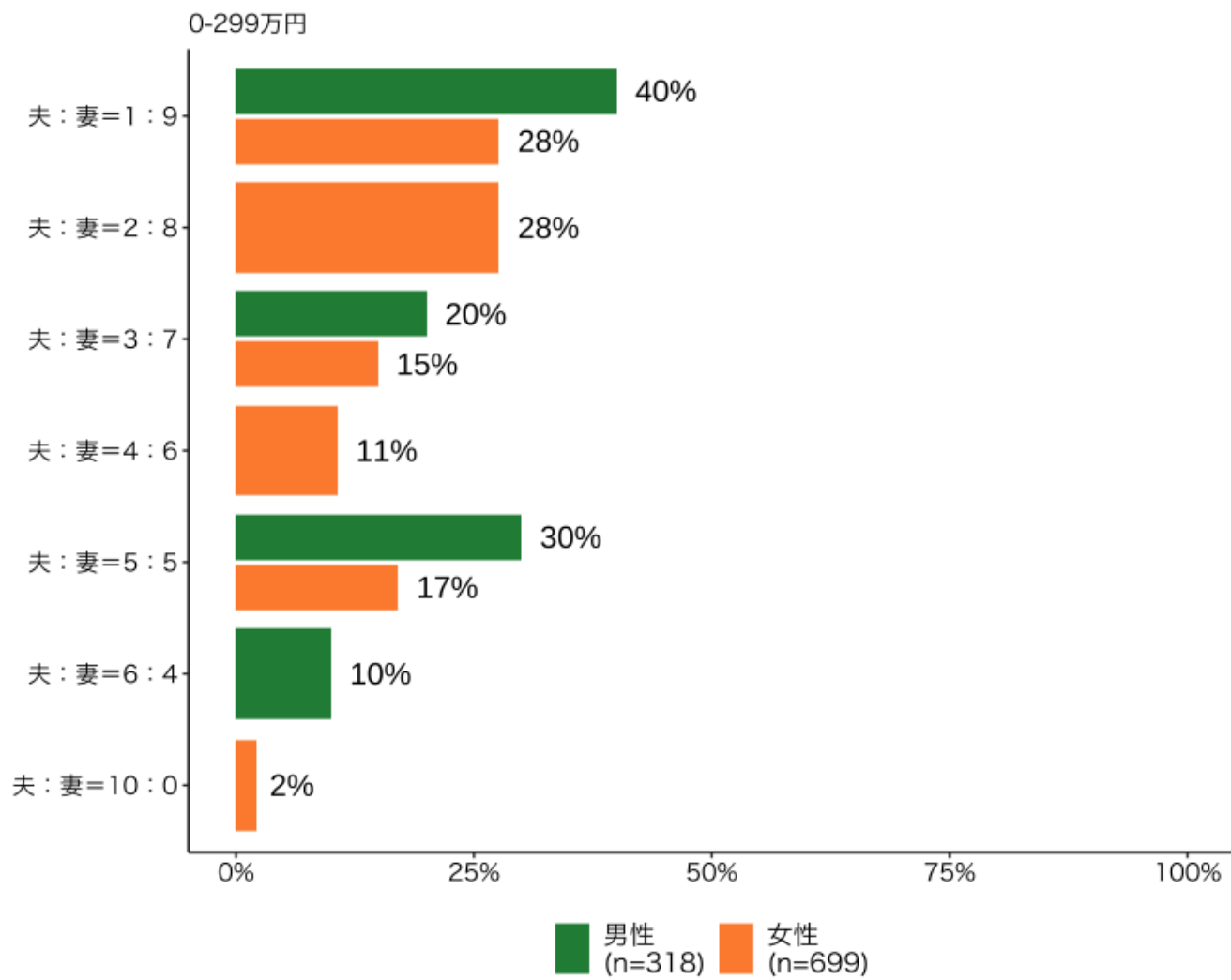


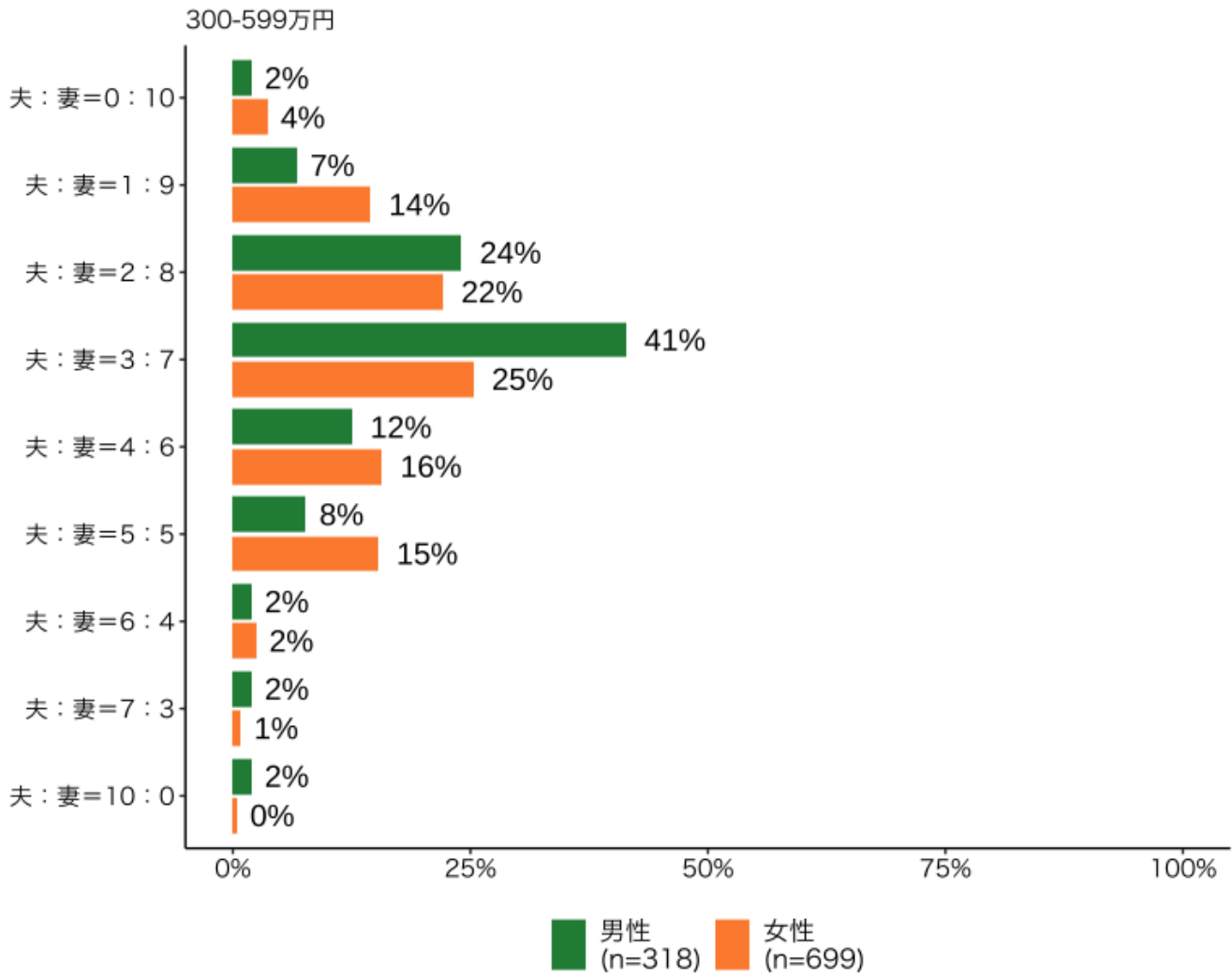
問 45 夫と妻の家事・育児への実際の関わり具合【問 14 で 2 と回答した方のみ】

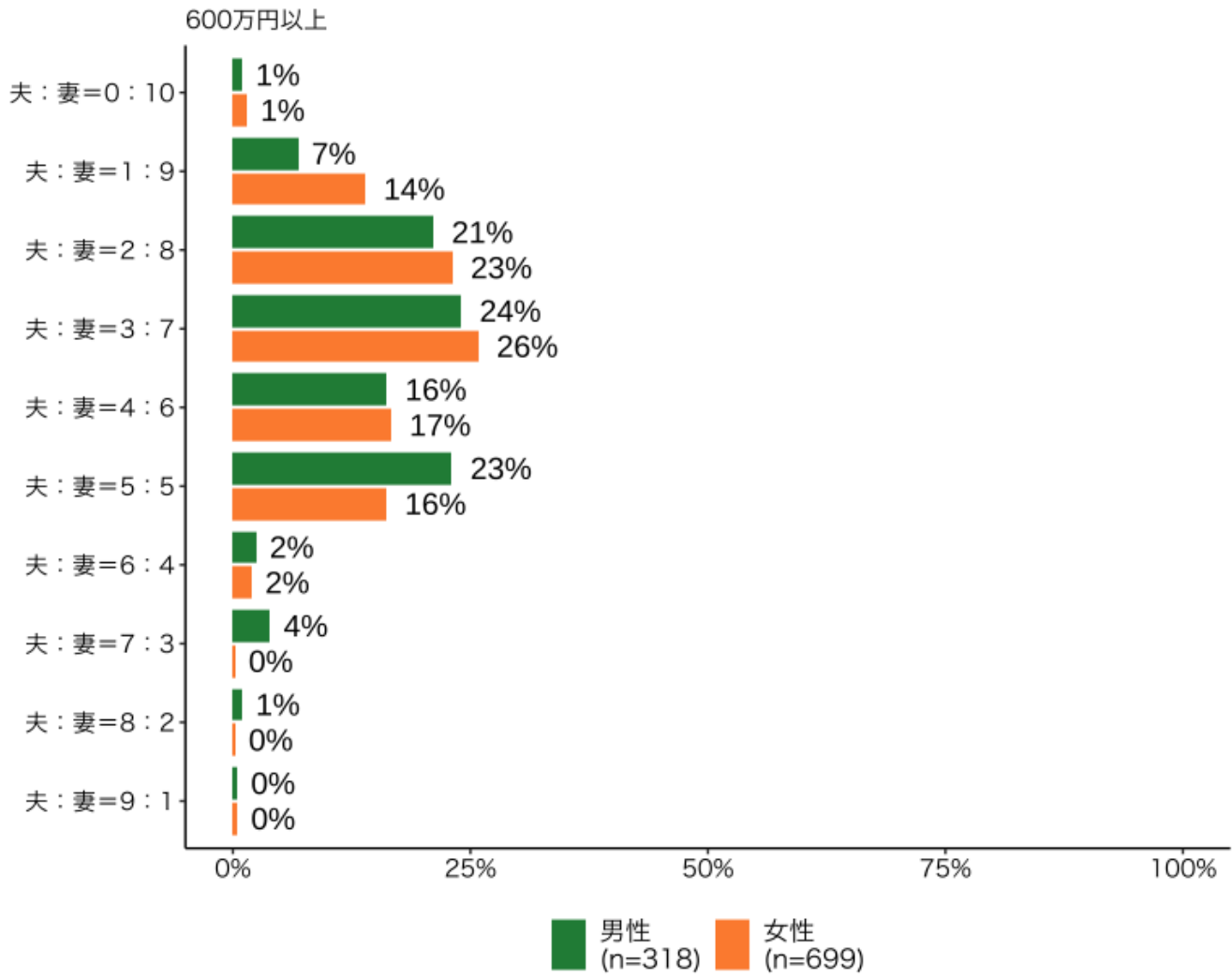
夫婦共に正社員かどうか



世帯年収別

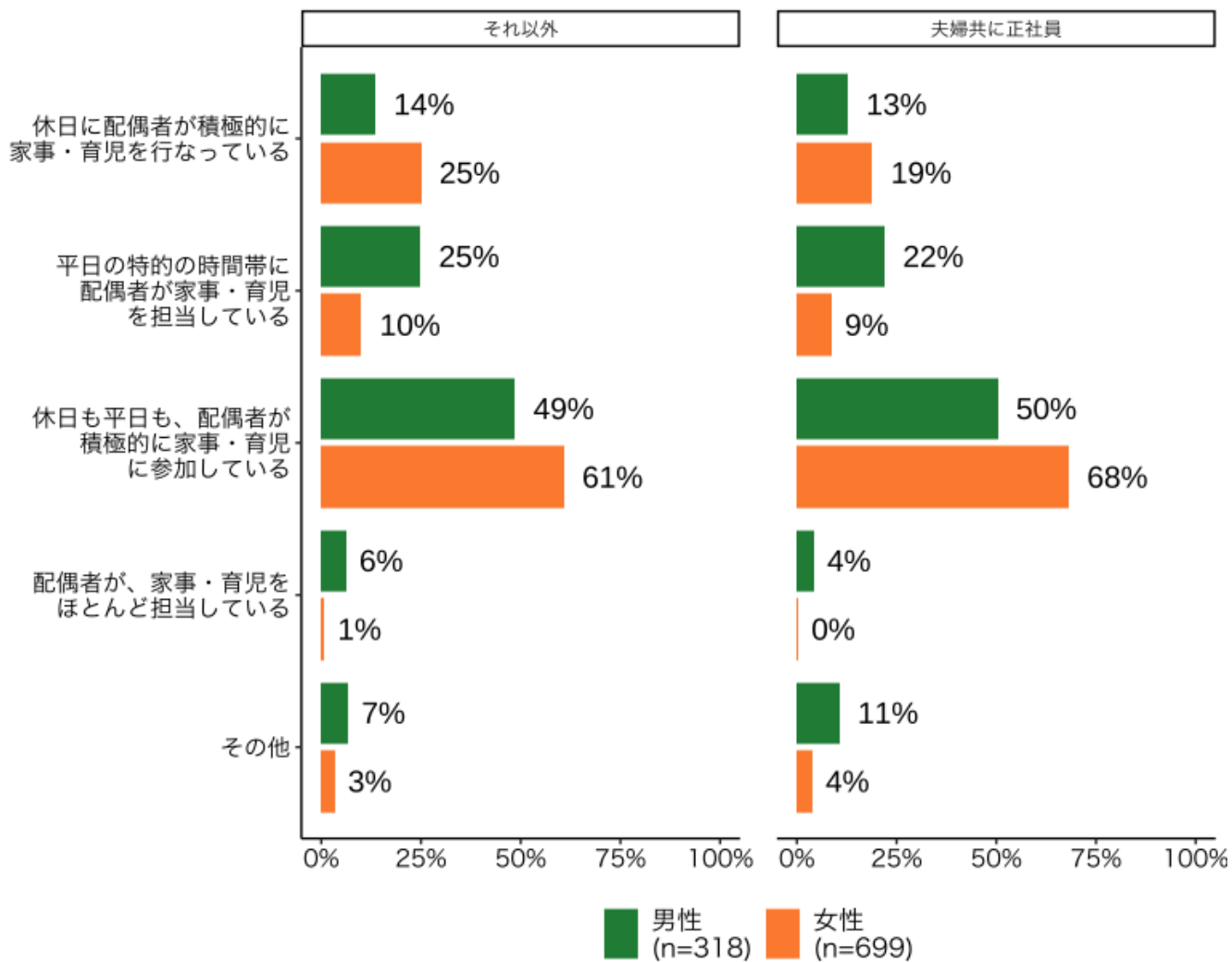




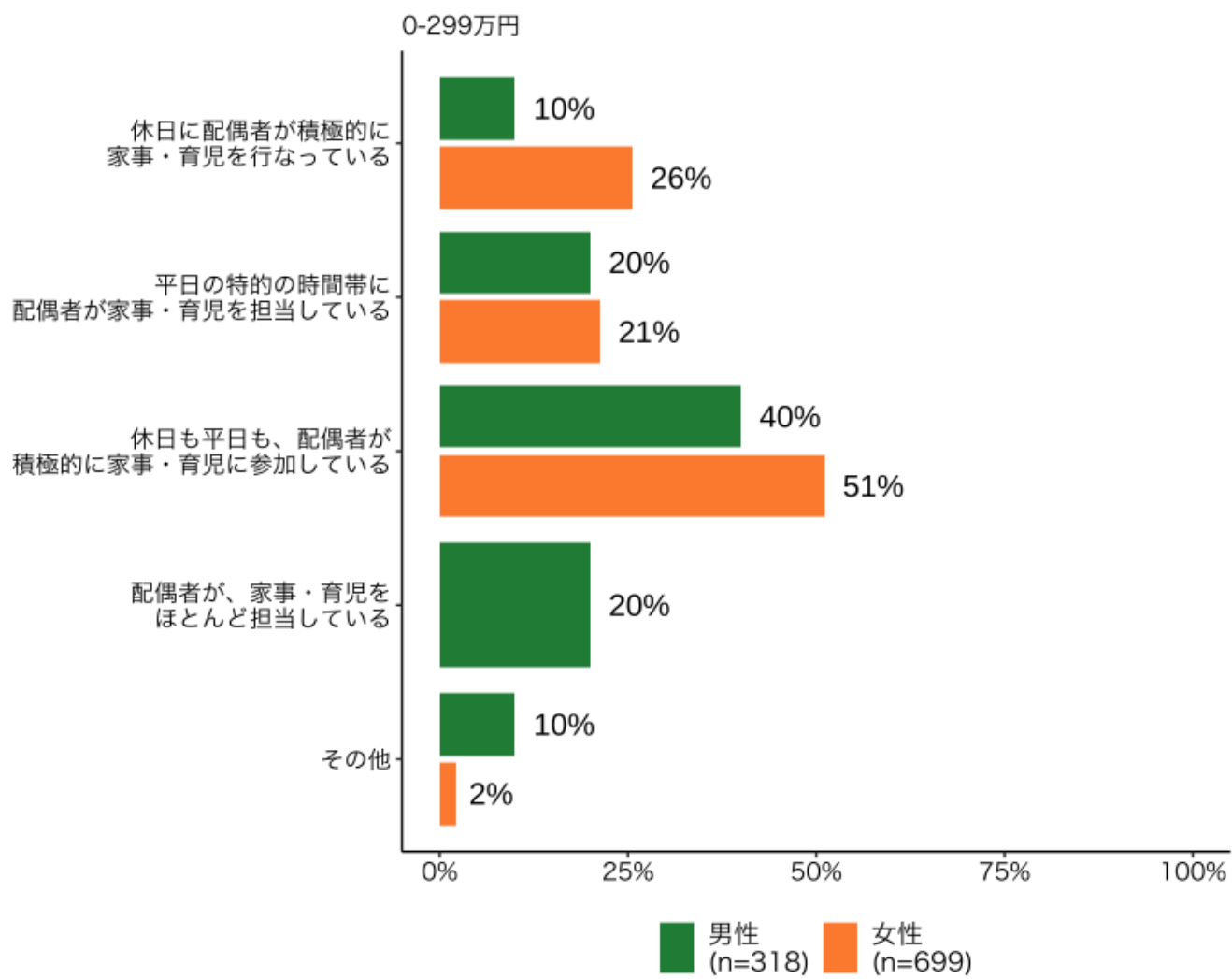


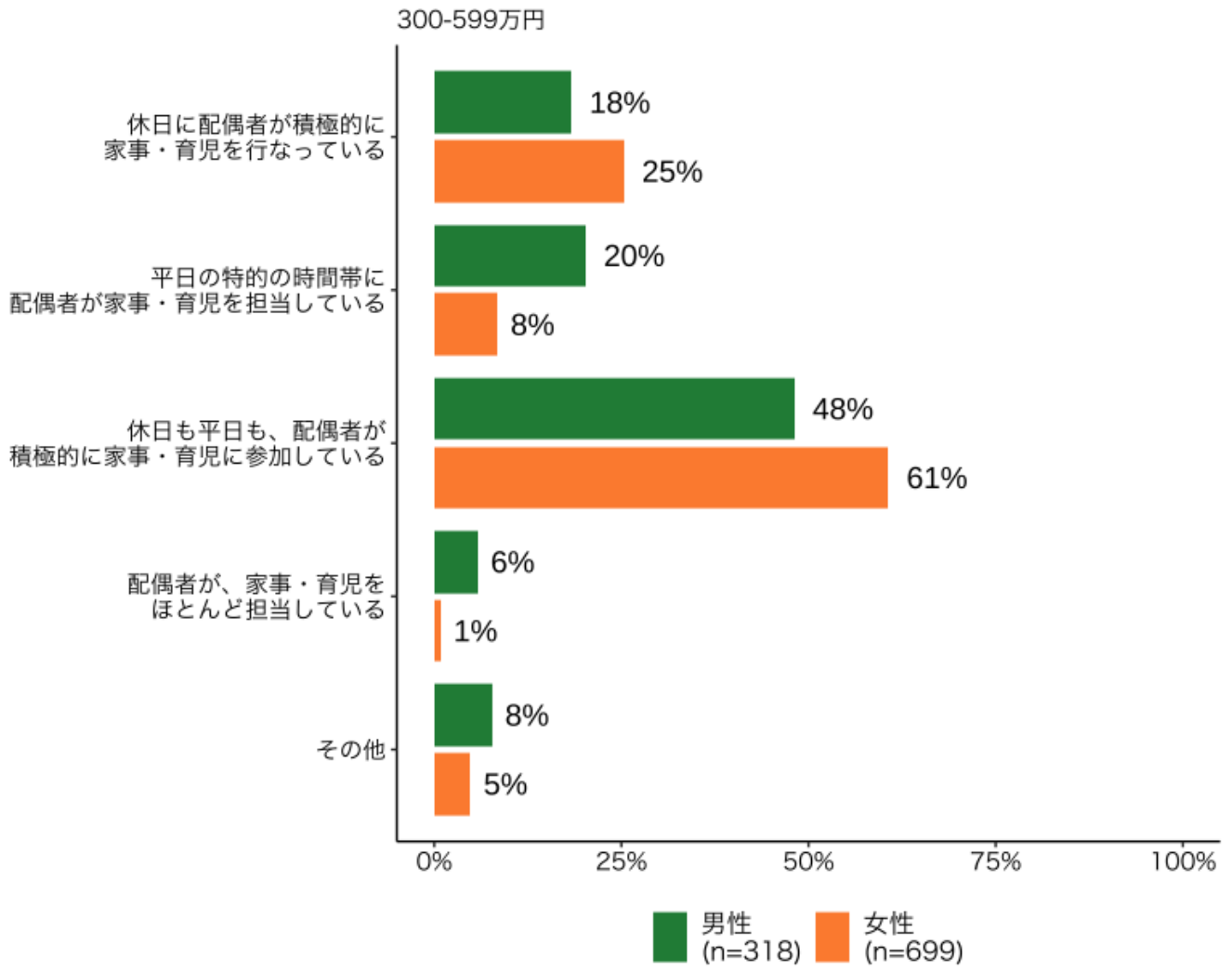
問 46 理想とする配偶者の家事・育児の関わり方【問 14 で 2 と回答した方のみ】

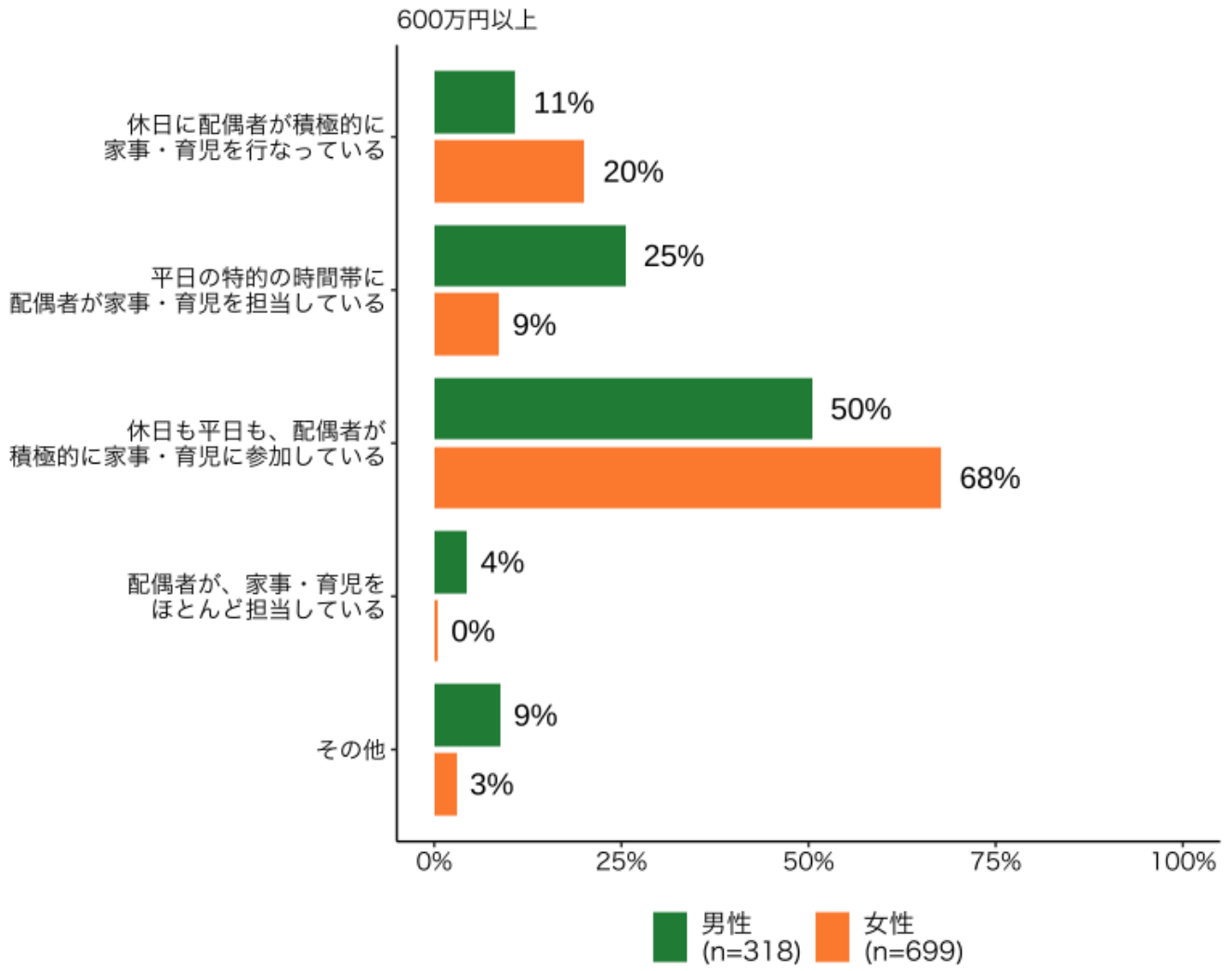
夫婦共に正社員かどうか



世帯年収別

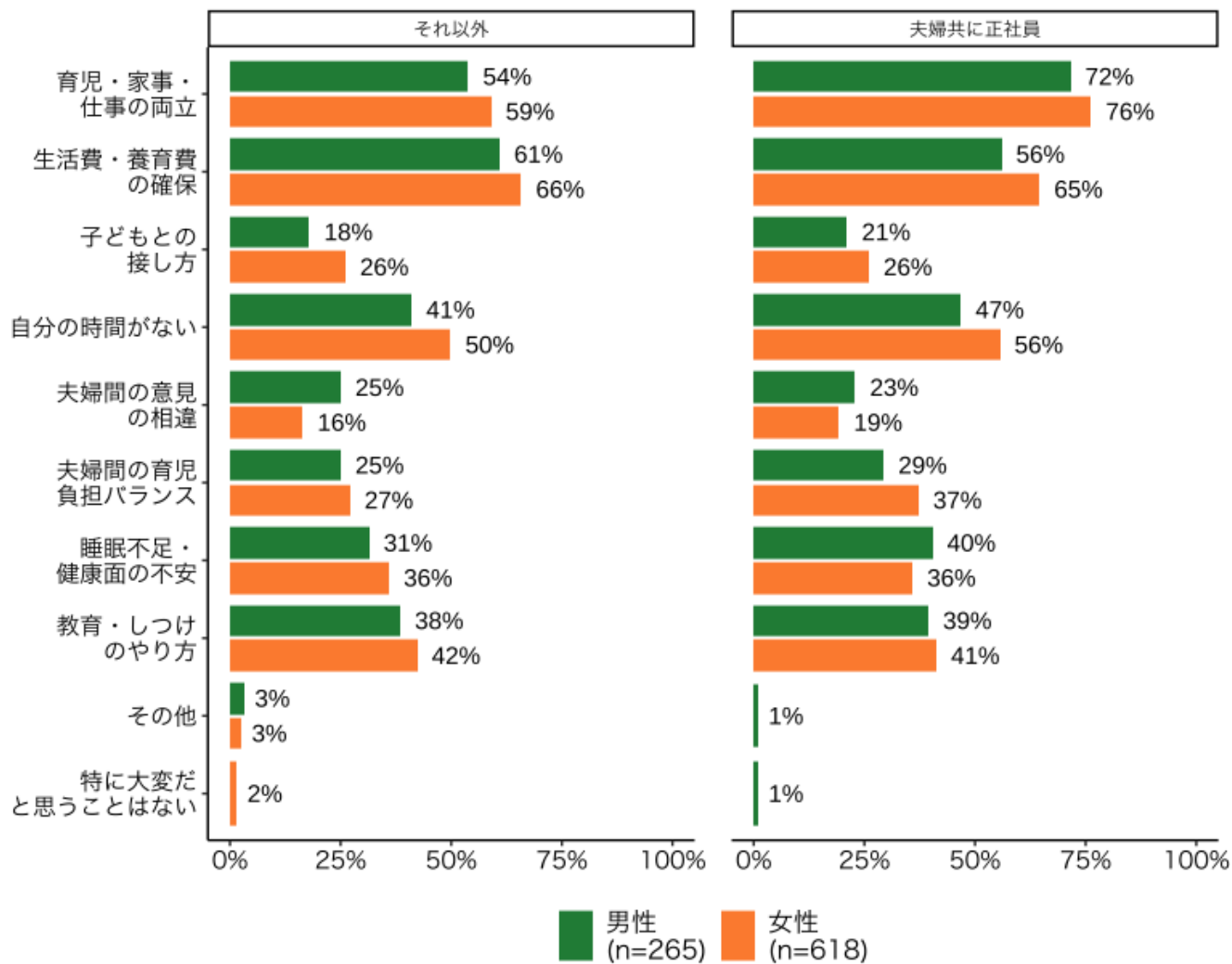






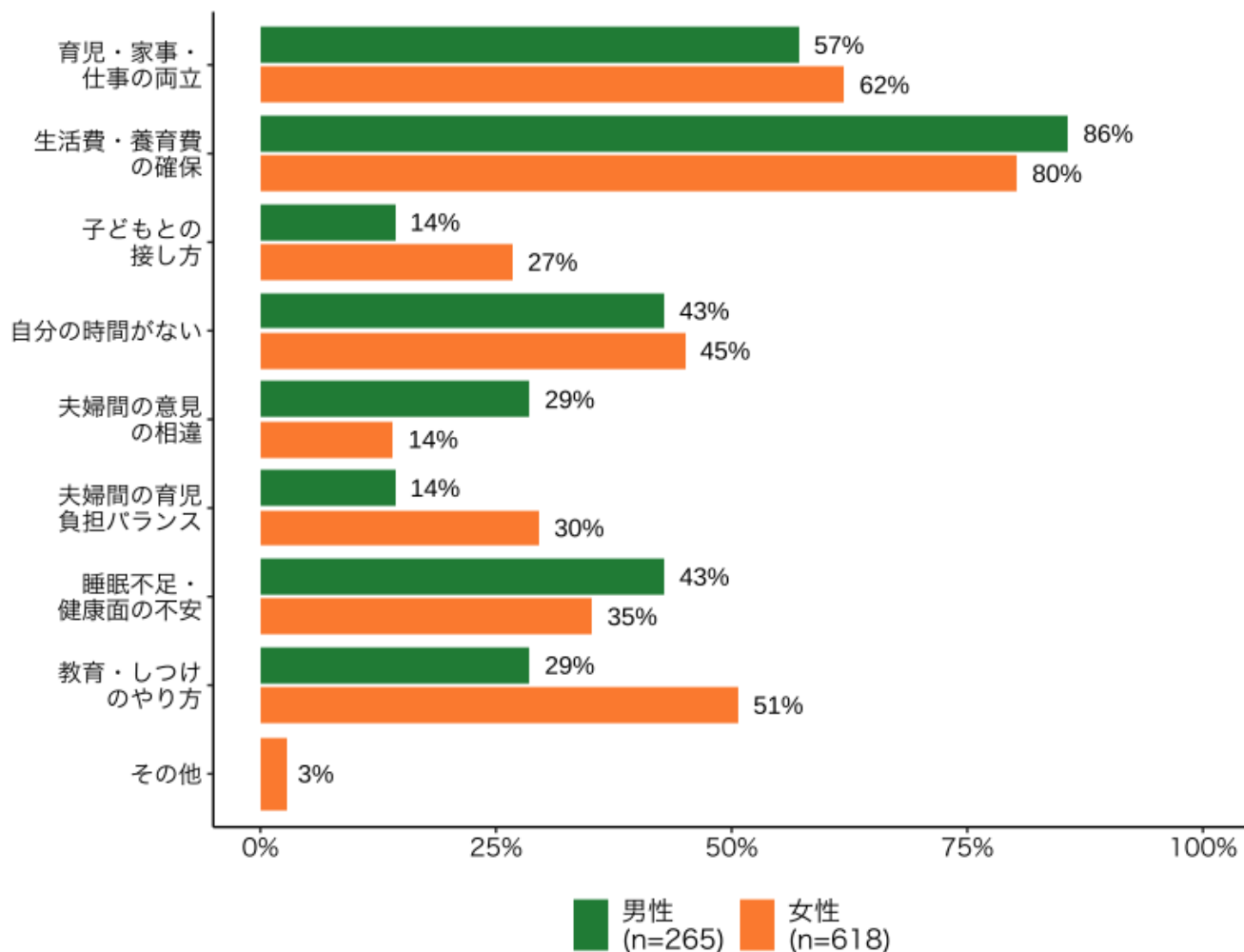
問 50 子育てで大変だと思うこと【問 34 で 2~6 と回答した方のみ】

夫婦共に正社員かどうか

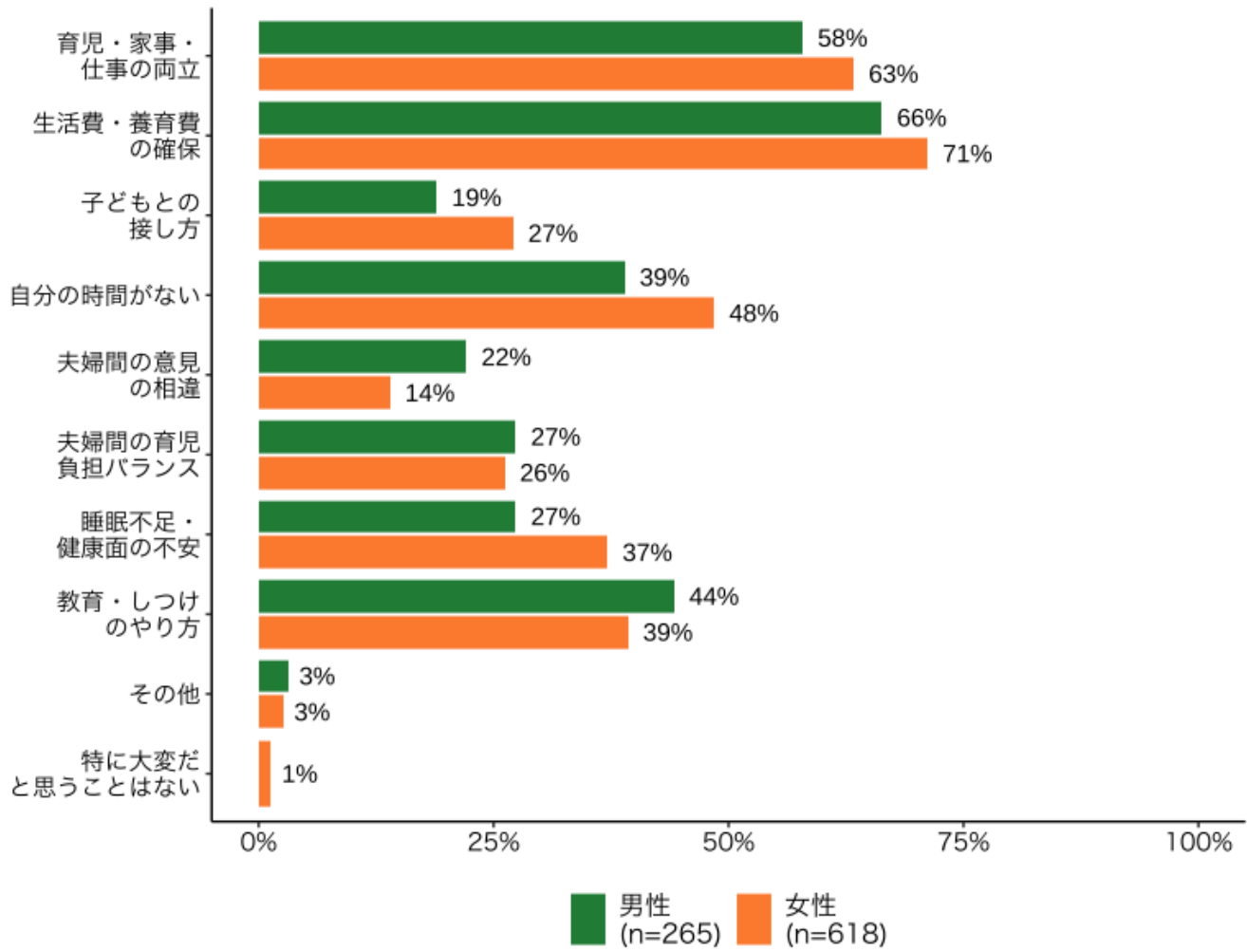


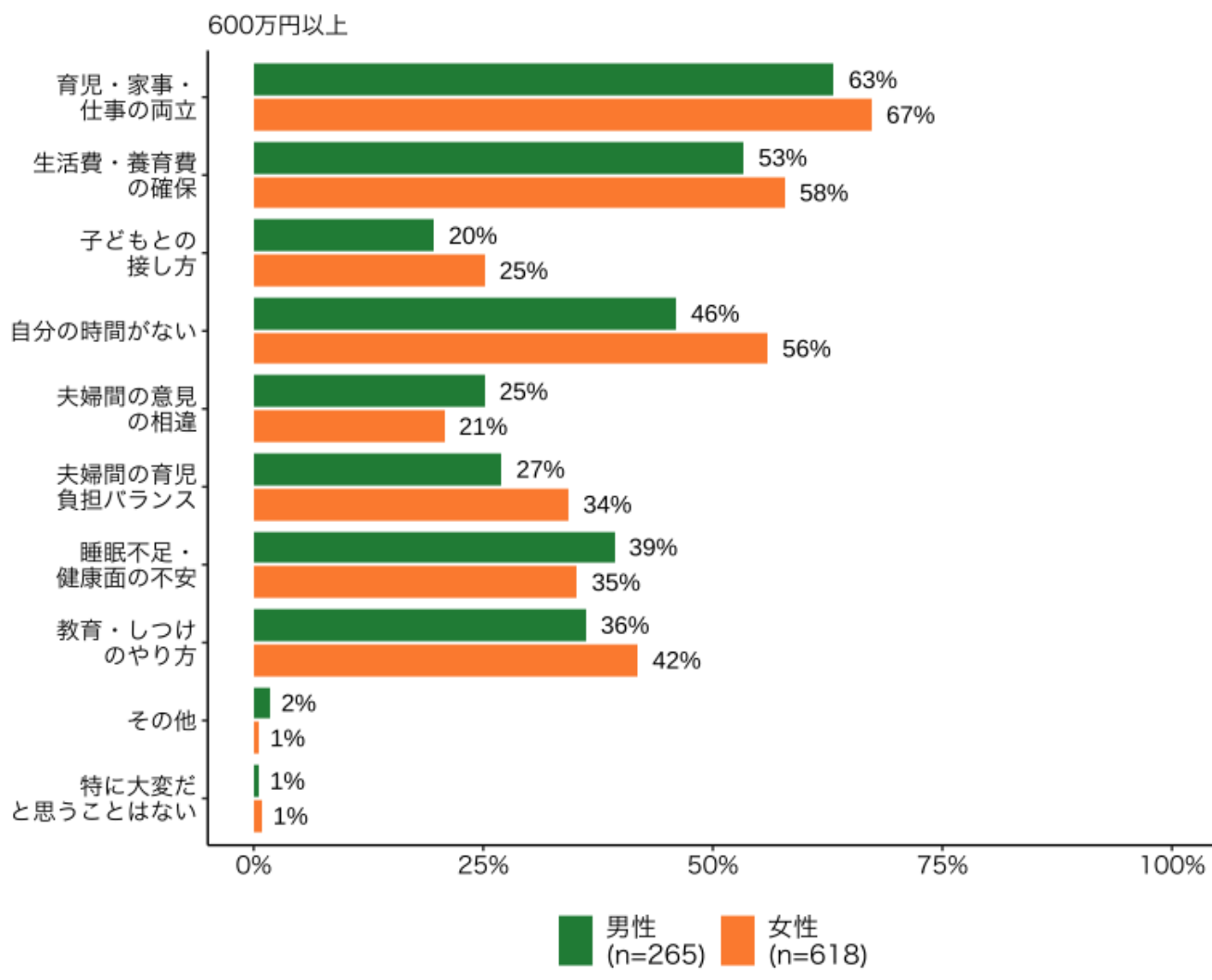
世帯年収別

0-299万円

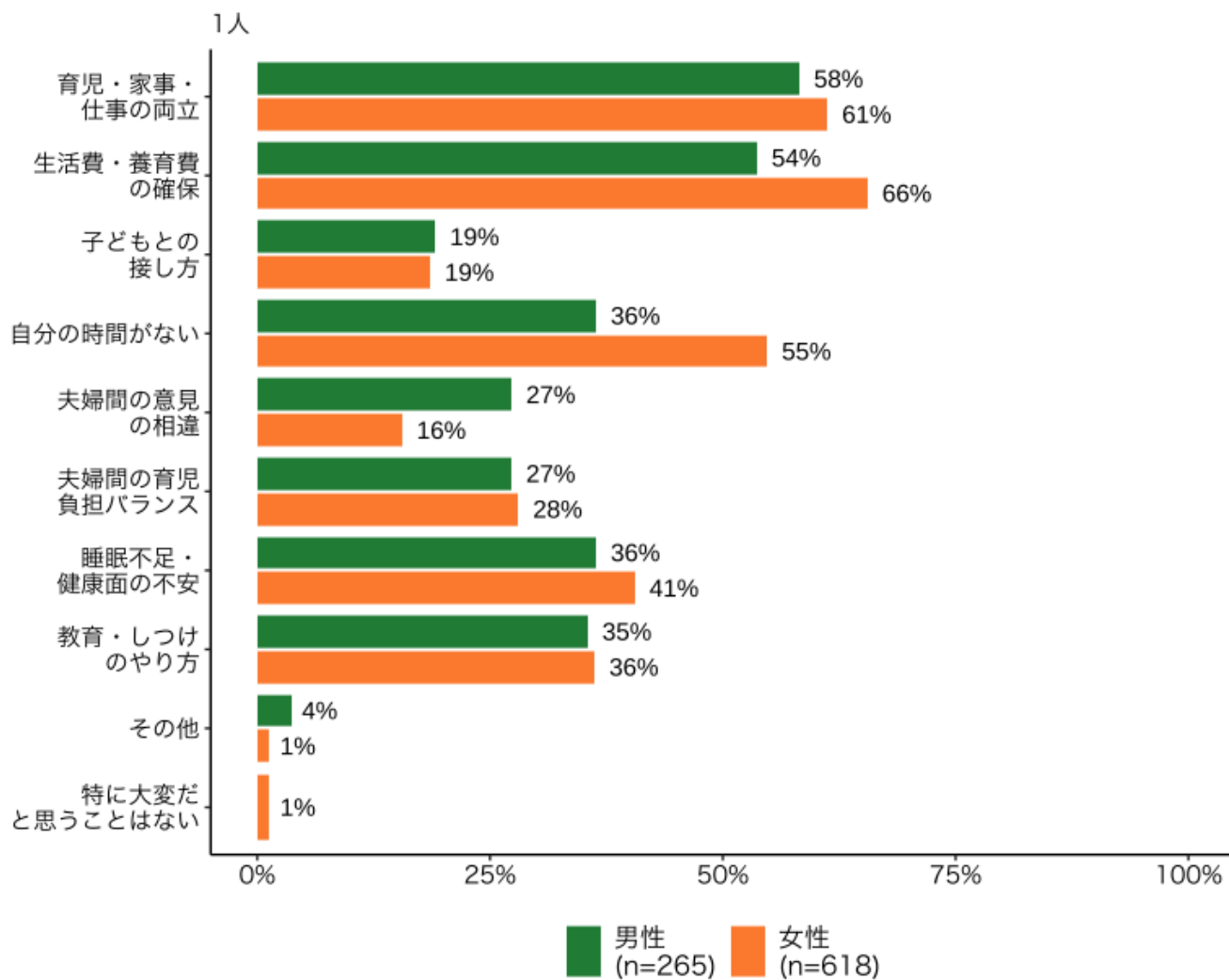


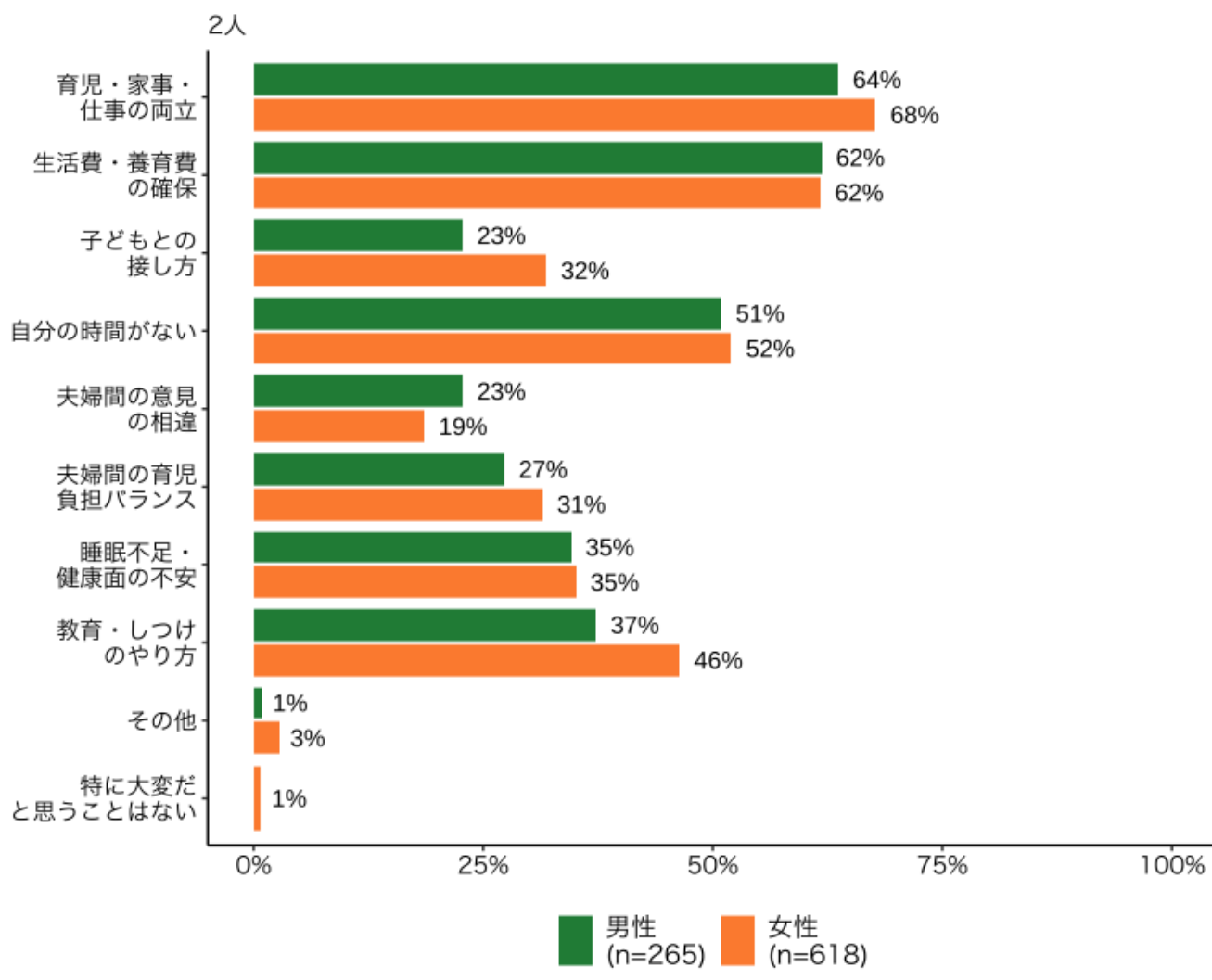
300-599万円

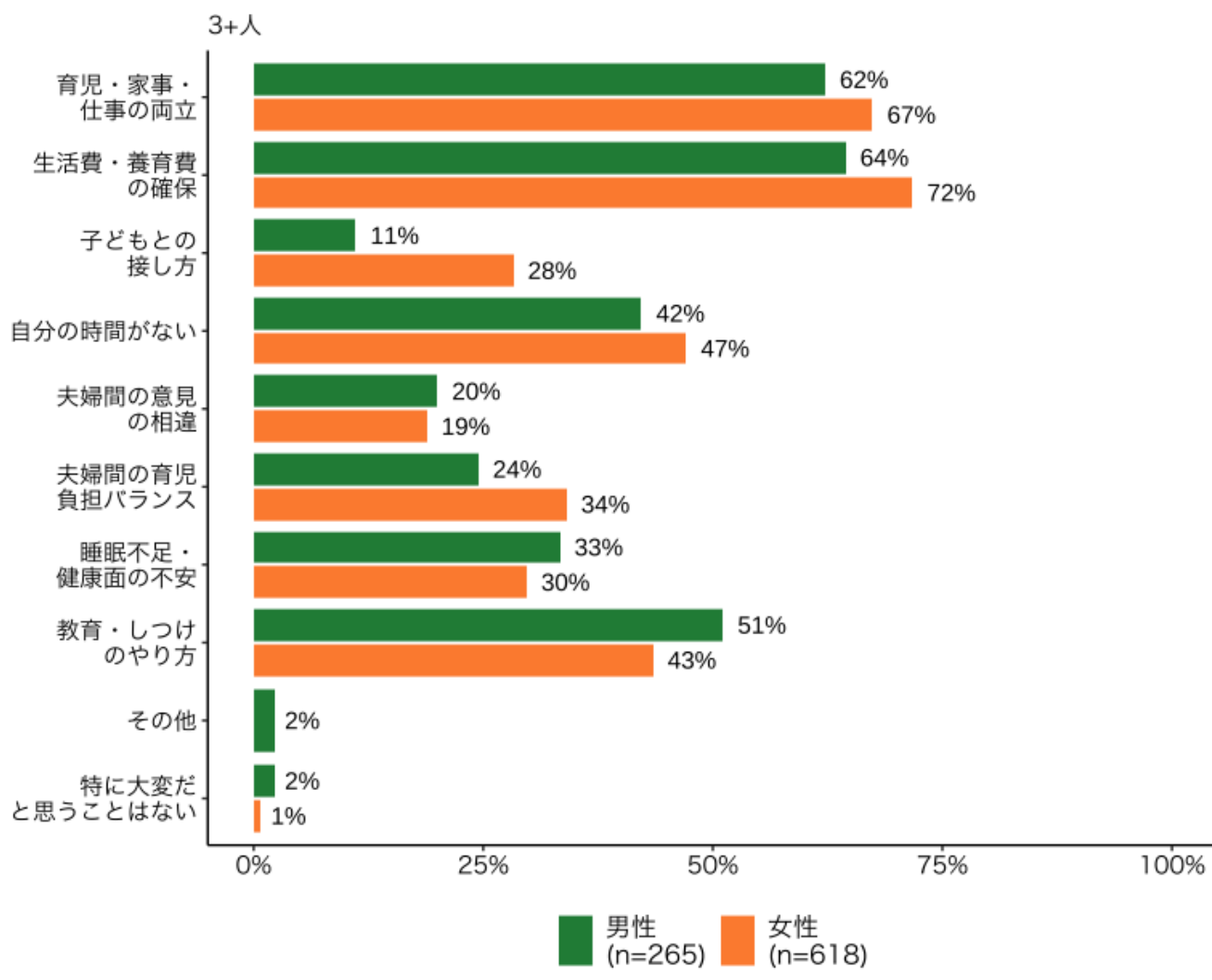




子ども数別

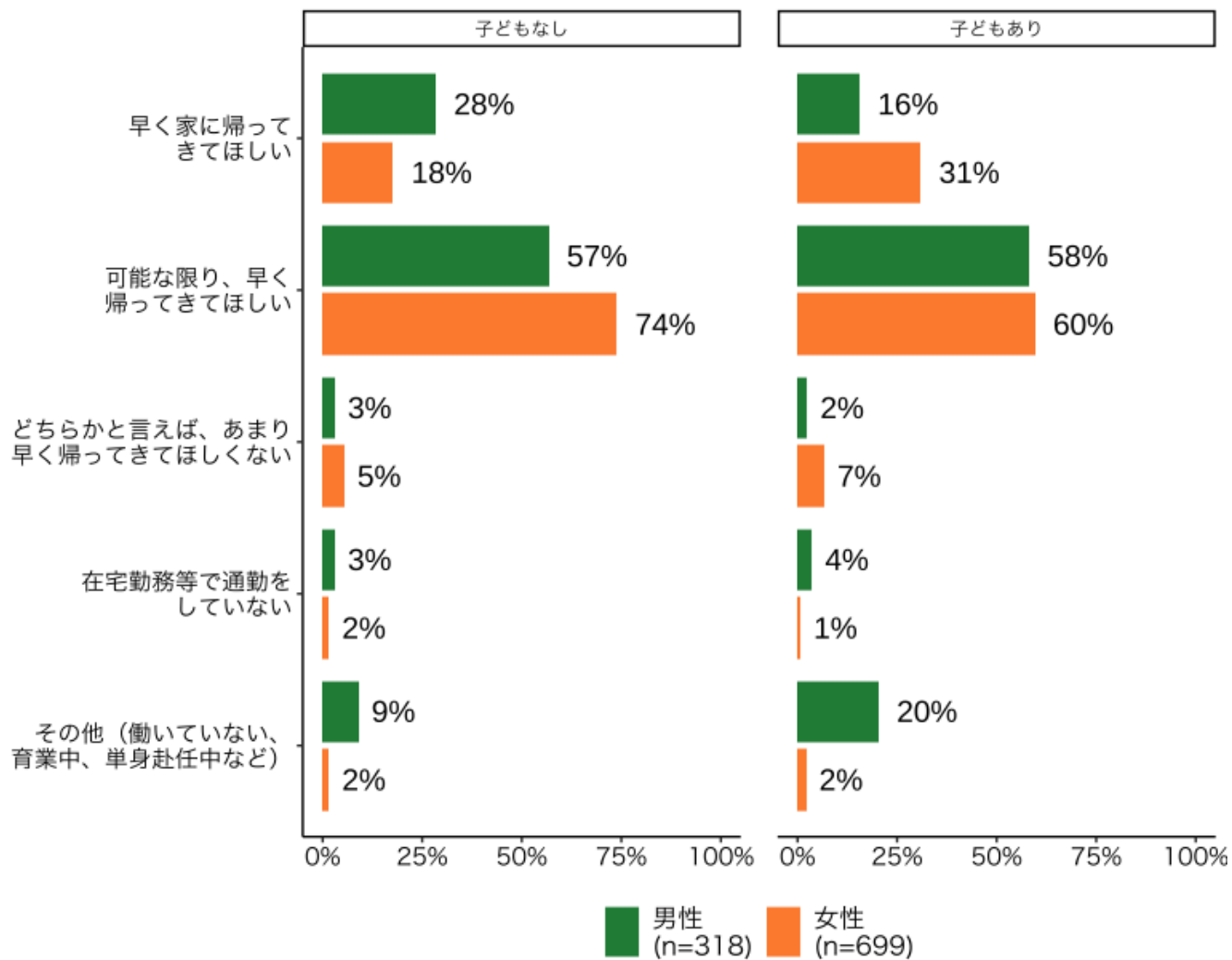




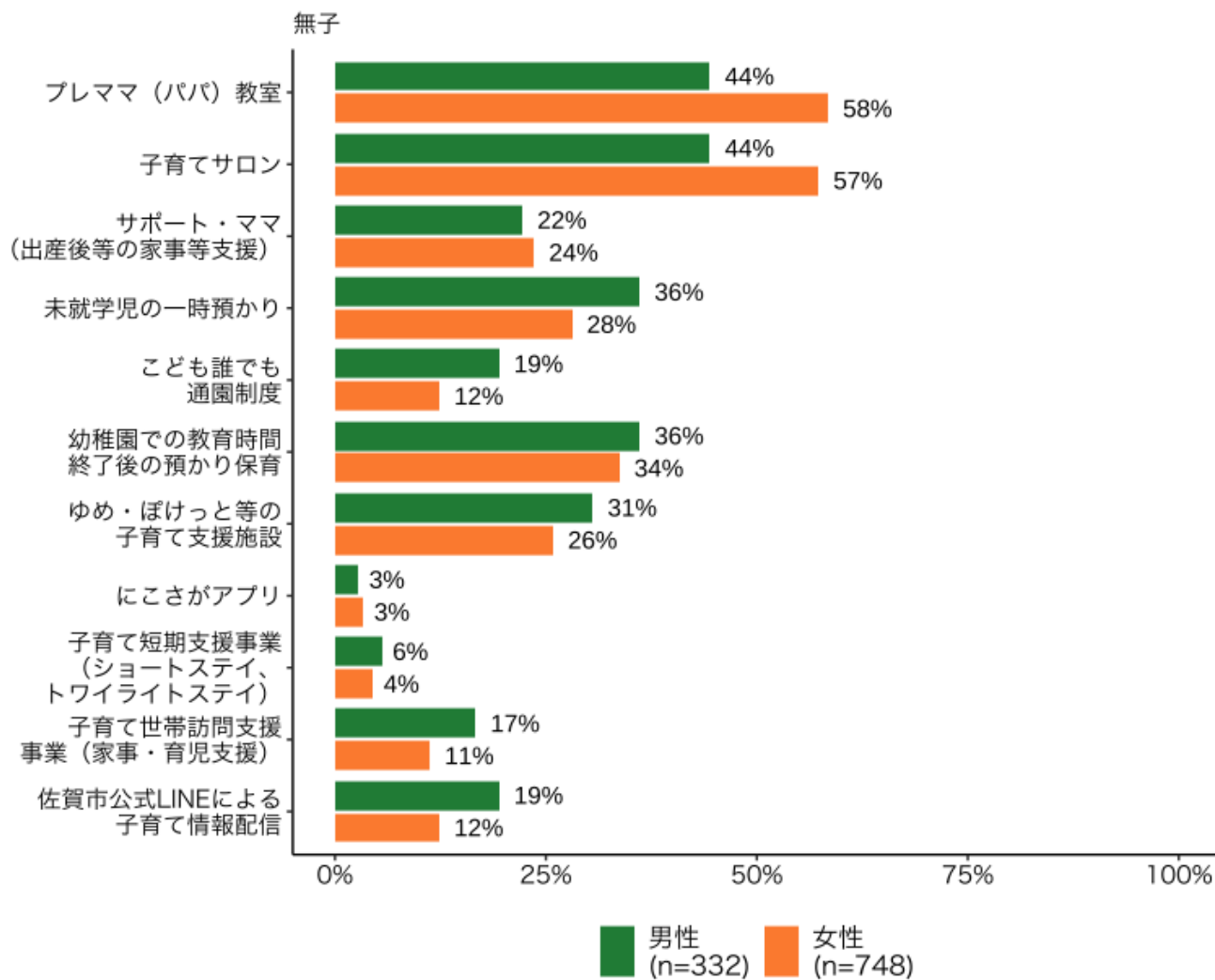


問 51-1 配偶者の帰宅時間【問 14 で 2 と回答した方のみ】

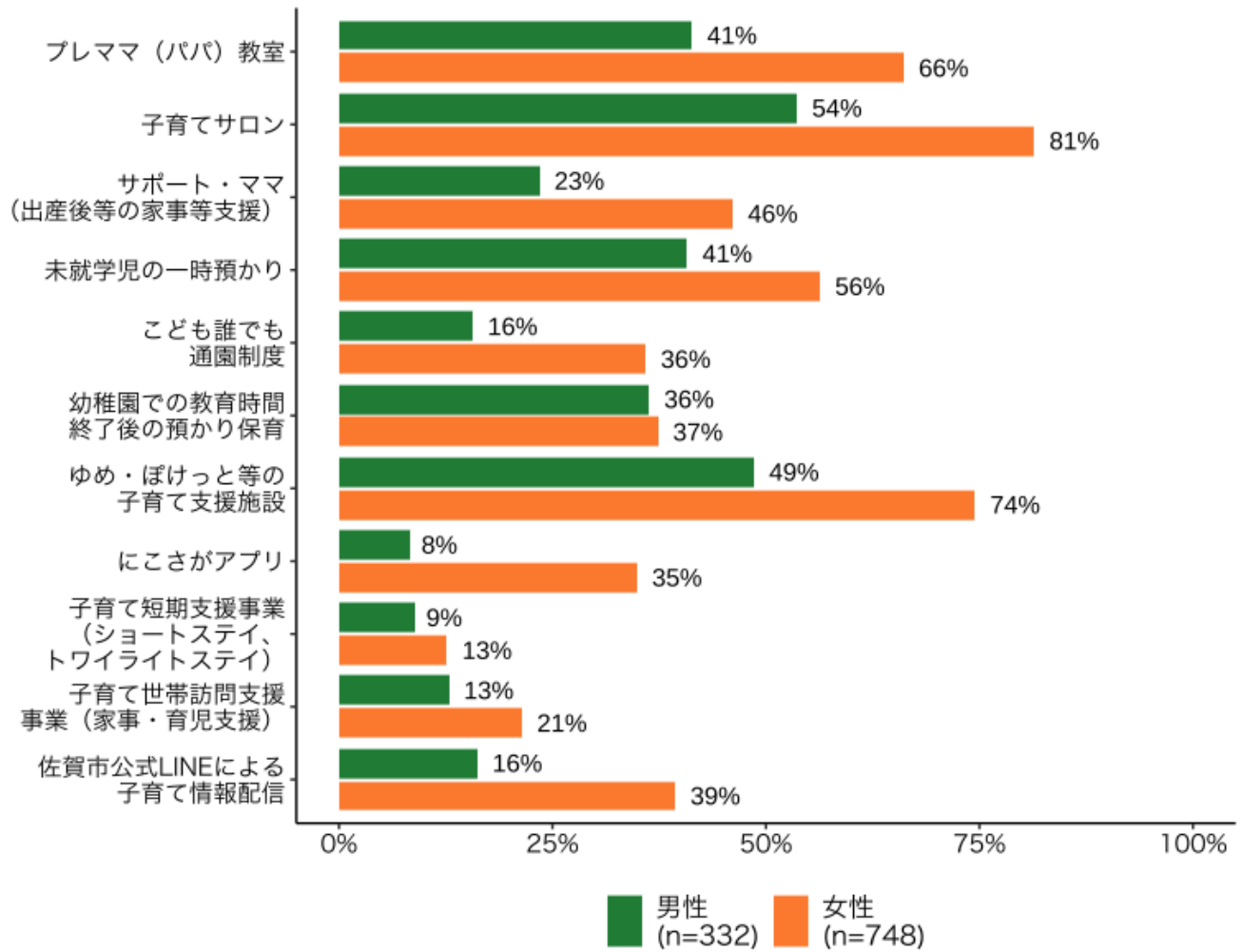
子どもの有無別



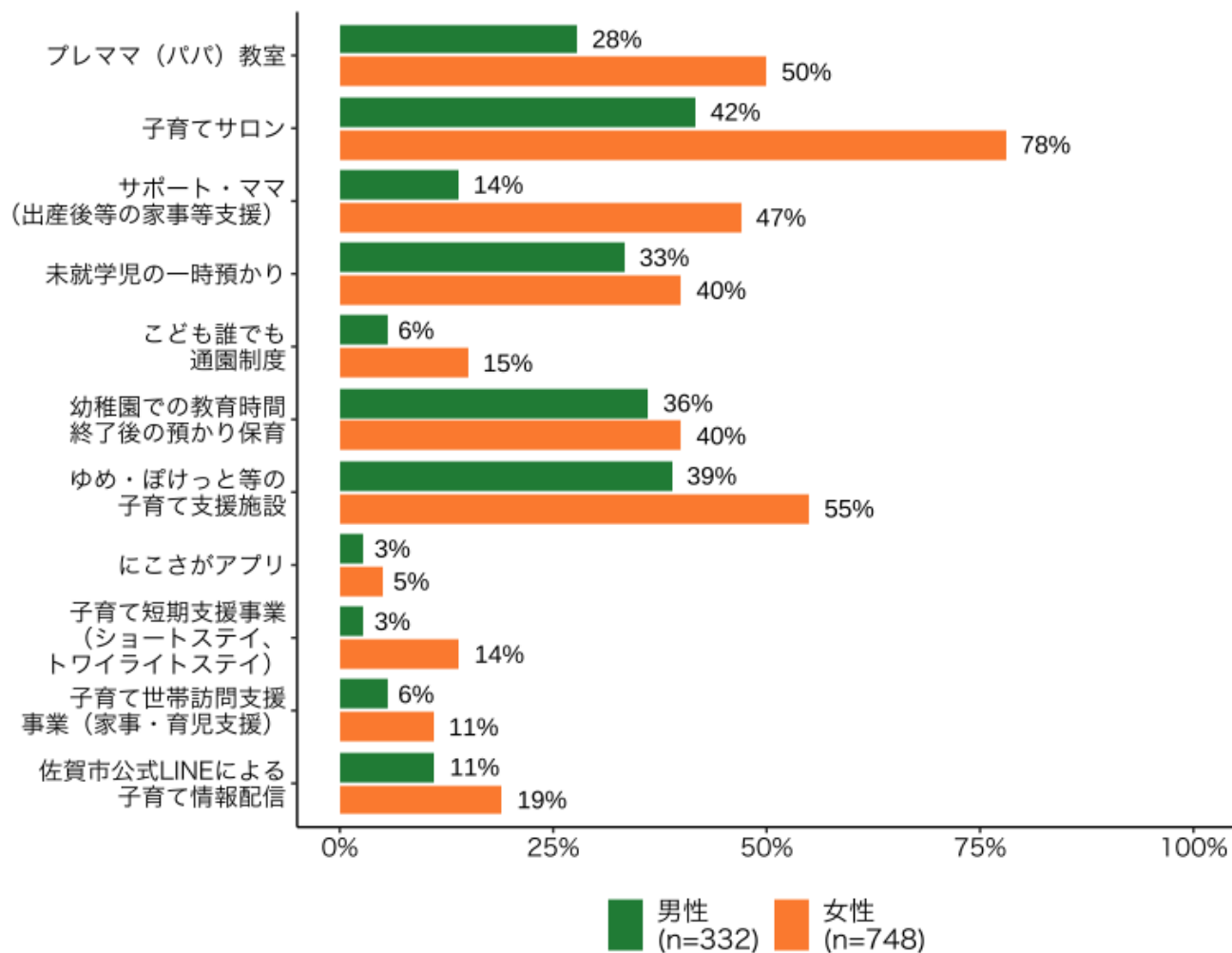
問 52 子育て支援策の認知度【問 14 で 2、または問 34 で 2～6 と回答した方の
 子どもの有無と年齢別



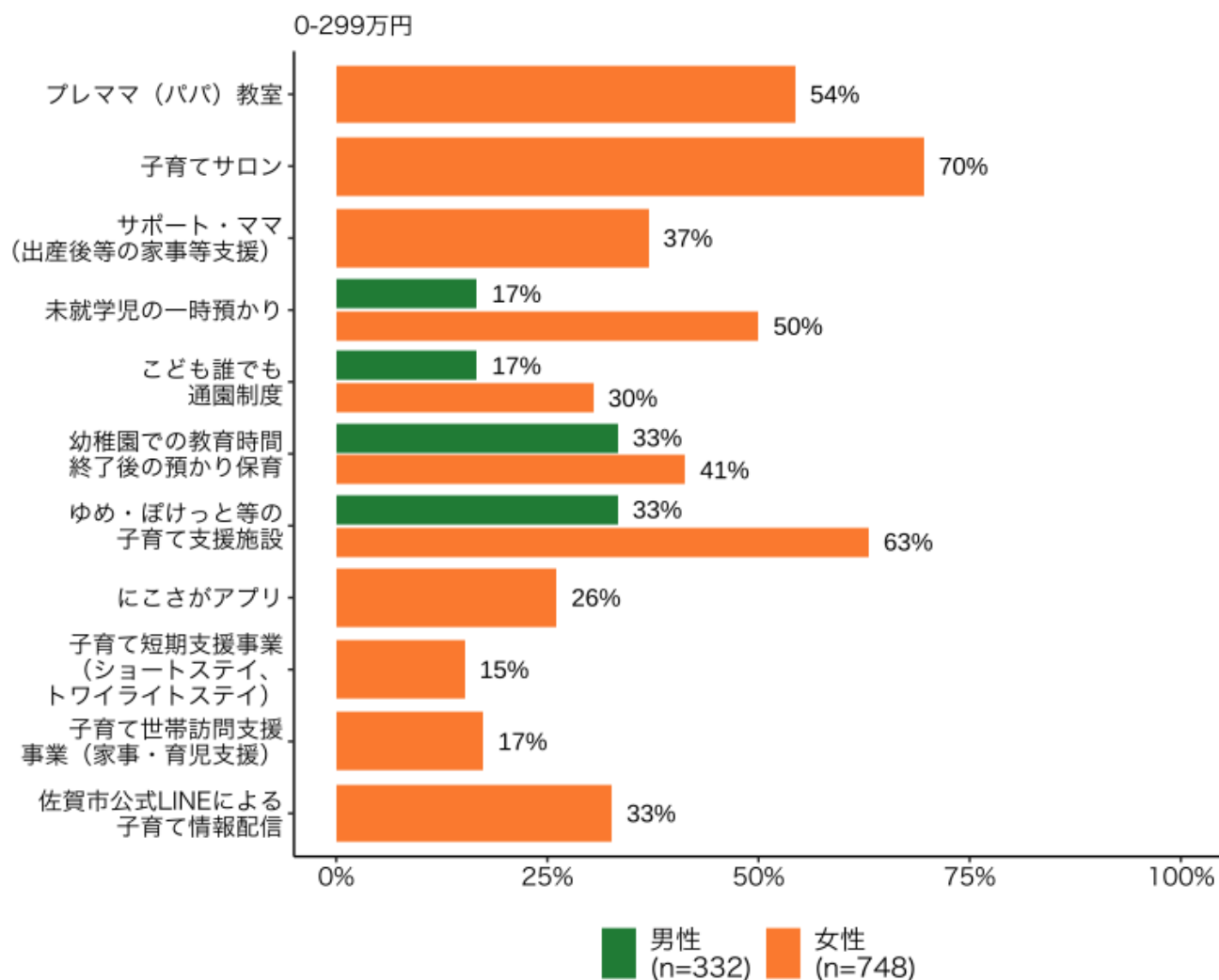
6歳以下の子どもがいる



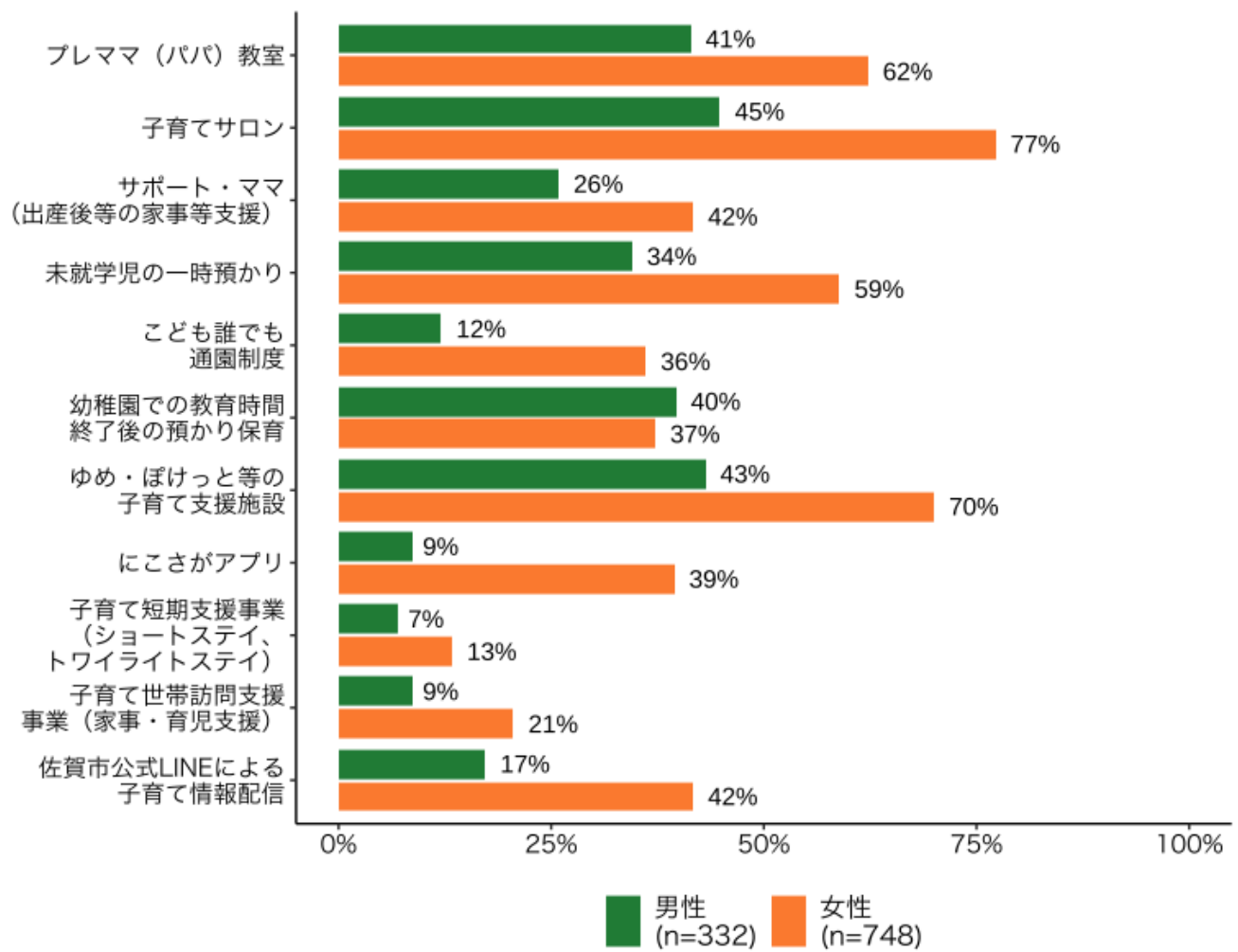
7歳以上の子どものみいる

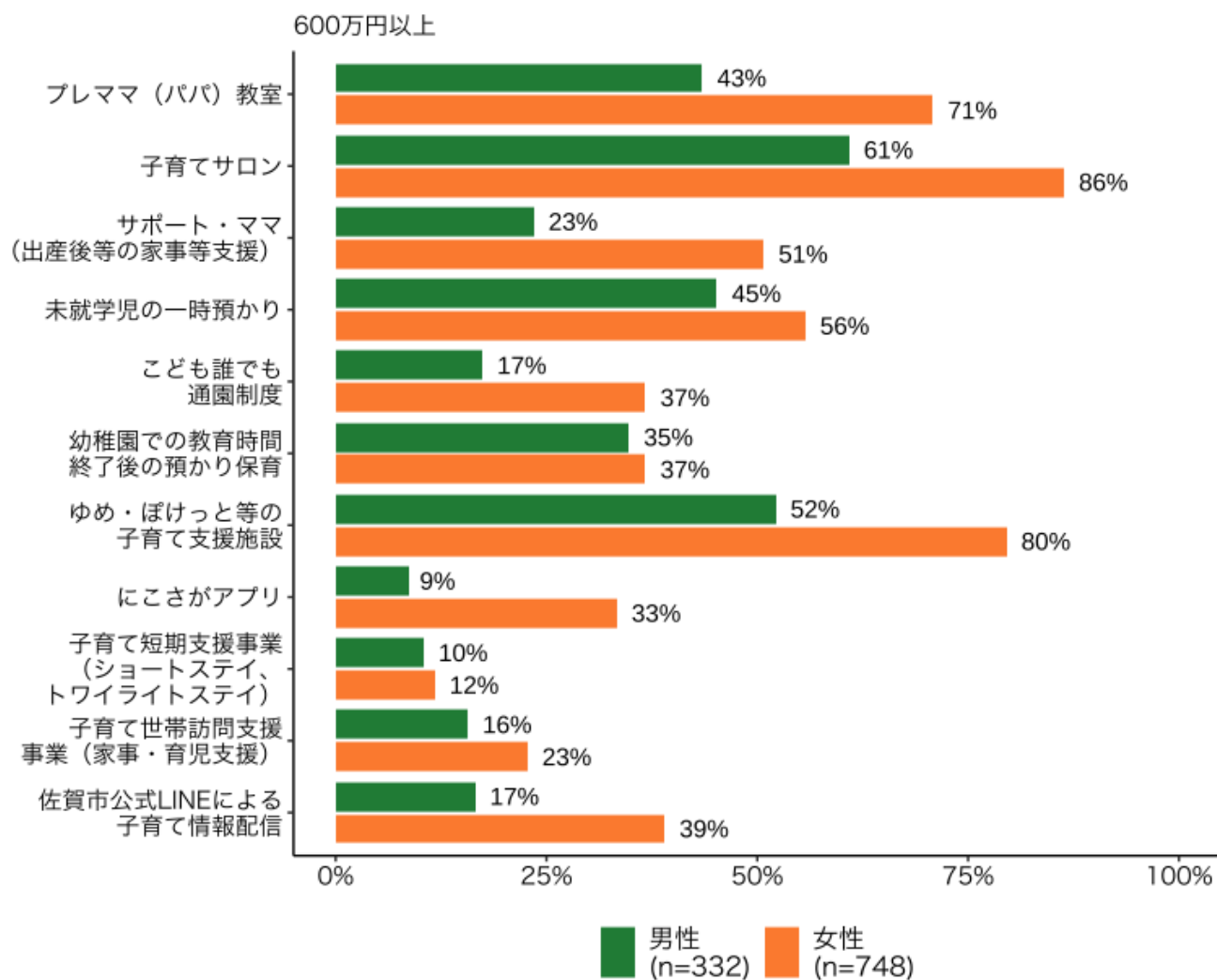


世帯年収別



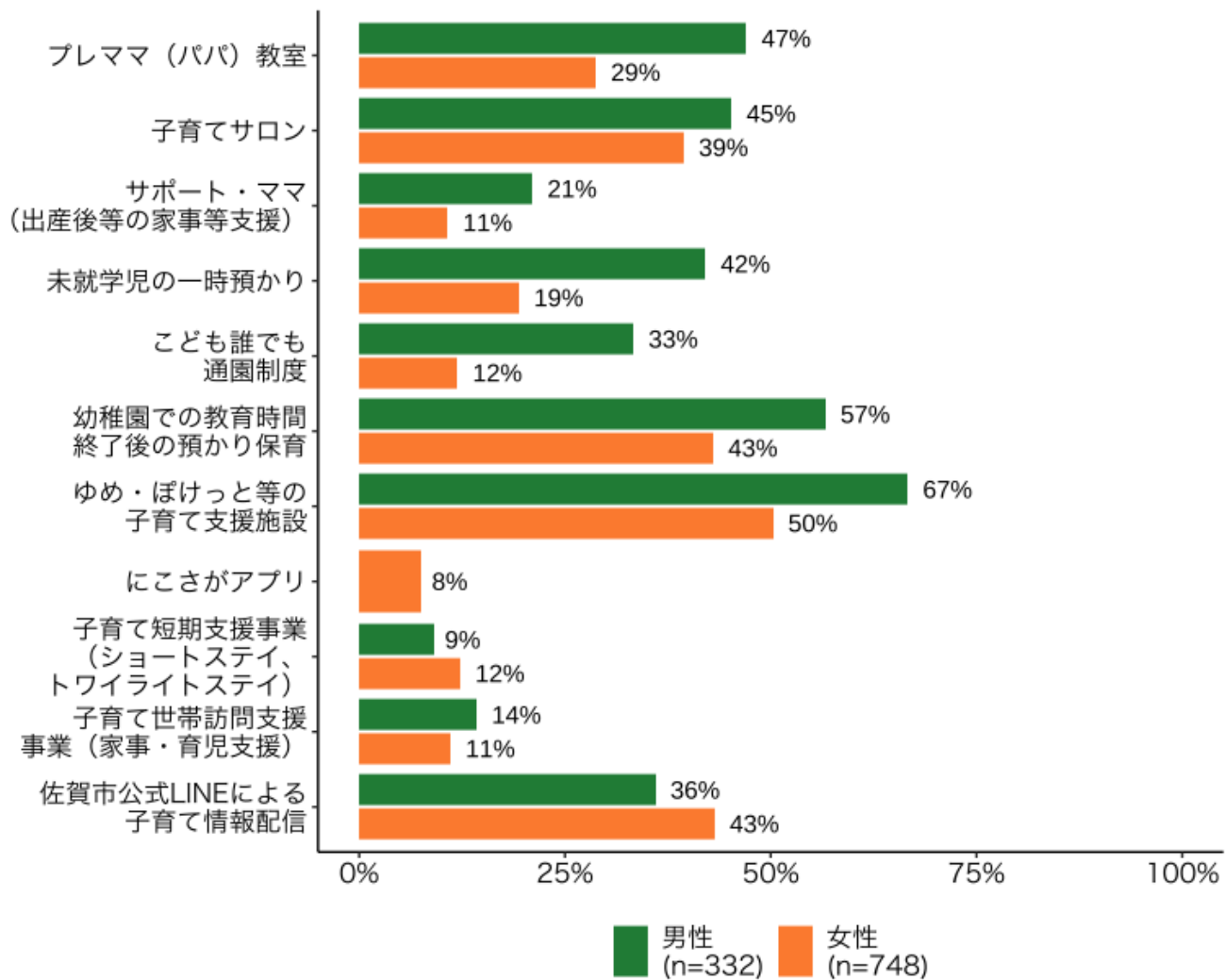
300-599万円





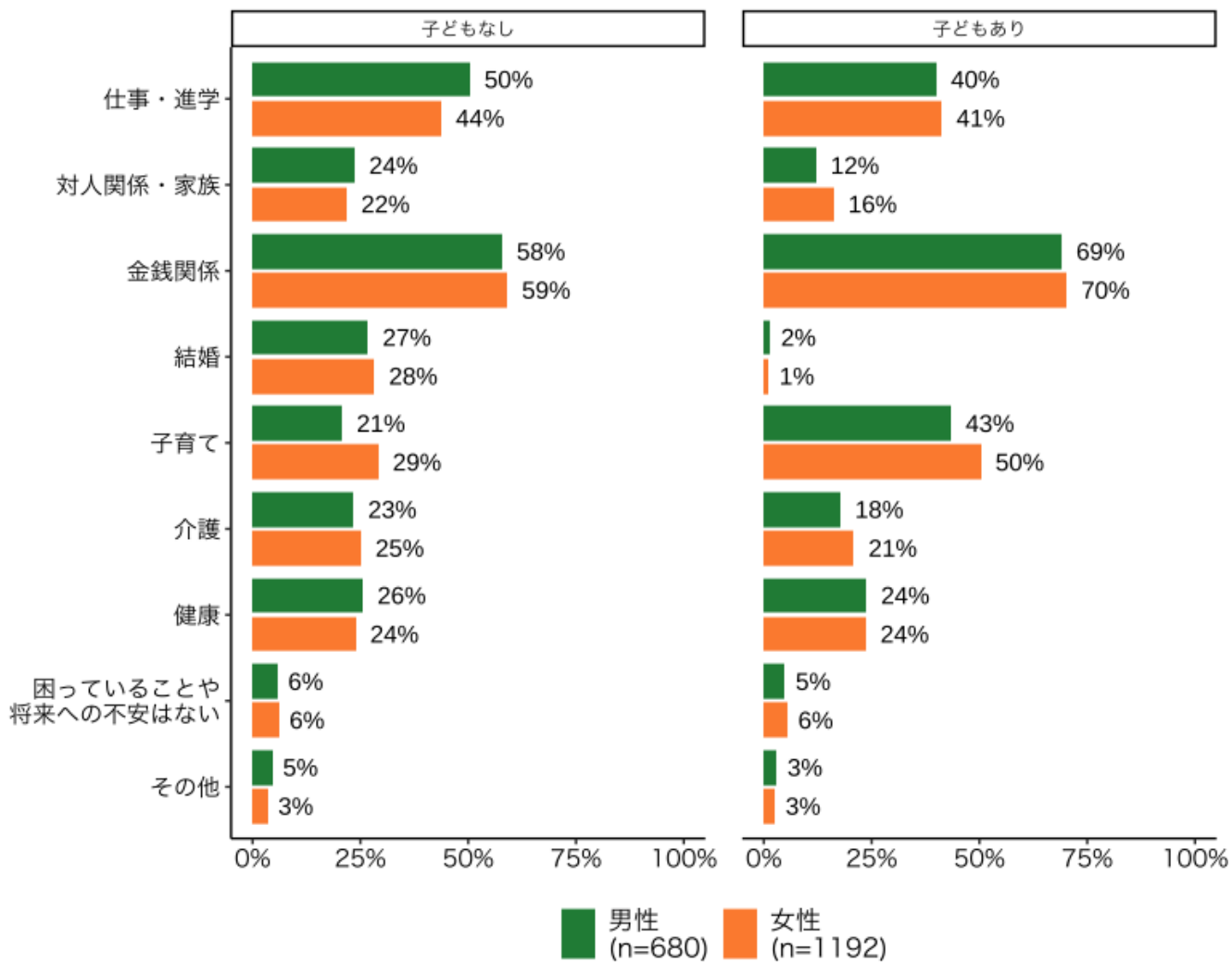
問 53 子育て支援策の満足度【問 14 で 2、または問 34 で 2～6 と回答した方のみ】

各施策を認知している方のみ



問 55 生活で困っていること【全員回答】

子どもの有無別



世帯年収別

0-299万円

